



SILENT ENSEMBLE UNIT

サイレント・アンサンブル・ユニット

ENSEMBLE UNIT

アンサンブル・ユニット

取扱説明書



ごあいさつ

このたびは、ヤマハサイレントアンサンブルユニット／アンサンブルユニットをお買上げいただき、まことにありがとうございます。本製品を正しくお使いいただくために、お使いになる前に、本書をよくお読みください。お読みになったあとは、必ず保管してください。

本製品について

ヤマハサイレントアンサンブルユニット／アンサンブルユニットは、ヤマハアップライトピアノに、ピアノの演奏を録音・再生できる「自動演奏機能」や、内蔵電子音源の豊富な音色を使いさまざまな楽器パートを加えて演奏できる「アンサンブル機能」などをプラスできる画期的なユニットです。さらに、サイレントアンサンブルユニットには、ピアノの音を消してピアノ電子音をヘッドフォンで聴きながら演奏できる「サイレント機能」も内蔵しています。本書を参考にして十分にご活用いただき、ピアノを中心とした幅広い音楽の世界をお楽しみください。

表記上のご注意

サイレントアンサンブルユニットとアンサンブルユニットでは、機能やディスプレイの表示に一部違いがあります。本書では、それぞれの機種別の機能やディスプレイの表示が異なる場合、以下のようなマークによって区別し、ご説明しております。あらかじめご注意ください。

SEU =サイレントアンサンブルユニットに関するもの

EU =アンサンブルユニットに関するもの

● 付属品をご確認ください

- * リモコン.....1個
- * リモコン用電池.....単3×2本
- * ステレオヘッドフォン (**SEU** のみ)1個
- * オーディオケーブル.....1本
- * 試聴用ソフト.....1枚
- * ブランクディスク.....1枚
- * 取扱説明書 (本書)

● 設置について

設置にあたっては、以下の場所を避けてください。

- ・ 窓ぎわなど、直射日光のあたる場所
- ・ 暖房器具のそばなど高温の場所、多湿の場所
- ・ ホコリの多い場所
- ・ 振動の多い場所

煙やスプレーなどがかからないようにしてご使用ください。



SILENT ENSEMBLE UNIT

サイレント・アンサンブル・ユニット

ENSEMBLE UNIT

アンサンブル・ユニット



安全上のご注意	6
必ずお読みください	8
スイッチボックスと電源について	8
フロントパネルについて	10
リアパネルについて	12
リモコンについて	14
フロッピーディスクについて	16
メモリディスクとフロッピー	18
様々なフォーマット	19
機能と操作のページ	20
消音演奏	21
消音演奏	22
リバーブの設定	23
鍵盤動作のキャンセル	24
最大同時発音数の切り替え	25
音色モード	27
音色モード	28
再生	31
再生のしかた	32
再生のしかた	32
選曲	34
早戻し・早送り	35
サウンド早戻し・早送り	36
再生時の調節	37
音量調節	37
移調調節	38
テンポ調節	39
パートキャンセル	40
パートキャンセル	40
ペダルキャンセル	41
ペダルカウント	42
ペダルカウントの再生	42
アンサンブル曲の再生	44
再生	44
マスターバランス	45
ピアノパートセレクト	46
アンサンブルパート音色変更	47
内蔵音源機能	48
マスターチューン	48
リピート機能	49
全曲リピート	49
1曲リピート	50
ランダムリピート	51
A-Bリピート	52
リターン&ストップ	53
サーチ機能	54
ダイレクト選曲	54
ダイレクトサーチ	55
メトロノーム	57
メトロノーム機能	58
メトロノームの使い方	58
録音	61
フォーマット	62
フォーマットのしかた	62
録音のしかた	64
基本的な録音のながれ	64
再録音	66
タイトル入力	68
メトロノーム録音	70
LR録音のしかた	72
LR録音(追加録音のしかた)	72
LRセットアップ	74
LRスプリット録音	75
アンサンブルパート録音のしかた	76
アンサンブルパートの録音	76
ピアノパートセット	78
リズムパートの録音	80

いろいろな録音機能	クオンタイズとオーバーダビング	82
	ペダルカウントの録音	84
	録音テンポ変更	86
	MDR機能	87
トラック		89
トラック機能	トラックミックス	90
	トラック移動	92
	トラックコピー	94
	トラック消去	96
	トラック移調	98
ディスク		101
ディスク管理の機能	曲消去	102
	曲コピー	104
	曲並び替え	106
	ディスクコピー	108
	曲フォーマット変換	110
	カウンター変更	112
	ディスクタイプ変換	114
MIDI		117
MIDIセットアップ機能	MIDIセットアップメニュー	118
	Piano Part	119
	MIDI Out	120
	Remote	121
	Local	122
オートセットアップ		123
オートセットアップ機能	オートスタート	124
	スペースプレイ	126
リセット		127
リセット機能	リセット機能の使い方	128
資料		131
内蔵音源の音色一覧表		132
接続について(AUX端子、TO HOST端子)		136
MIDI Implementation Chart		137
仕様		138
よりよくご利用いただくために		139
取り扱いについて		140
エラーメッセージについて		141
まずお調べください		142
索引		144
保証とサービスについて		146
.....		
活用ガイド		
ソフトについて		26
音源のご紹介		30
アンサンブル曲とは...		43
楽しみ方を広げるLR録音		60
トラック、パート、チャンネル		79
ディスクの使いこなし		100
フォーマットについて		116
TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携		130

安全上のご注意 (必ずお守りください)

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	---

△ 記号は、**危険、警告または注意**を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

○ 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、**行為を強制または指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※お読みになった後は、使用されるかたがいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に電子音が出なくなったり、異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電の恐れがあります。



電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。

感電やショートの原因があります。



本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

⚠️ 注意

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

- ⊘ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ❗ 電源プラグを抜く時は、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。
- ⊘ タコ足配線をしなさい。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりすることがあります。
- ⊘ 電源コードやプラグが痛んだときは使用しない。また、長時間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。
- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷の恐れがあります。
- ⊘ 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- ⊘ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がケガをした原因になります。
- ❗ 本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードを傷めたり、お客様が転倒したりする恐れがあります。
- ❗ 本機を移動するときは、引きずらない。
床を傷つける恐れがあります。

- ❗ 本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。
ケガをする恐れがあります。
- ❗ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。
鍵盤蓋に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。
- ❗ 地震のときは、本機から離れる。
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。
- ⊘ 本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本機が破損する原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間使用しない。
聴覚障害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合や、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

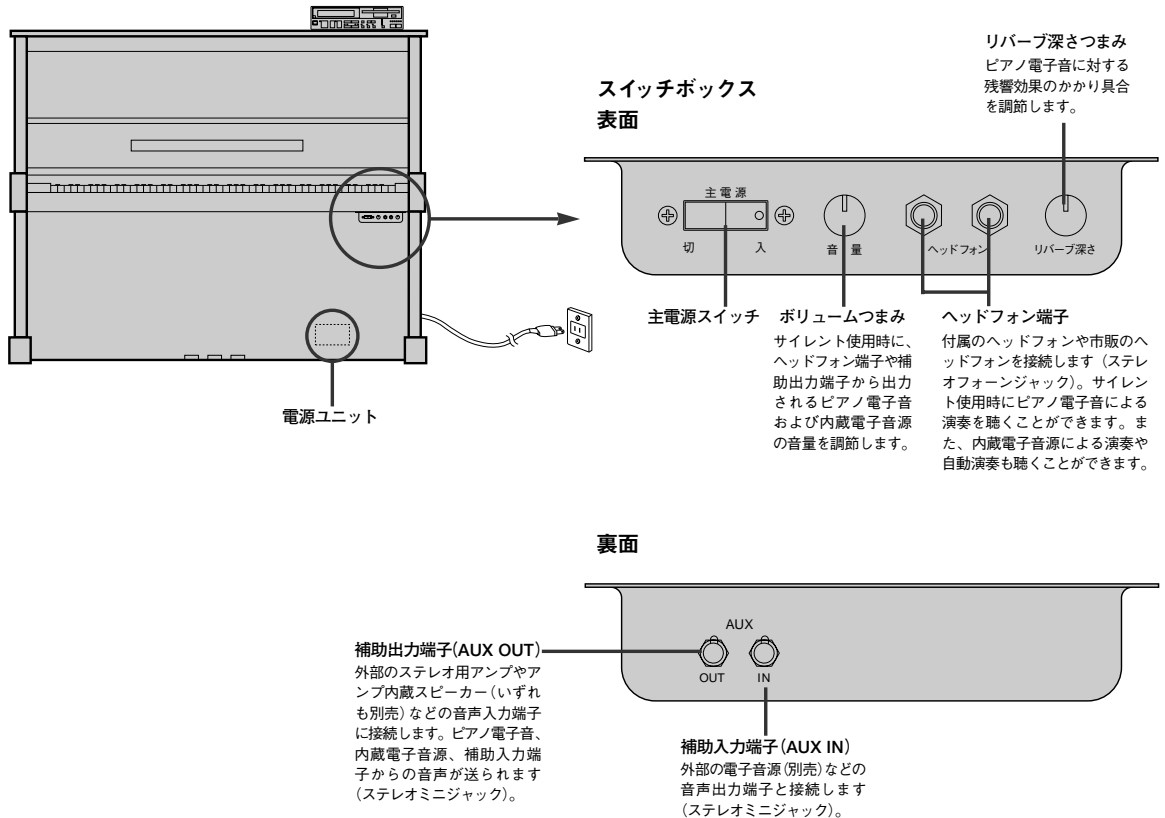
長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

*この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

スイッチボックスと電源について

SEU サイレントアンサンブルユニット

●スイッチボックス

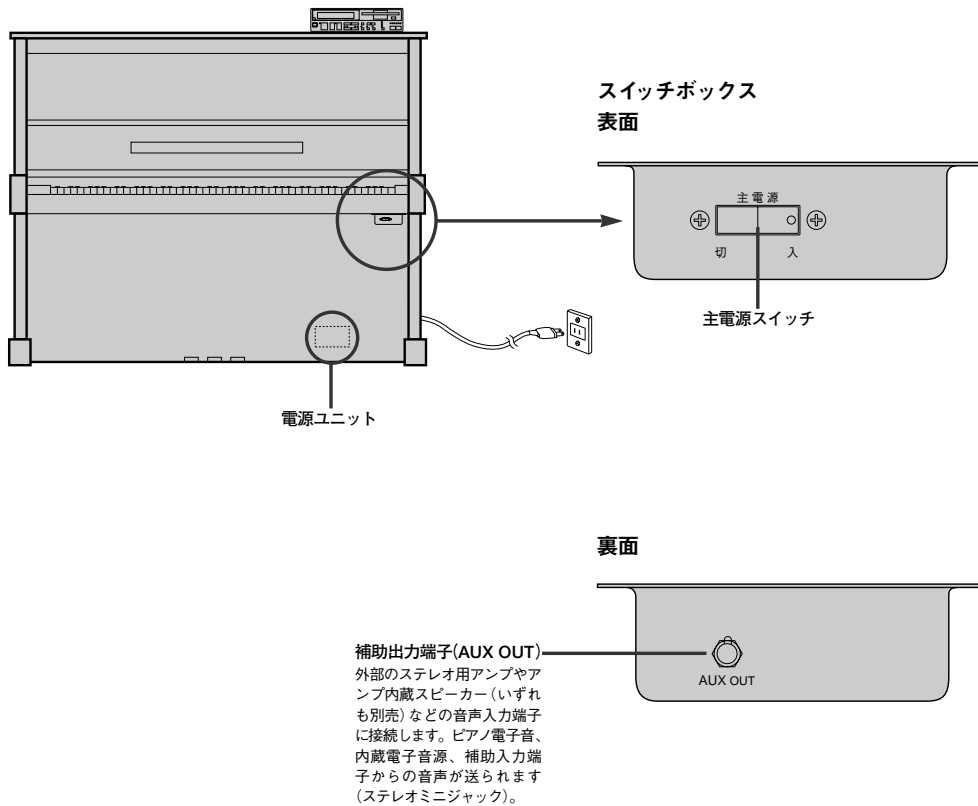


●電源について ~サイレントアンサンブルユニット/アンサンブルユニットには電源をON/OFFする個所が2つあ

- 1 電源プラグをコンセントに差し込み、電源ユニットの主電源スイッチをONにします。
- 2 サイレント機能、自動演奏機能、内蔵音源をご使用になる際は、主電源スイッチがONになっていることをご確認のうえ、コントロールパネルの電源ボタンをONにします。これらの機能を使い終わったら、コントロールパネルの電源ボタンをOFFにしてから主電源スイッチをOFFにしてください。
- 3 長期間ご使用にならない時は、コントロールパネルの電源ボタンがOFFになっていることをご確認のうえ、主電源スイッチをOFFにした後、さらに電源プラグをコンセントから抜いてください。

EU アンサンブルユニット

●スイッチボックス



ります～

《ご注意》

- 主電源スイッチや電源ボタンをOFFにした後、再度ONにする場合は、5秒以上の間隔をあけて行ってください。
- またミュート状態で電源ユニットの主電源スイッチをOFFにすると、ミュート状態から元に戻らなくなってしまいます。このような場合は、改めて主電源スイッチ→電源ボタンの順で電源を入れ直し、パネルボリュームを上げてミュート状態を解除してください。
- コントロールパネルの電源ボタンを切り、パネル表示が消えてから主電源をOFFにしてください。主電源を先に切るとパネルボリュームの値などが記憶されません。

フロントパネルについて

各ボタンを確認しましょう

ディスプレイ ●

曲番号、曲やフロッピーのタイトル、機能メニュー、内蔵音源の設定、エラーメッセージなどを表示します。

電源ボタン ●

電源のON/OFF。

プレイ/ポーズボタン ●

演奏の再生、一時停止(ポーズ)、演奏再開(ポーズ解除)。録音のスタートにも使います。

ストップボタン ●

演奏を停止させます。再生以外の機能を解除する時にも使います。

録音ボタン ●

録音待機に入ります。

選曲/早戻し・早送りボタン ●

選曲、早戻し・早送り、サウンド早戻し・早送りなどをおこないます。

パートセレクトボタン ●

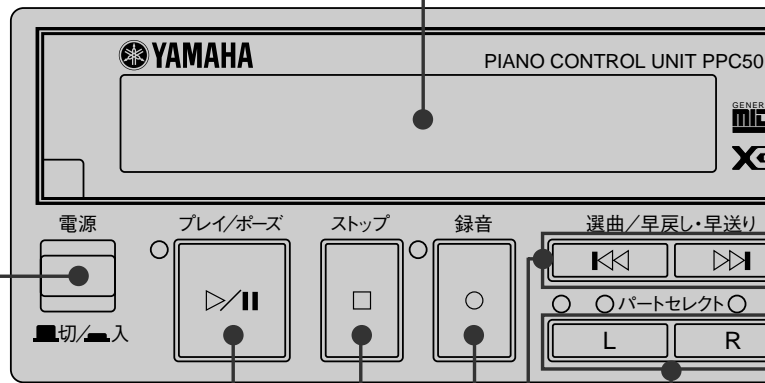
片手ずつの再生が行えるL(左手) R(右手) 対応曲で、キャンセルするパートを選びます。再生時は緑に、録音時は赤く点灯します。

カーソルボタン ●

機能・設定項目の選択。タイトル入力時のカーソル移動やディスプレイの次画面を呼び出す時にも使います。

セットボタン ●

機能・設定項目・設定値を確認します。

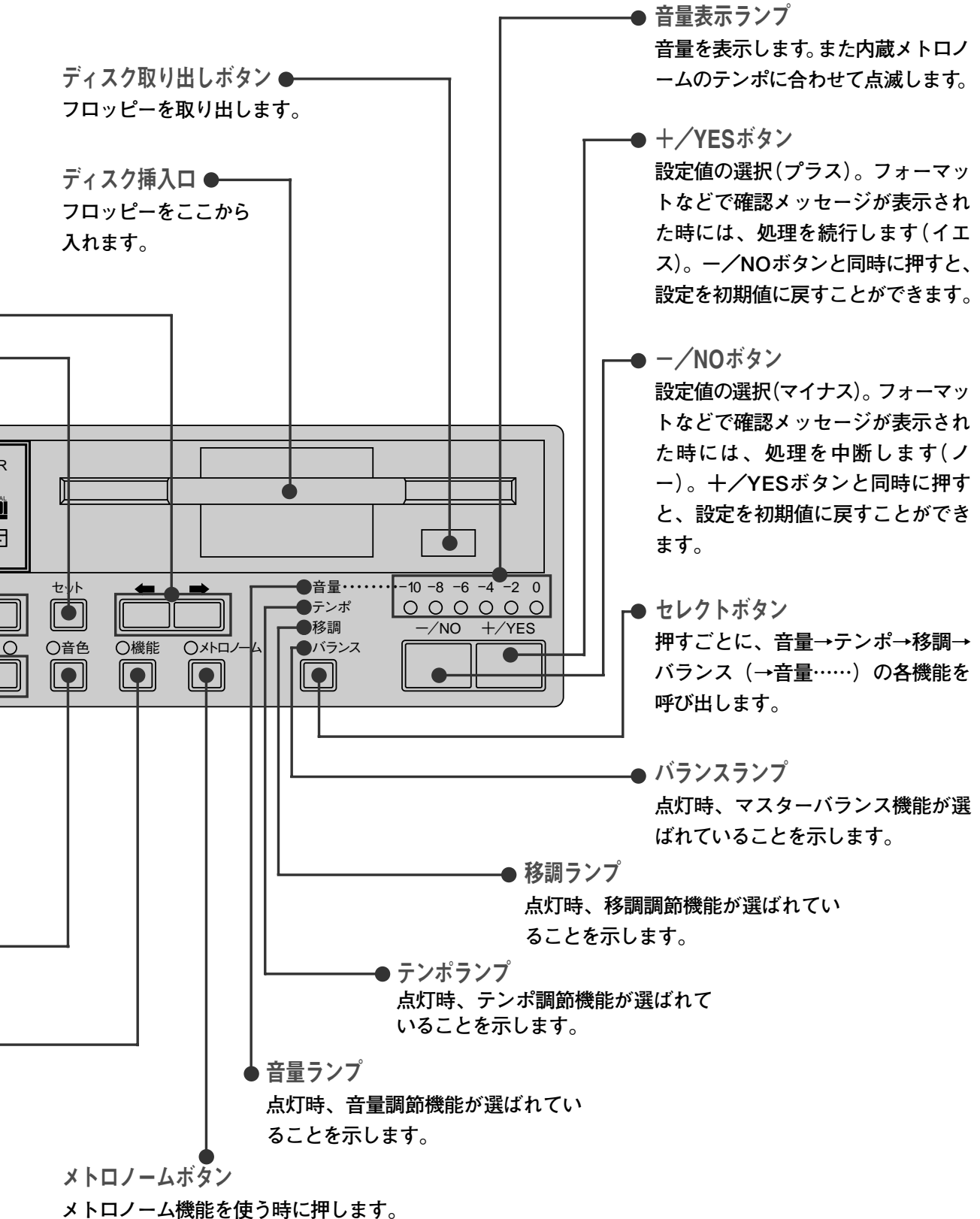


音色ボタン ●

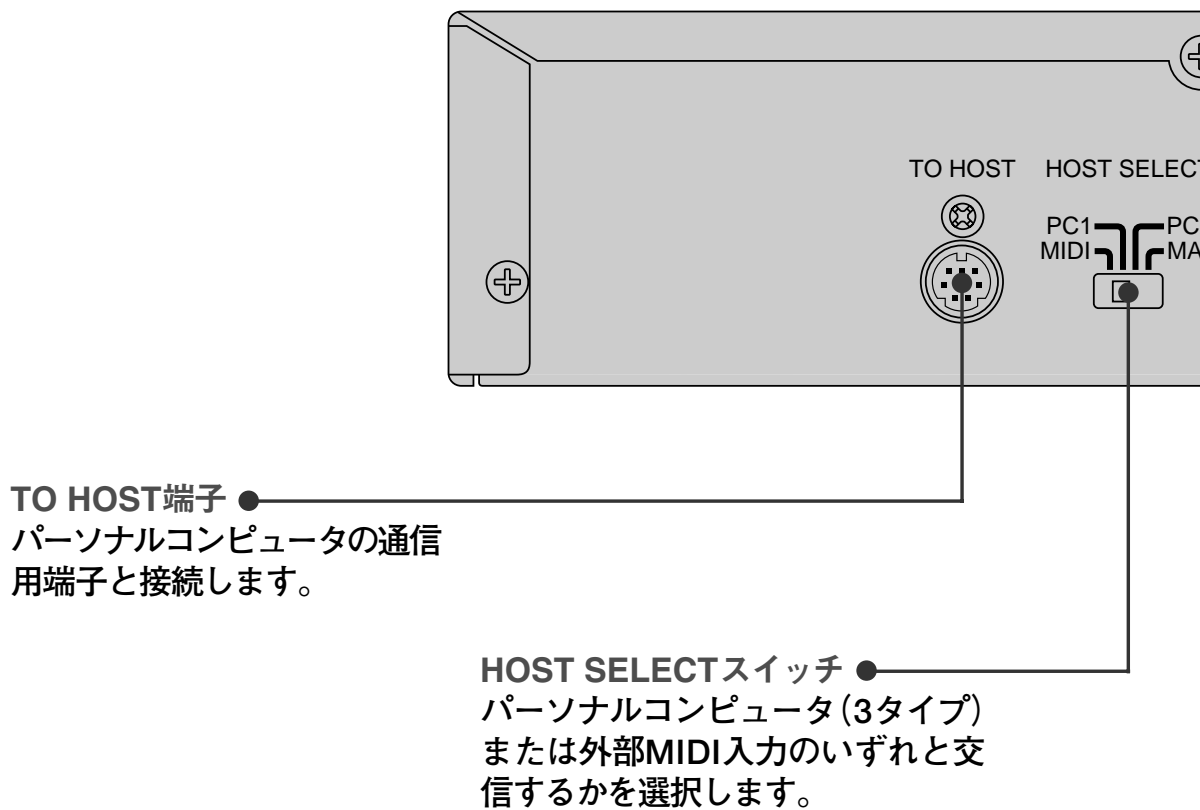
内蔵音源の音色に関する機能を呼び出します。

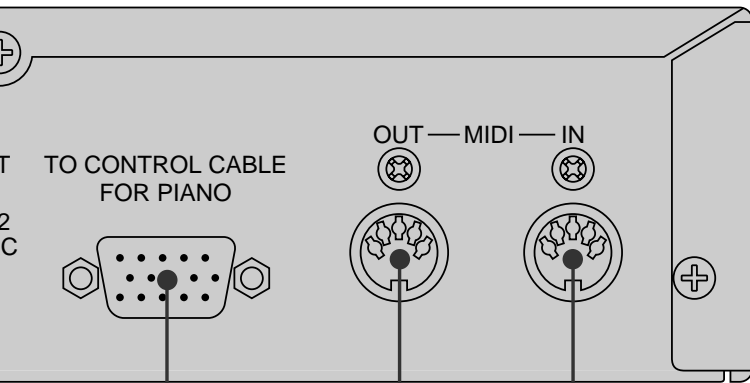
機能ボタン ●

- 1: ディスク機能を呼び出す。
- 2: MIDIに関連した機能を呼び出す。
- 3: 音源のチューニング機能を呼び出す。
- 4: サイレント機能を呼び出す。(SEUのみ)
- 5: トラック機能を呼び出す。
- 6: リセット機能を呼び出す。



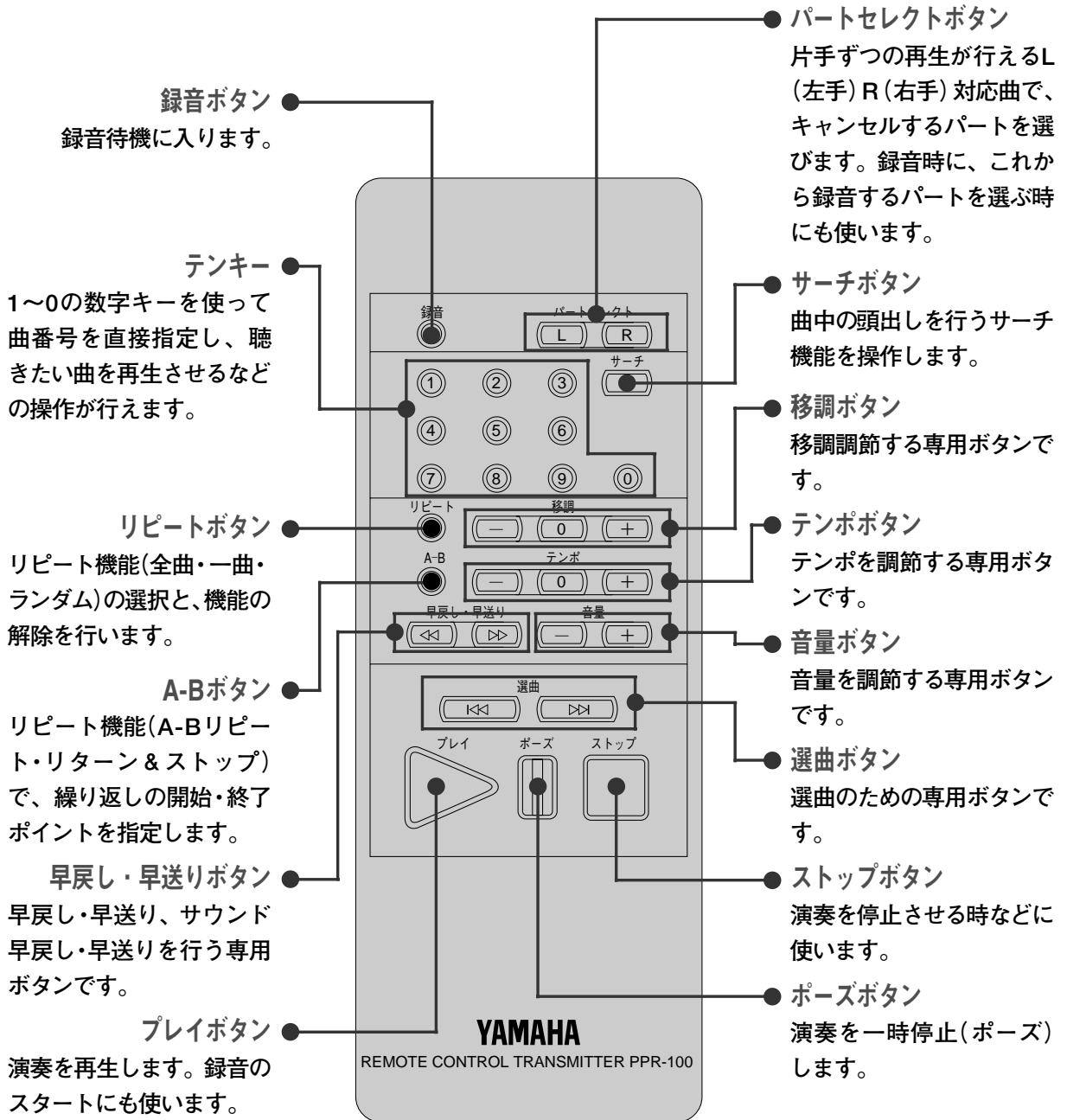
リアパネルについて



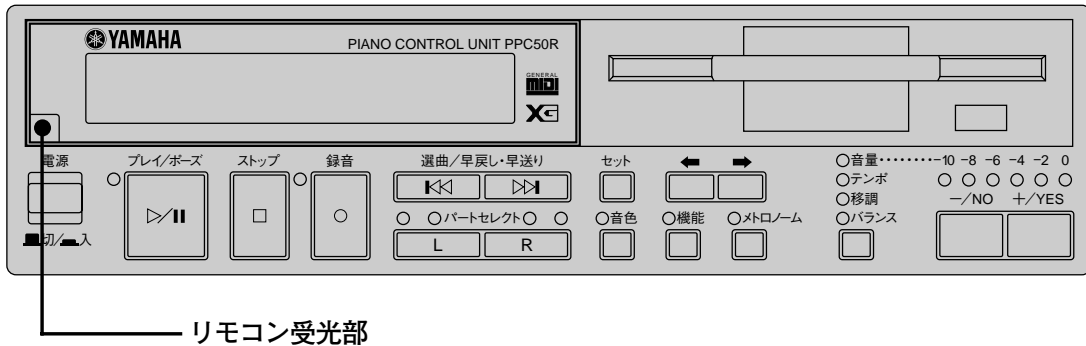


- **MIDI IN 端子**
外部機器のMIDI OUT端子と接続します。
- **MIDI OUT 端子**
外部機器のMIDI IN端子と接続します。
- **TO CONTROL CABLE FOR PIANO 端子**
接続ケーブルでピアノとつなぎます。
コネクタの向きを合わせてしっかり差し込み、ドライバーで両端のネジを回して固定してください。
※ケーブルの長さ：235cm

リモコンについて 各ボタンを確認しましょう

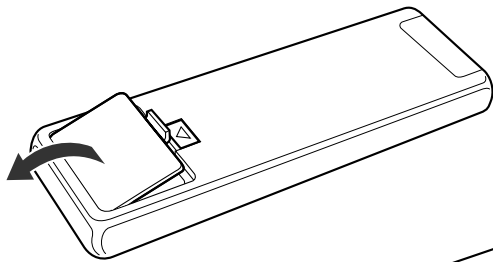


● リモコンの先端を、本機のフロントパネルの受光部に向けて操作してください。

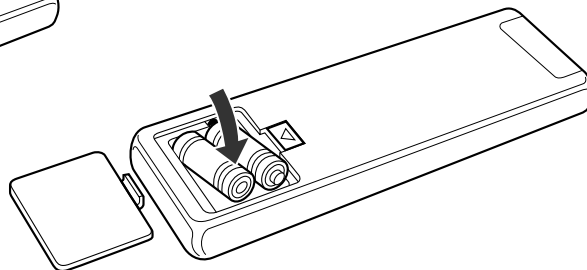


● リモコンに使用する乾電池は、単3×2本です。

裏面のバッテリーカバーをはずします。



電池ケース内の指示通りに十とーを正しくセットします。



バッテリーカバーを元に戻します。

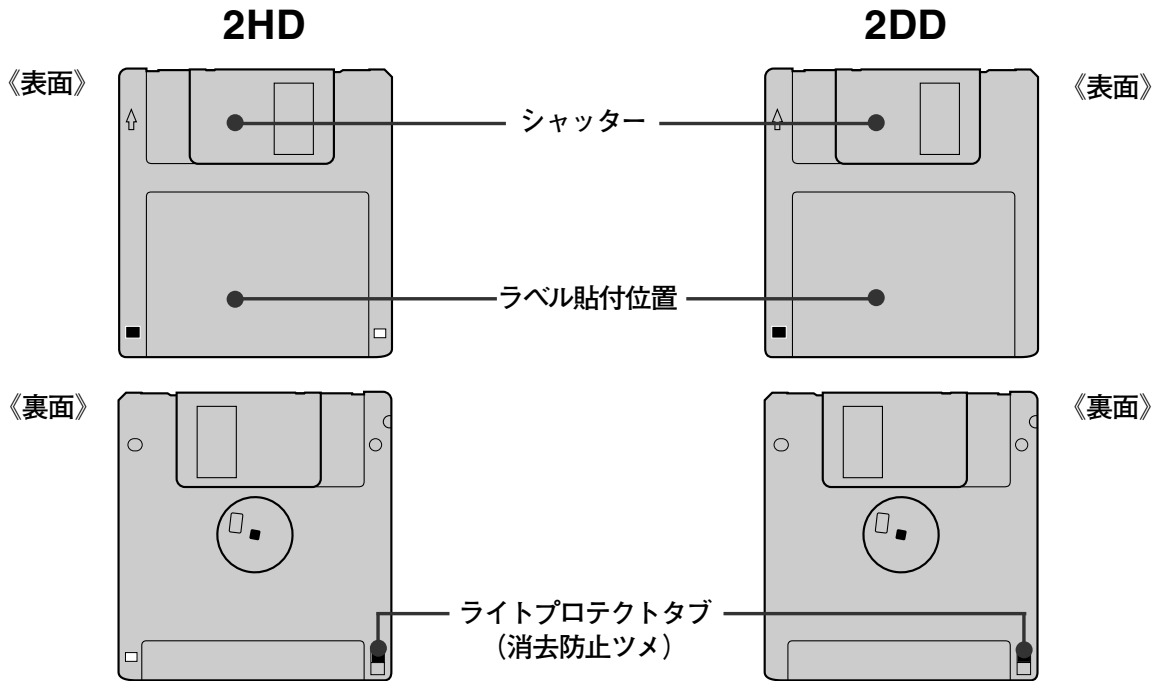
● 電池交換について

リモコンで操作できる距離が短くなってきたら、電池を交換してください。

同じタイプの電池を2本同時に交換してください。

リモコンを長時間使用しない場合は、液もれを防ぐため、電池を出して保管してください。

フロッピーディスクについて 各部の名称と取り扱い

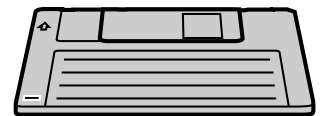
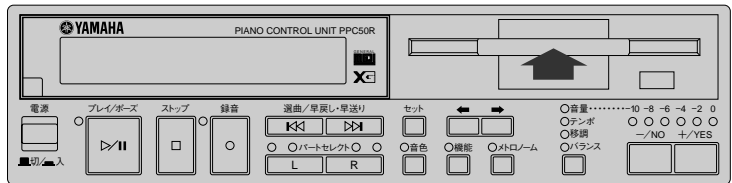


●フロッピーディスクの種類

市販の3.5"マイクロフロッピーディスク(2HDまたは2DD)をご使用ください。

●フロッピーディスクの挿入

図のようにフロッピーの表面(シャッターに文字が書かれている方)を上にして、カチッと音がするまでディスク挿入口にいねいに差し込みます。特に、上下方向に無理な力がかからないよう、必ず水平方向に静かに挿入して下さい。



●フロッピーディスクを取り出す時のご注意

- ・ディスク取り出しボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーが完全に出たことを確認してから取り出してください。
- ・ディスク取り出しボタンを中途半端に押ししたり、あわてて押し、フロッピーが途中で引っかかり、取り出せなくなる場合があります。ここで無理にフロッピーを取り出そうとすると、フロッピーがこわれたり、サイレントアンサンブルピアノが故障する原因になります。このような場合は、もう一度ディスク取り出しボタンをしっかりと正確に押し直して、取り出してください。

■以下の場合は、決してフロッピーを取り出さないでください。

- ・録音中、ディスク機能の実行中、編集後の保存中、トラック機能の実行中
- ・その他一般に「ディスクトリダサナイデ!」「シバラクオマチクダサイ」が表示されたり、本書に「フロッピーを取り出さないでください」と記載してある場合

■電源を切る時は、フロッピーをあらかじめ取り出してから行ってください。フロッピーを入れたまま長期間放置すると、ディスクが汚れ、録音や再生などにエラーが生じる原因になります。

●磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ・フロッピーのデータを読み取る磁気ヘッドは、長期間使用しているうちにフロッピーの磁性粉で汚れて、録音や再生などにエラーが生じることがあります。磁気ヘッドは、定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングすることをおすすめします。
- ・磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、本書巻末のヤマハサービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」(ZX000060 ¥1,400 [税別])をお求めいただくこともできます。

●フロッピーディスクの取り扱いと保管

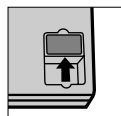
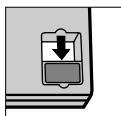
フロッピーの中には演奏を記録する磁性体が入っています。磁性体および本機の磁気ヘッドを保護するため、以下の点にご注意ください。

- ・フロッピーのシャッターを開けて、磁性体にふれないでください。
- ・保管したり持ち運ぶ場合は、必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり、折り曲げたりしないでください。また、フロッピー内部に水やホコリが入らないようにしてください。
- ・磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)は近づけないでください。
- ・直射日光の当たる場所や、特に高温/低温の場所、多湿の場所などに置かないでください。
- ・フロッピーにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

●誤消去防止

フロッピーには誤ってデータを消してしまうことがないように、ライトプロテクトタブ(誤消去防止ツメ)が付いています。大切なデータの入っているフロッピーは、タブをオン(窓が開いた状態)にして、録音やフォーマットなどができないようにしてください。

プロテクトオン(録音不可)



プロテクトオフ(録音可)

※市販フロッピーの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめの上、お求めください。また、変形しているフロッピー(シャッターやフロッピー本体)は、絶対に使用しないでください。

●フロッピーディスクドライブの動作音について

フロッピーを使用した選曲時や録音待機時に、フロッピーディスクドライブから「カチャカチャ」という音が聞こえる場合があります。これはディスクを読み書きするための動作音です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

●録音用の新しいフロッピーは、必ずフォーマットしてから使います(P62「フォーマットのしかた」参照)。

メモリディスクとフロッピー

●2種類のディスク

- ・本機には、演奏データ(曲)を2種類の場所(ディスク)に記憶できます。
- ・1つが本機の中に内蔵された「メモリディスク」です。もう1つが、ワープロやパソコンでおなじみの「フロッピーディスク」です。それぞれの特長をご理解のうえ、両者を組み合わせてご使用ください。
- ・なお、この取扱説明書では、フロッピーディスクは「フロッピー」と表記しています。

●メモリディスク

- ・メモリディスクは本体に内蔵されており、録音や再生のたびにいちいちフロッピーをセットする手間がありません。電源を切ってもメモリディスクの中の演奏データが消えることはありません。
- ・なお、ディスクという名称がついていますが、フラッシュメモリという一種の半導体を使用しており、フロッピーのように磁性体を塗ったディスク(円盤)が入っているわけではありません。

●フロッピー

- ・フロッピーは、メモリディスクと違って本体とは独立していますから、演奏データを持ち運んだり、他の人に渡したり、サイレントアンサンブルピアノなどで再生したり、分類・保管したり、またパソコンのフロッピードライブにセットするのに便利です。
- ・なお、本機でご使用いただけるフロッピーは、3.5"の2HDまたは2DDフロッピーディスクです。

●ディスクの使い分け

- ・ふだんの録音や再生にはメモリディスクをお使いになり、必要に応じてメモリディスクからフロッピーに曲コピーを行って整理されることをおすすめします。
- ・そしてメモリディスクの中が一杯になってきたら、大切な演奏データがフロッピーにコピーされていることをご確認のうえ、曲消去を行ってください。

※ディスクの残量表示についてはP64「基本的な録音のながれ」を、曲コピーについてはP104「曲コピー」を、曲消去についてはP102「曲消去」を参照してください。

※フロッピーの取り扱いについては、P16「フロッピーディスクについて」を必ずお読みください。

※メモリディスクとフロッピーの使いこなしについては、P100「ディスクの使いこなし」をお読みください。

様々なフォーマット

「フォーマット」は形式のことですが、この取扱説明書では次の3種類の意味に使用しています。

- (1) 新しいフロッピーを本機で使えるようにする操作
- (2) ディスクタイプ
- (3) 曲の記録形式

●新しいフロッピーを本機で使えるようにする操作

- ・新しいフロッピーはそのままでは本機で使用できません。本機で使えるようにする操作のことを「フォーマット」と言います（「初期化」とも言います）。
- ・なお、すでに演奏データ（曲）の入ったフロッピーを再度フォーマットすることができますが、そうすると演奏データはすべて無くなってしまいます。逆に言えば、すべての曲を消去するためにフォーマットの機能を使うこともできます。
- ・本機で使用できるフロッピーは『3.5”の2HDまたは2DD』ですが、本機でフォーマットすると2HDの場合は1.44MBタイプに、2DDの場合は720KBタイプに初期化されます。

●ディスクタイプ（メモリディスクやフロッピーを本機で使用する時の形式）

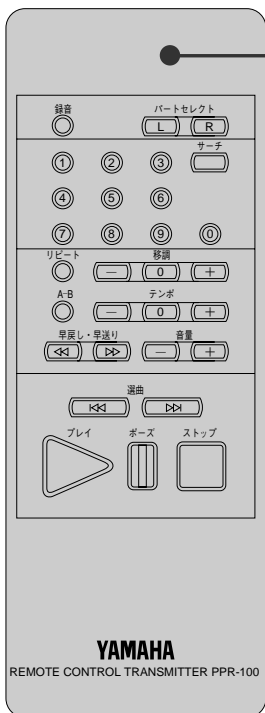
- ・フォーマット時に、ディスクタイプを「SMFタイプ」（初期値）と「E-SEQタイプ」の2種類から選択することができます。
- ・「SMFタイプ」とは次の項目で紹介する「スタンダードMIDIファイル形式」の曲を記録するためのディスクフォーマット、「E-SEQタイプ」とは次の項目で紹介する「E-SEQファイル形式」の曲を記録するためのディスクフォーマットです。
- ・メモリディスクは工場出荷時にあらかじめSMFタイプにフォーマットされていますが、再フォーマットすることも可能です。

●曲の記録形式

- ・曲（ソング）には色々な形式がありますが、本機で扱えるのは次の3種類です。
 - (1) スタンダードMIDIファイルのフォーマット0（ディスプレイに「S0」と表示されます）
 - (2) スタンダードMIDIファイルのフォーマット1（ディスプレイに「S1」と表示されます。再生のみ可能です）◆トラックチャック数17まで再生します。
 - (3) E-SEQファイル（ディスプレイに「ES」と表示されます）
- ・スタンダードMIDIファイルのフォーマット0形式の曲のことを本書では「SMF曲」と呼び、SMFタイプにフォーマットされたディスクに録音します。スタンダードMIDIファイルは、パソコン用の音楽ソフトで作成される曲とも互換性があり、現在もっとも広く使われている形式です。
- ・E-SEQファイル形式の曲のことを本書では「E-SEQ曲」と呼び、E-SEQタイプにフォーマットされたディスクに録音します。E-SEQファイル形式は、従来のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤとの互換性を重視した形式です。これらの機種でも使用するためには、2DDフロッピーをE-SEQタイプにフォーマットしてください。

※フォーマットの操作については、P62「フォーマットのしかた」をご参照ください。

※ディスクや曲のフォーマットについては、P116「フォーマットについて」やP130「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご参照ください。



リモコンでの操作を示します。

フロントパネルでの操作図の番号に対応して、操作の流れを説明しています。ボタンを押すと現れるディスプレイの表示内容を記載しています。

フロントパネルでの操作を示します。
番号にそって、ボタンを押してください。
ボタンを押すとランプが点灯する場合は「点灯します」と記載しています。



1 電源ボタンを押す

SEU サイレントアンサンブルユニット

***** YAMAHA *****
SILENT ENSEMBLE PIANO

EU アンサンブルユニット

***** YAMAHA *****
ENSEMBLE PIANO

2 フロッピーを入れる

シハ[®] ラクオマチクタ[®] サイ



操作説明

操作手順をディスプレイにそって説明しています。



機能説明

機能内容、機能の設定範囲などを説明しています。



操作のポイント

操作上のポイントをあげ、手順を補足説明しています。



注意

操作上の注意をあげました。必ずお読みください。



サイレント

SEU サイレントアンサンブルユニットでサイレント機能を使っている時(消音演奏時)のポイントをまとめてあります。

消音演奏

サイレント機能のご紹介

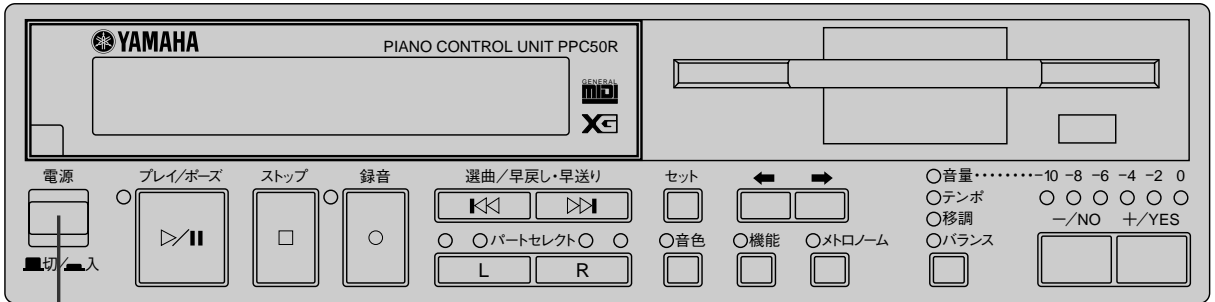
ピアノの音の消し方や、ピアノ電子音に豊かな残響を加える方法などをご紹介します。夜間でも、周囲に気兼ねなく、心ゆくまでピアノ演奏をエンジョイしてください。また曲によって、雰囲気に合わせて、音色をさまざまに変えて演奏するのも楽しいものです。

SEU 本章でご紹介する機能はサイレントアンサンブルユニットのみに内蔵しています。

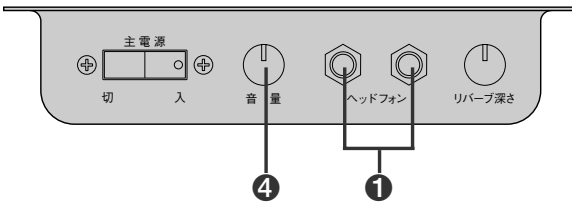
ピアノの音を消して演奏したい	消音演奏	P22
ピアノ電子音に残響を加えたい	リバーブの設定	P23
自動演奏時に鍵盤を動かさない	鍵盤動作のキャンセル	P24
連弾曲などで消音演奏したい	最大同時発音数の切り替え	P25

消音演奏

ピアノの音を消し、ピアノ電子音で演奏する



2

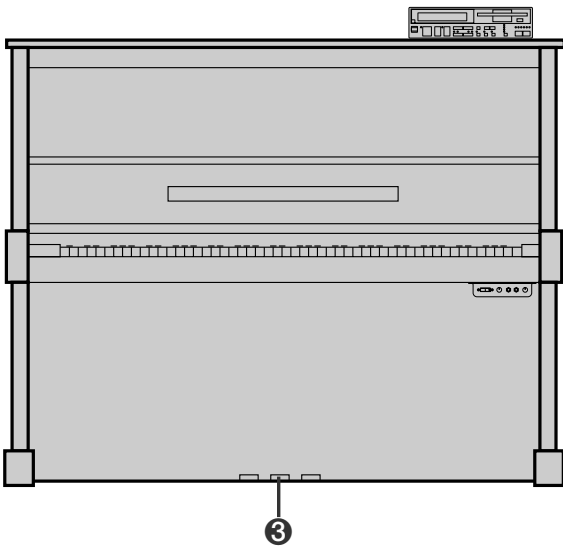


4

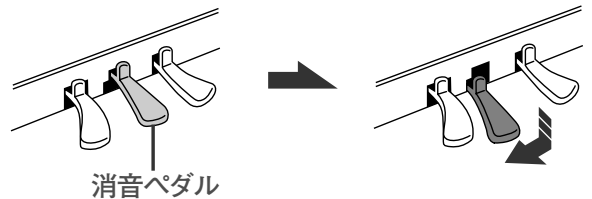
1



- 1 ヘッドフォンをヘッドフォン端子に接続してください (ヘッドフォンは2本まで同時に使えます)。
- 2 コントロールパネルの電源ボタンをONにしてください (あらかじめ、スイッチボックスの主電源が「入」になっていることが必要です)。
- 3 消音ペダルを下に踏み込んでから左側にセットしてください。これでピアノの音が消えます。
- 4 ボリュームつまみでピアノ電子音の音量を調節します。



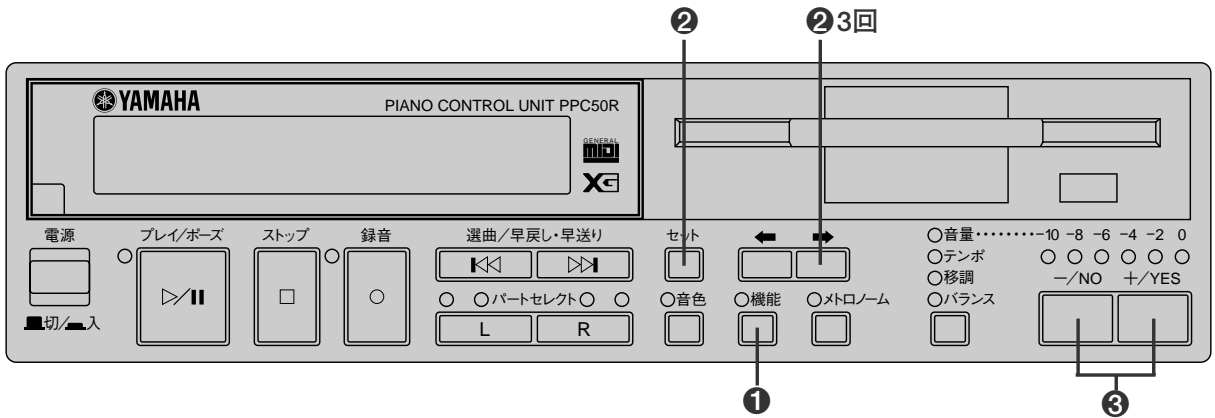
3



- ボリュームつまみが3時の位置が、標準のボリューム位置です。この時、ピアノの音とヘッドフォンで聴いたピアノ電子音が、ほぼ同じ音量になります。
- 自動演奏の再生も消音演奏させることができます。また、再生途中で消音ペダルをセットしたり戻したりしてもかまいません。
- AUX OUT端子とアンプ付スピーカやステレオにつなぐと、スピーカから消音演奏が聞けます。

リバーブの設定

消音演奏（ピアノ電子音）に残響を加える



ディスプレイに複数の項目が表示されている場合、▶があるのが設定可能な項目や選択された機能です。設定したい項目を選んだり機能を選択するには、◀▶ボタンを押して▶を移動します。



1 機能ボタンを押す

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 カーソルボタン◀▶を3回押して「▶サイレント」と表示させ、セットボタンを押す

リハーフ▶ホール1
ケンパシオン = ON ハツオンスウ = 3 2

3 -/NO、+/YESボタンでリバーブのタイプを選ぶ

リハーフ▶ルーム
ケンパシオン = ON ハツオンスウ = 3 2

4 リバーブの深さ（かかり具合）はスイッチボックスのリバーブ深さつまみで調整する。



- 「リバーブ」は、残響を加えて、音に自然なうおいを与える効果のことで、「タイプ」を設定します。
- リバーブのタイプは次の3種類です。

タイプ名	効果
ルーム	響きやすい部屋の中で弾いた時のような残響効果
ホール1	小さなコンサートホールで弾いた時のような残響効果
ホール2	大きなコンサートホールで弾いた時のような残響効果



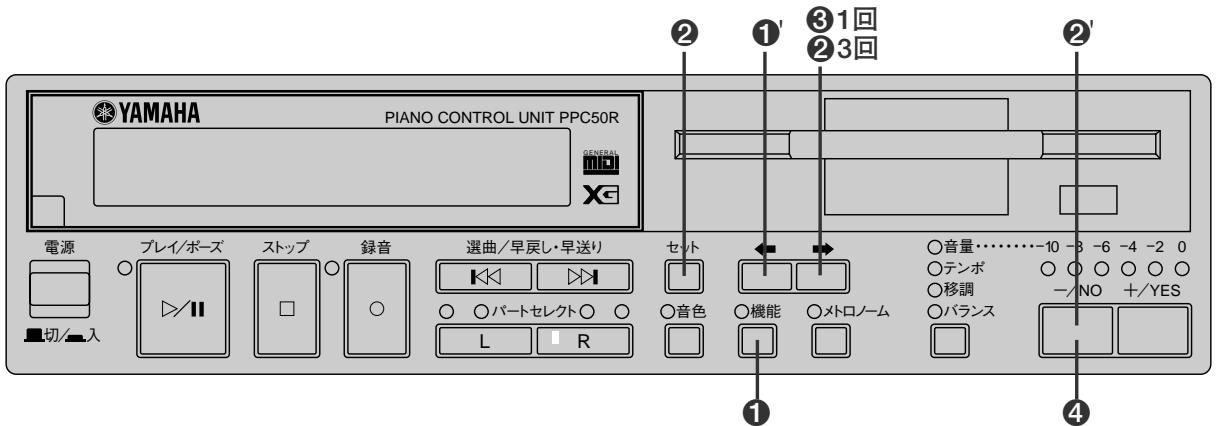
- ピアノを弾いて効果をヘッドフォンで確認しながら設定できます。
- ④で設定後、機能ボタンを押せば曲名表示に戻ります。
- リバーブの設定とあわせて、鍵盤動作のキャンセル (P24) や最大同時発音数の切り換え (P25参照) を行うこともできます。



- 電源を切ってもこの設定は記憶されています。

鍵盤動作のキャンセル

消音状態の自動演奏で鍵盤を動かさない



停止状態(曲名表示)でキャンセルを設定する。

1 機能ボタンを押す

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 カーソルボタン⇄を3回押して「▶サイレント」と表示させ、セットボタンを押す

リハーフ▶ホール1
ケンパン = ON ハツオンスウ=32

3 カーソルボタン⇄を1回押して「ケンパン▶ON」と表示させる

リハーフ = ホール1
ケンパン ▶ ON ハツオンスウ=32

4 -/NOボタンを押すと「ケンパン▶OFF」となり、鍵盤動作がキャンセルされる

リハーフ = ホール1
ケンパン ▶ OFF ハツオンスウ=32



鍵盤動作をすばやくキャンセルする。
(サイレント状態なら、停止中でも再生中でも行えます)

1' 左向きのカーソルボタン⇄を押して「ケンパン▶ON」と表示させる

ケンパン▶ON (00:12)→

2' -/NOボタンを押すと「ケンパン▶OFF」となり、鍵盤動作がキャンセルされる

ケンパン▶OFF (00:13)→

※右向きのカーソルボタン⇄を押すと曲名表示に戻ります。



●自動演奏では通常鍵盤が動きますが、この機能を使うと、サイレント時に限って鍵盤の動作をキャンセルすることができます。

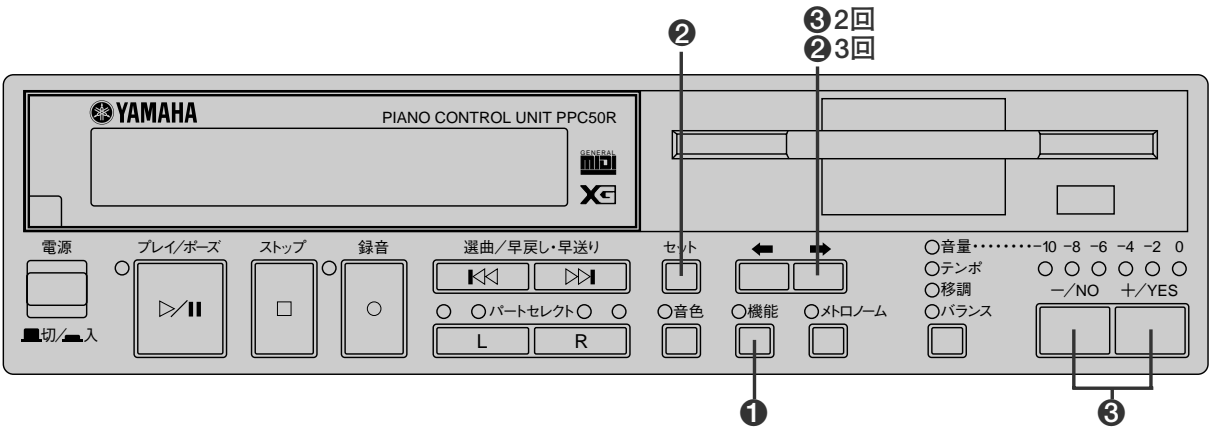


●鍵盤を動かしたい時は、④または②'の表示で+/YESボタンを押します。



●電源を切ってもこの設定は記憶されています。
●リセット機能(P128参照)を実行した場合、工場出荷時の状態(ON)に戻ります。

最大同時発音数の切り替え (連弾曲やペダルを多用する曲の場合)



1 機能ボタンを押す

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 カーソルボタン⇔を3回押して「▶サイレント」と表示させ、セットボタンを押す

リハーフ ▶ OFF
ケンパシオン = ON ハツオンスウ = 32

3 カーソルボタン⇔を2回押して「▶ハツオンスウ」と表示させ、-/NO、+/YESボタンで最大同時発音数を変更する

リハーフ = ルーム
ケンパシオン = ON ハツオンスウ ▶ 64



●ピアノ電子音の最大同時発音数は、あらかじめ32音(ステレオサンプリング)になっていますが、連弾やペダルを多用する曲の演奏や再生では、それ以上の同時発音数が必要になる場合があります。こうした場合に、最大同時発音数を64音(ステレオ)に切り換えるための機能です。



●最大同時発音数の設定とあわせて、リバーブの設定(P23)や鍵盤動作のキャンセル(P24参照)を行うこともできます。
●③で設定後、機能ボタンを押すと曲名表示に戻ります。



●電源を切ってもこの設定は記憶されています。
●リセット機能(P128参照)を実行すると、工場出荷時の状態(32)に戻ります。

ソフトについて

- 本機では、幅広いジャンルのソフトが利用できます。一流ピアニストの名演奏、さまざまなジャンルの名曲をご家庭で楽しめるリスニング用ソフトはもちろんのこと、ピアノ演奏をバックアップするレッスンや練習用のソフト、そして内蔵音源の多彩な音色を活用したアンサンブルソフトまで、ワイドなラインナップを取りそろえています。
- <ピアノソフト>シリーズは、クラシック、ジャズ、ポピュラー、カラオケなど、多彩なジャンルのソフト。数千曲にのぼる豊富なレパートリーを集めました。きっとあなたの愛聴盤が見つかります。
- <ピアノソフトプラス>シリーズは、オーケストラやビッグバンドのパートも収録されたアンサンブル曲のソフト。クラシック、ジャズ、ボサノバなど、迫力のライブ演奏をお楽しみください。
- 月刊「Piano」の演奏データは最新ヒット曲を楽しんでいただくのに最適のソフト。毎月新しいタイトルが5曲ずつ加わります。
- 以上のソフトはヤマハの音楽データ店頭販売システム「ミューマ」でもお買い求めいただけます。
- <レッスンライブラリー>シリーズは、ピアノ教室でもご利用いただけるレッスンソフト。自動演奏システムの特長をレッスンに生かしたオリジナルの教材で、楽譜と解説が付いており、沢山のピアノの先生方に愛用されています。
- <ピアノアンサンブル>シリーズは、楽譜とフロッピーがセットになったソフト。譜面を見ながらデータに合わせて演奏したり、模範となる演奏を聴いたり、さまざまな楽しみ方を発見していただけます。
- どのソフトも、ご自分の好みに合わせて、音量・移調・テンポなどが調節できます。
- ソフトには、いろいろな再生機能に対応したタイプがあります。<LR対応ソフト>は「パートキャンセル機能」を使ってL(左手・低音側)、R(右手・高音側)を別々に再生できるタイプのソフト。ミュージックスタディ・シリーズやレッスンライブラリー、連弾曲などに採用しています。
- 楽しい<カラオケ・シリーズ>のレパートリーも、ナツメロから最新ヒット曲までワイド。移調機能を使ってご自分のキーに合わせてたり、スローなテンポにしたり……。思いのままの伴奏が作れます。

[*参照ページ]

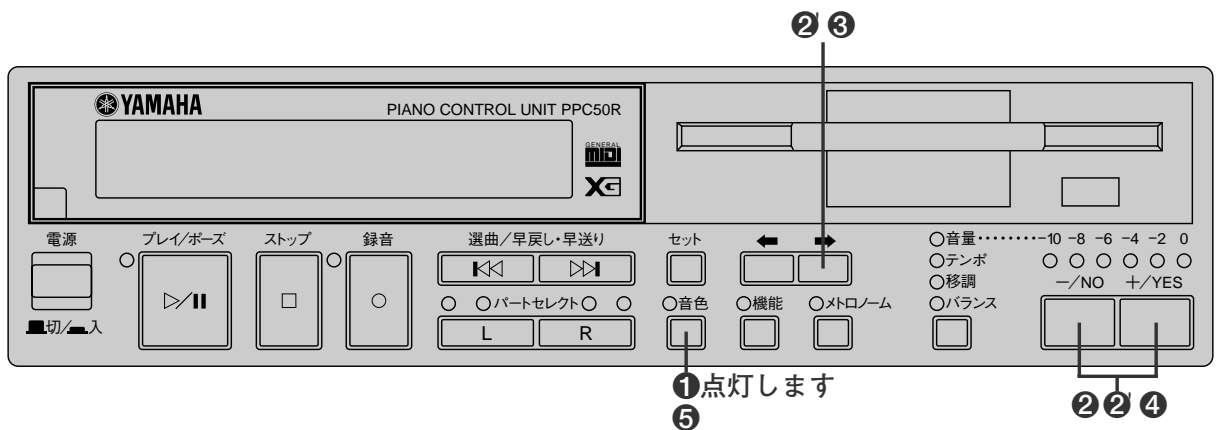
- ◆選曲……P34
 - ◆音量・移調など再生時の調節機能……P37～P39
 - ◆パートキャンセル……P40
 - ◆リピート機能……P49～P53
 - ◆サーチ機能……P54～P55
- ※ソフトに関する詳細は、別途、ソフトカタログをご覧ください。

音色モード

音色機能のご紹介

本製品にはアンサンブル曲で活用できる電子音源が内蔵されていますが、この多彩な音色を、鍵盤演奏の際にもお楽しみいただけます。曲によって、雰囲気に合わせて、音色をさまざまに変えて演奏してみてください。

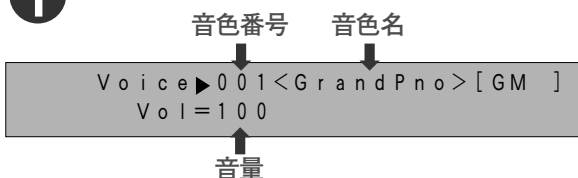
音色モード 内蔵音源の多彩な音色を使って演奏する



本機の自動演奏機能の停止中または再生中に操作します。

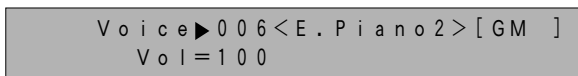
1

音色ボタンを押して点灯させる



2

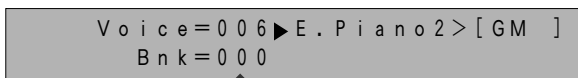
-/NO、+/YESボタンで音色を選ぶ



この状態で、128基本音色/11ドラム音色/42SFX音色が選べます。

2

XG音源のさらに豊富な音色(拡張音色)を選ぶには、右向きのカーソルボタンを押す



バンク番号表示に変わる

2

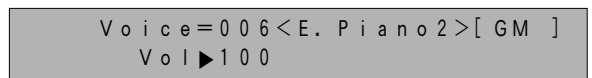
-/NO、+/YESボタンで音色を選ぶ



二重カッコに変わる

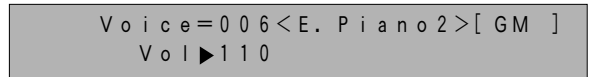
3

鍵盤を弾いての音色演奏の音量を調節するには、右向きのカーソルボタンを押し、「Vol▶100」と表示させる



4

-/NO、+/YESボタンで音量を調節する



5

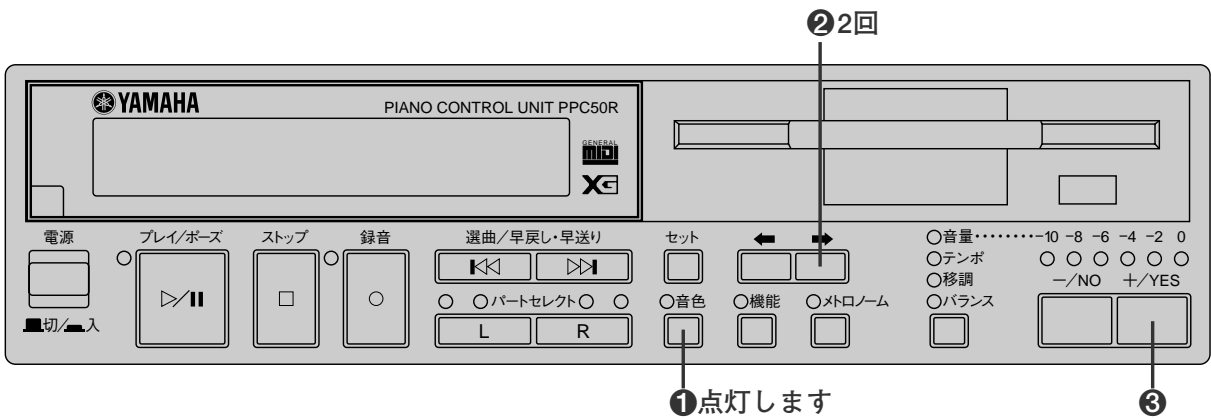
内蔵電子音源を使わない場合は、再度音色ボタンを押して消灯させる



●接続したピアノの鍵盤演奏を、本機内蔵の電子音源がもつ様々な音色を使って行えます。



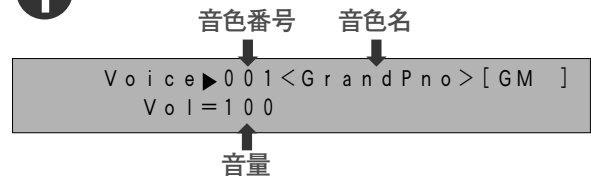
- ②の状態では、128基本音色+11ドラム音色(9リズムキット、2SFXキット)+42SFX(特殊効果)音色です(ディスプレイの音色名は8文字以内に省略して表示しています)。音色番号・音色名一覧表はP132参照。
- ②の状態を含めると、コントロールパネルで選択できる音色は全部で480ノーマル音色+11ドラム音色です。
- ②の画面に切り換えた時に選択できるXGの拡張音色は、②の128基本音色に対するバリエーション音色です。拡張音色にはバンク番号が付いており、②の画面に切り換えると音量表示がバンク番号表示に切り換わります(Vol=000→Bnk=000)。拡張音色はP134参照。



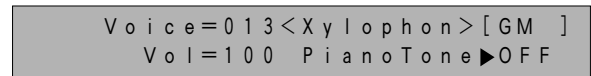
SEU

サイレント時は、ピアノ電子音も発音させる／させないが選択できます。

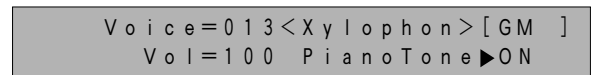
1 音色ボタンを押して点灯させる



2 右向きカーソルボタン ⇨ を2回押して、「PianoTone ▶ OFF」と表示させる



3 +/YESボタンで「PianoTone ▶ ON」と表示させる



- 音色番号を設定しない状態 (「Voice=# # #」) では、内蔵音源は鍵盤演奏で発音しません。
- XG音色のバンク番号は必ずしも連続した番号ではありません。
- 各基本音色に対する拡張音色の数は一定ではありません。例えば「Voice=001<GrandPno>」に対する拡張音色は4種類ですが、「Voice=002<BritePno>」に対応する拡張音色は1種類です。
- 基本音色によっては対応するXGの拡張音色を持たないものもあります。例えば「Voice=060<Mute.Trp>」は対応する拡張音色を持たないため、②の画面に切り換えても拡張音色を選ぶことはできません。

音源のご紹介

- 本製品には電子音源が内蔵されており、標準設定では、アンサンブルパートは内蔵音源で発音し、ピアノパートは接続先のピアノを発音させます。
- 本機の内蔵音源は、GM規格/ヤマハXGフォーマットに準拠した豊富な音色を持っています。本機のコントロールパネルから指定して鍵盤演奏や録音・再生に使用できる音色は次の通りです。

ノーマル音色	基本音色	128種類	音階を持つ楽器音、効果音。GM規格に準拠。
	拡張音色	310種類	基本音色に対するバリエーション音色。XGフォーマット準拠。
	SFX音色	42種類	特殊効果音。XGフォーマット準拠。
ドラム音色	リズムキット	9種類	音階を持たない打楽器音のセット。XGフォーマット準拠。
	SFXキット	2種類	SFX音色をリズムキットのように組み合わせたセット。XGフォーマット準拠。

- 「基本音色」には、一般の楽器音や効果音が128種類(8音色×16グループ)入っており、1~128番の番号と名前が付いています。例えばギターだけでも、ナイロン弦、スチール弦、エレキギターのオーバードライブ・サウンド、ハーモニクス音まで用意されています。その他、バンジョーやバグパイプなどの民族楽器、弦楽合奏やオーケストラヒット、ブラスセクション、さらにシンセサイザーの効果音や渾身の音、電話の呼出し音、拍手、銃声までありますから、アニメ曲やドラマのような演出も楽しめます。
- 「拡張音色」は、ヤマハXG音源フォーマットならではの存在感のあるバリエーション音色です。曲想や好みにぴったりりのサウンドが欲しい時、ぜひお試しください。
- ノーマル音色にも音階を付けられる打楽器音が含まれていますが、それとは別にリズムパート用の「ドラム音色」(リズムキット)を豊富に持っており、基本音色128番の次を選ぶと「スタンダードキット」が呼び出されます。

```
Voice▶001<StandKit>[GM ]
Vol=100
```

ドラム音色とは、いろいろな打楽器を組み合わせたドラムセットのようなものです。一般に打楽器は音程がなく、複数の打楽器を組み合わせるとリズムを作り出します。そこでドラム音色は1つの「音色」でありながら、C1はバスドラム、D1はスネアドラム……と、鍵盤1つ1つに別々の打楽器が割り当てられています。スタンダードの他にも、電子ドラムのセット(25番、エレクトロキット)やジャズ用のバリエーション(33番、ジャズキット)など、9種類を持っています。

- 以上の他、本機には一層エキサイティングな特殊効果サウンド(「SFXキット」「SFX音色」)も豊富に装備しています。
- 音色モードに切り換えると、内蔵音源の音色を手軽に確かめることができます。停止中や再生中に音色ボタンを押すと、ディスプレイが次の表示になります。

```
Voice▶001<GrandPno>[GM ]
Vol=100
```

—/NO、+/YESボタンで好きな音色が選べます(拡張音色の選び方は「音色モード」参照)。鍵盤を弾いて音色を確かめてください。また内蔵音源は、最大16の音色を同時に発音できるマルチタイプですから、アンサンブル曲の録音/再生で真価を発揮します。「アンサンブルパートの録音」をご覧ください。

- なお本機は、市販のシーケンサーソフトなどMIDIデータで設定できる音色も内蔵しており、トータルで676ノーマル音色+21ドラム音色を装備しています。

[*参照ページ]

- ◆音色モード……P28
- ◆アンサンブルパート音色変更……P47
- ◆アンサンブルパートの録音……P76
- ◆リズムパートの録音……P80
- ◆内蔵音源の音色一覧表……P132

[XGとは]

デジタル音源の標準規格であるGMを拡張した、ヤマハ独自の音源フォーマット。高品位かつ豊かな表現力と多彩な音色数が特長です。

[GMとは]

デジタル音源の音色配列に関する標準規格。異なるメーカー間でもデータの互換性があるため、市販のデータ曲や他の機種で作成したデータ曲をメーカー・機種の区別なく再生可能です。

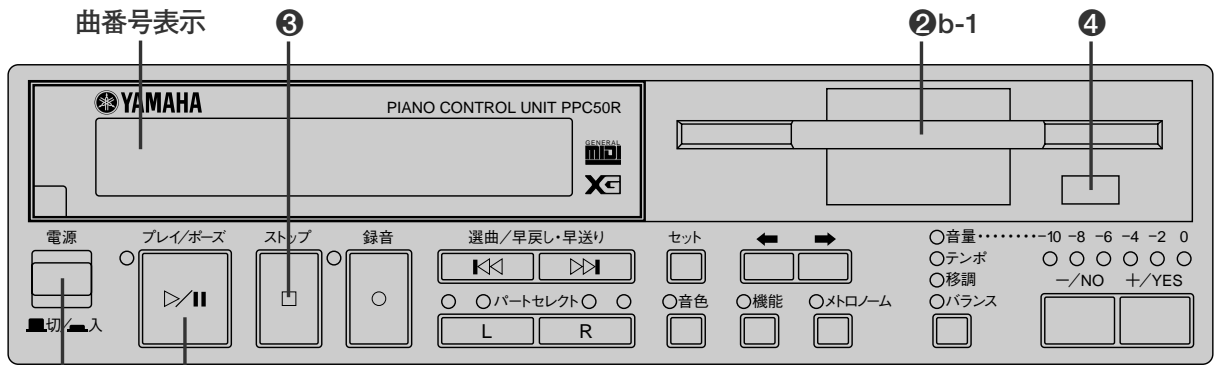
再生

再生機能のご紹介

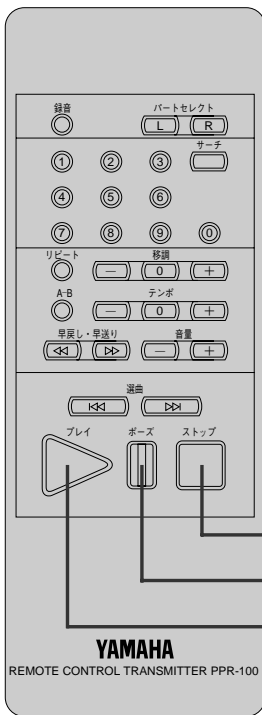
本機は、ご自分で録音した曲や市販ソフトを再生して聴くことができます。色々な楽器パートを含むアンサンブル曲を、CDプレーヤのような操作で、選曲したり、音量を調節したりリピートすることができます。ピアノパートの片手パートずつの再生や、テンポや調の変更も可能です。

再生の基本的な操作を知りたい	再生のしかた	P32			
再生を一時停止する	再生のしかた	P33			
聴きたい曲を選ぶ	選曲	P34			
	ダイレクト選曲	P54			
聴きたい曲を探す	早戻し・早送り	P35			
	サウンド早戻し・早送り	P36			
聴きたい場所を探す	ダイレクトサーチ	P55			
再生の音量を調節したい	音量調節	P37			
キーを変えて再生したい	移調調節	P38			
テンポを変えて再生したい	テンポ調節	P39			
片手パートずつ再生したい	パートキャンセル	P40			
ペダル効果なしで再生させたい	ペダルキャンセル	P41			
弾きはじめのきっかけをつかむ	ペダルカウント再生	P42			
アンサンブル曲を聴きたい	再生	P44			
ピアノとアンサンブルパートのバランスをとる	マスターバランス	P45			
アンサンブルパートをピアノで聴く	ピアノパートセレクト	P46			
アンサンブルパートの音色を表示させる	アンサンブルパート音色表示	P47			
内蔵音源とピアノのピッチを合わせたい	マスターチューン	P48			
繰り返し演奏する機能	リピート機能				
全曲リピート◆	P49	1曲リピート◆	P50	ランダムリピート◆	P51
A-Bリピート◆	P52	リターン&ストップ◆	P53		

再生のしかた 演奏を聴いてみましょう(メモリディスクの再生とフロッピーディスクの再生)



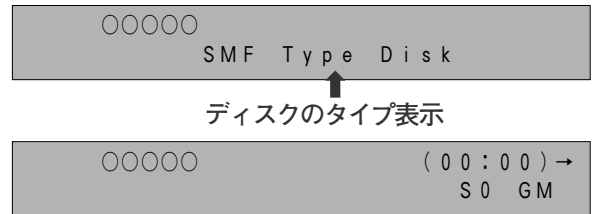
- ①
- ②a ②b-2点灯します
- ⑤点滅します
- ⑥点灯します



- 演奏をストップ
- 演奏を一時停止
- 演奏をスタート、演奏を再開



- ① 電源ボタンを押すとメモリディスクのタイトルが流れ、次いで1曲目の曲名表示になります



- 表示されている曲番号・曲名の曲が演奏されます。
- 本機は、メモリディスクまたはフロッピーの中の曲が再生できます。フロッピーが入っていない場合、メモリディスク内の曲が再生されます。フロッピーが入っていれば、フロッピー内の曲が再生されます。
- メモリディスクとは、本体に内蔵された、曲を記録している所です(P18、P100「ディスクの使いこなし」参照)。

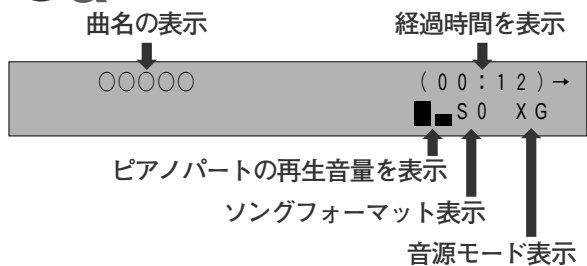


- プレイ/ポーズボタンが点滅していたら、一時停止(ポーズ)中です。もう一度プレイ/ポーズボタンを押せば演奏再開。



メモリディスク内の曲を再生する場合
プレイ/ポーズボタンを押すと再生スタート

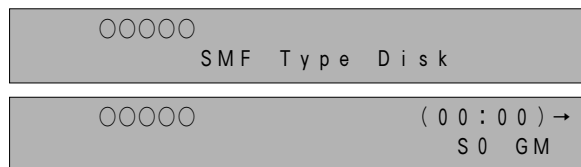
2a



フロッピー内の曲を再生する場合

2b-1

フロッピーを入れるとフロッピーのタイトル
が流れ、次いで1曲目の曲名表示になります



2b-2

プレイ/ポーズボタンを押すと再生スタート



再生を停止したい時

3 ストップボタンを押す



4 フロッピーを取り出す時は、
ディスク取り出しボタンを押す
(メモリディスクの表示になる)



再生を一時停止したい時

5 再生中に、プレイ/ポーズボタンを押す



6 もう1回プレイ/ポーズボタンを押せば、演奏再開

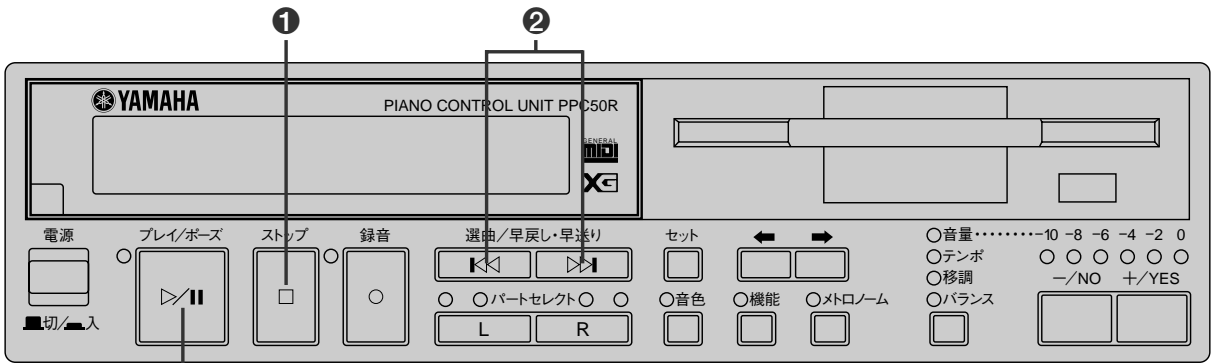


- 出荷状態では、あらかじめメモリディスクに短いフレーズが入っています。再録音 (P66参照) または曲消去 (P102参照) で消すことができます。
- 本機にフロッピーが入った状態でメモリディスク内の曲を聴くことはできません。フロッピーを取り出してください。
- 1曲目で停止状態の時、選曲/早戻しボタン (K3) を押すと、ディスクタイトルを表示させられます (再生中はこの機能は使えません)。また、ディスクタイトル表示の途中でストップボタンを押して曲名表示にジャンプさせることもできます。
- ディスクタイトルがつけられていない場合は、ディスクのタイプのみ表示されます。
- 「ソングフォーマット」については、P19「様々なフォーマット」やP116「フォーマットについて」参照。
- 再生時ダンパーペダルの動きはありませんが、ピアノ内部ではペダル動作しています。

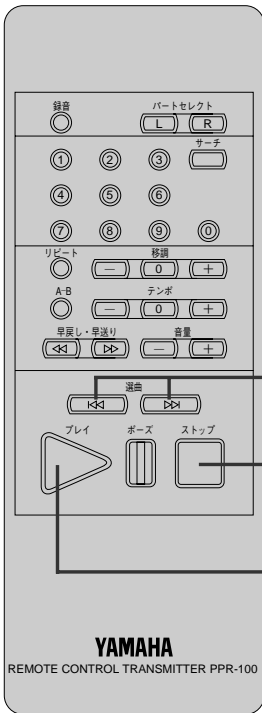


- ピアノ電子音で再生されます(ピアノの音は鳴りません)。ヘッドフォンまたは補助出力端子 (AUX OUT) に接続したスピーカーでお聴きになれます。
- 鍵盤を動かさずに再生することもできます (P24参照)。

選曲 聴きたい曲を選ぶ



③点灯します



① もし曲の再生中であれば、ストップボタンを押して曲を停止させる

選曲中の番号が表示されます



② 選曲/早戻し・早送りボタンを押して聴きたい曲を選ぶ



③ プレイ/ポーズボタンで演奏スタート

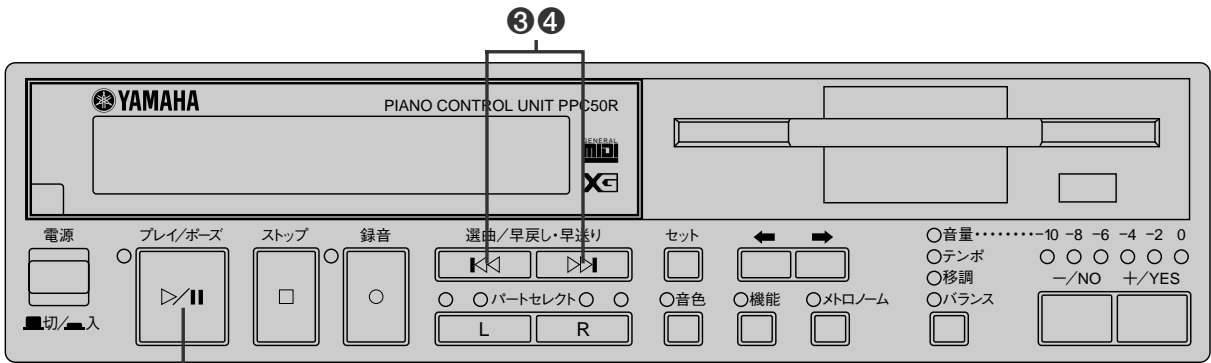


- 聴きたい曲を選びます。停止中に操作します。
- リモコンでは、再生・ポーズ・停止中も選曲できます。
- 曲番号は曲番号表示で、曲名はディスプレイで確認できます。

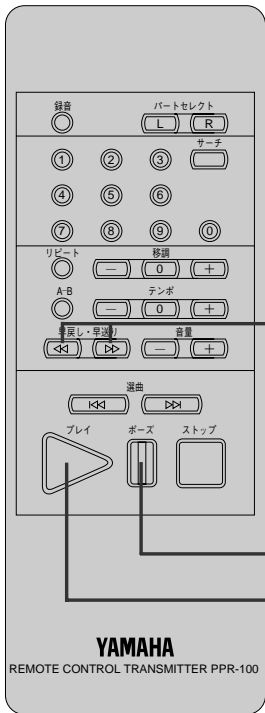


- フロッピーが入っていないければ、メモリディスク内の曲が選択されます。フロッピーが入っていれば、フロッピー内の曲が選択されます。

早戻し・早送り 聴きたいところを探す



- ①点灯します
- ②点滅します



聴きたいところを選びます
もう1回押せばポーズに戻ります

演奏を一時停止
演奏をスタート



1 プレイ/ポーズボタンを押して演奏をスタート



2 プレイ/ポーズボタンを押して演奏を一時停止させます



3 選曲/早戻し・早送りボタンを押す



4 もう一度選んだ向きの選曲/早戻し・早送りボタンを押すと、一時停止に戻る

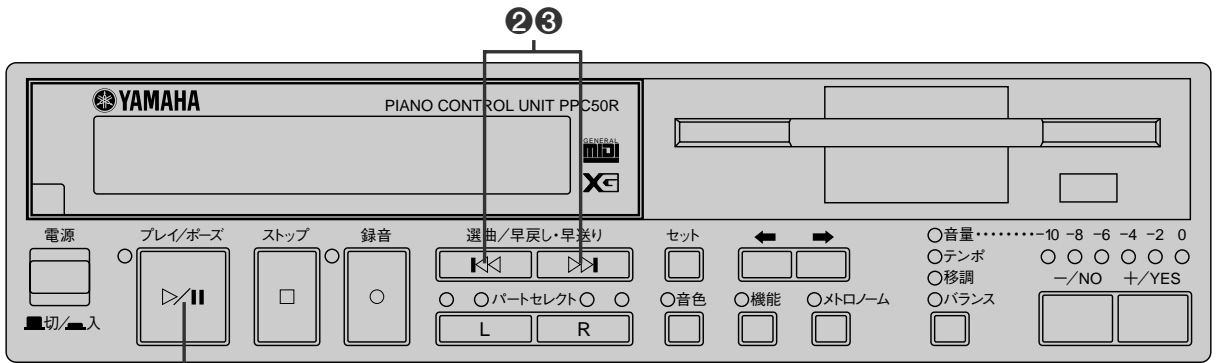


- 一曲の中の聴きたい所を探す機能です。ポーズ中(一時停止)に操作します。
- 曲の経過時間(小節・拍)はディスプレイで確認できます。
- 曲の頭、終わりりで自動的にポーズになります。

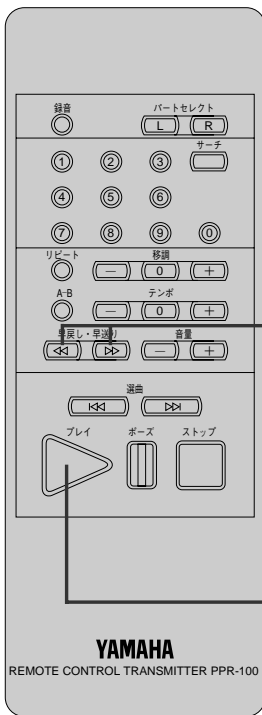


- 早戻し・早送り中にストップボタンを押すと、ポーズ状態になります。プレイ/ポーズボタンを押せば、そこから演奏再開。

サウンド早戻し・早送り 高速で再生して聴きたいところを探す



①点灯します



聴きたいところを選びます
もう1回押せばふつうの再生に戻ります

演奏をスタート



① プレイ/ポーズボタンを押して演奏をスタートさせる



② 選曲/早戻し・早送りボタンを押す



③ もう1回、選曲/早戻し・早送りボタンを押せば、演奏再開



- 音を出しながら早戻し・早送りさせ、1曲中の聴きたいところを探す機能です。再生中に操作します(弱音量で再生されます)。
- 曲の経過時間(小節・拍)はディスプレイで確認できます。
- 曲の頭、終わりでポーズ(一時停止)になります。

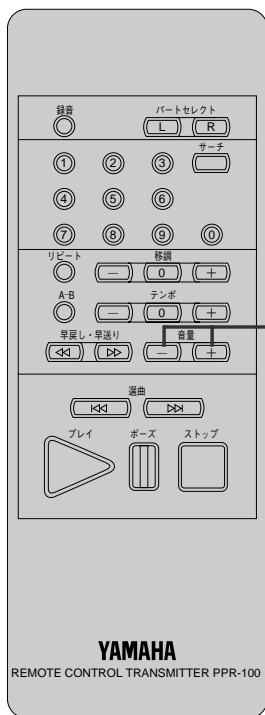
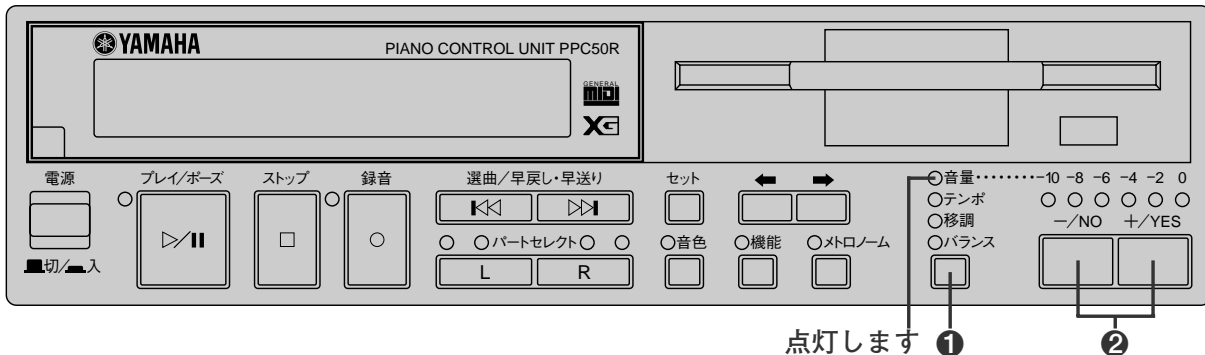


- サウンド早戻し・早送り中にストップボタンを押すと、ポーズ状態になります。プレイ/ポーズボタンを押せば、その時点から演奏再開。



- ピアノ電子音で再生されます(ピアノの音は鳴りません)。ヘッドフォンまたは補助出力端子(AUX OUT)に接続したスピーカーでお聴きになれます。

音量調節 音の大きさを変えて再生する



1 音量ランプが点灯していなければ、点灯するまで何回かセレクトボタンを押す

2 -/NO、+/YESボタンで音量を調節する

-10 -8 -6 -4 -2 0
 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ← 選んだ音量を点灯で表示

[点灯例]

-10 -8 -6 -4 -2 0
 ● ○ ○ ○ ○ ○ -10の場合

-10 -8 -6 -4 -2 0
 ● ● ○ ○ ○ ○ -9の場合

-10 -8 -6 -4 -2 0
 ○ ● ○ ○ ○ ○ -8の場合



- 自動演奏の再生音量を調節する機能です。再生・ポーズ・停止中とも操作できます。
- 音量調節は-10～0の11段階。●オリジナルにいちばん近い音量が0（標準）です。
- 10～-7でミュート機構が働き、一段と弱音での再生をおこないます。ミュート機構は、ソフトペダルの機能を拡張して、ハンマーの打弦力を弱める機構です。



- セレクトボタンは、音量～バランスの4機能のいずれかを選択するボタンです。押すごとに、音量→テンポ→移調→バランス(→音量……)の順で各機能が呼び出されます。選択されている機能はセレクトボタン上部のランプで確認できます。
- /NO、+/YESボタンを同時に押すと、音量は0になります。
- 音量設定は、-/NO、+/YESボタン上部の点灯で確認できます。
- リモコンでは、音量専用ボタンで調節できます。

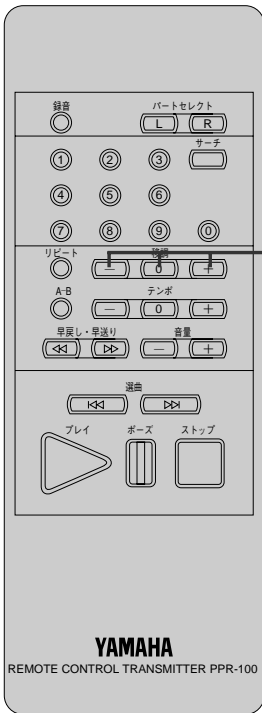
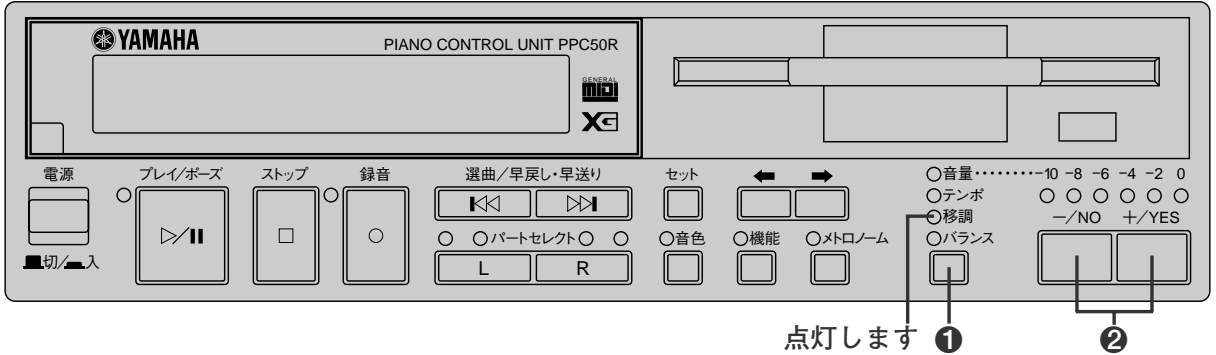


- 音量設定は、電源を切っても記憶しています。
- 自動演奏を楽しむ環境・お好み・楽曲に合った音量をお選びください。
- 10～-7のミュートモード再生時は、鍵盤に不揃いが生じることがあります。鍵盤タッチも変わりますので、手弾き演奏の際にはボリュームを上げて、音量を-6以上に設定してミュートを解除してください。(ミュート切替時にはモーター動作音がします) サイレントモードではミュート機構は解除されます。また、電源スイッチを切ると解除されます。



- ピアノ電子音の再生音量が調節されます(ピアノの音は鳴りません)。ヘッドフォンまたは補助出力端子(AUX OUT)に接続したスピーカーでお聴きになれます。
- ミュート機構は働きません。
- AUX IN端子より入力された音は、音量調整されません。

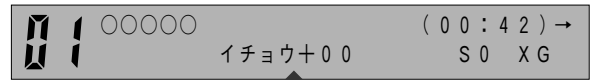
移調調節 調を変えて再生する



十ボタンで高く
一ボタンで低く
0ボタンでオリジナルに
戻る

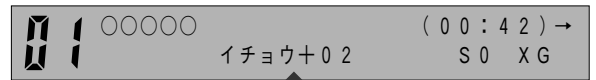


1 移調ランプが点灯していなければ、点灯するまで何回かセレクトボタンを押す



点滅して出現

2 -/NO、+/YESボタンで移調を調節する



点滅(約10秒)→点灯



- 再生時に移調を行います。再生・ポーズ・停止中とも操作できます。
- 半音単位で、-2オクターブ～+2オクターブの範囲で調節できます。

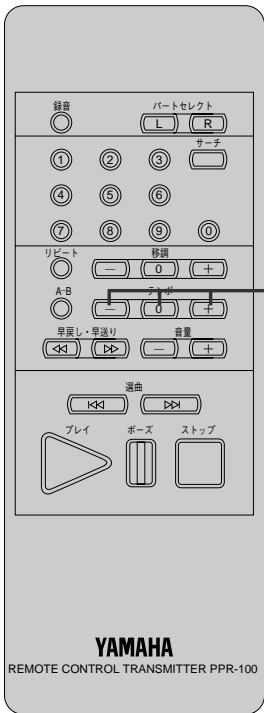
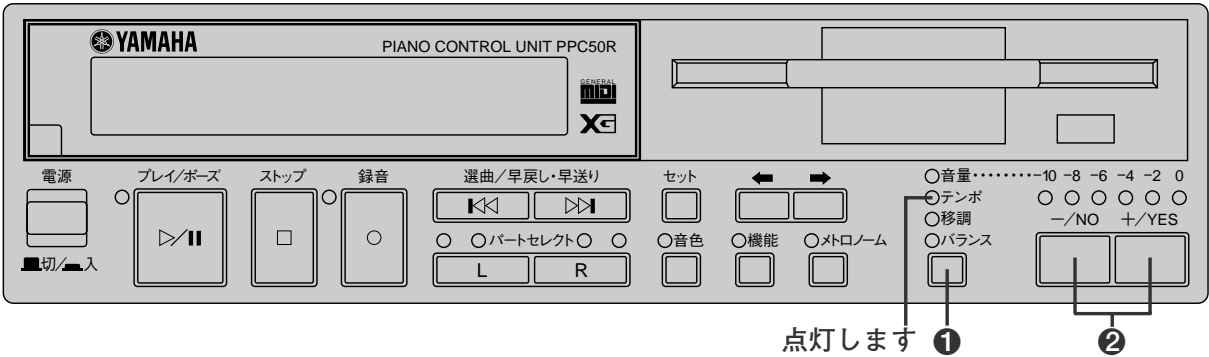


- セレクトボタンは、音量～バランスの4機能のいずれかを選択するボタンです。押すごとに、音量→テンポ→移調→バランス(→音量……)の順で各機能が呼び出されます。選択されている機能はセレクトボタン上部のランプで確認できます。
- /NO、+/YESボタンを同時に押すと、直接オリジナルの調に戻ります。
- リモコンでは、移調専用ボタンで調節できます。また、0ボタンで直接オリジナルの調に戻ります。
- 別の曲を選んでも、調節された調で再生されます。
- 電源を切ったりフロッピーを取り出したりすると、オリジナルの調に戻ります。



- ピアノ電子音の再生音が移調されます(ピアノの音は鳴りません)。

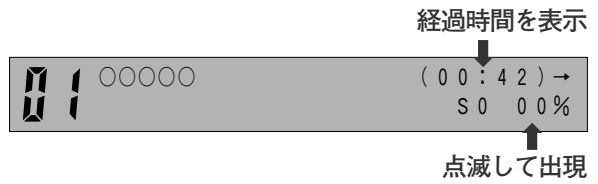
テンポ調節 テンポを変えて再生する



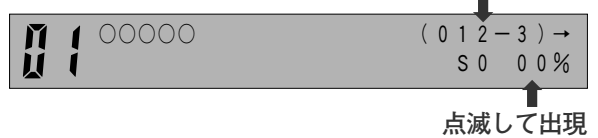
十ボタンで速く
-ボタンで遅く
0ボタンでオリジナルに
戻る



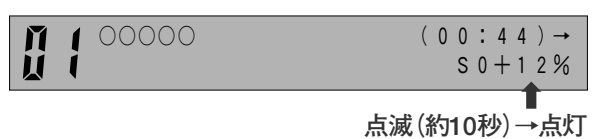
1 テンポランプが点灯していなければ、点灯するまで何回かセレクトボタンを押す



《メトロノーム録音の場合》 経過小節・拍を表示



2 -/NO、+/YESボタンでテンポを調節する

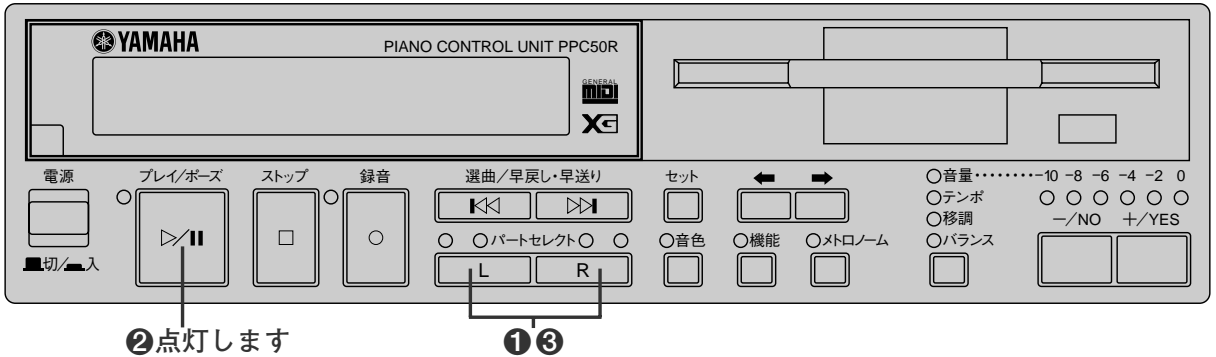


- テンポを調節します。再生・ポーズ・停止中とも操作できます。
- 1%きざみで、-50%～+20%の範囲で調節できます。



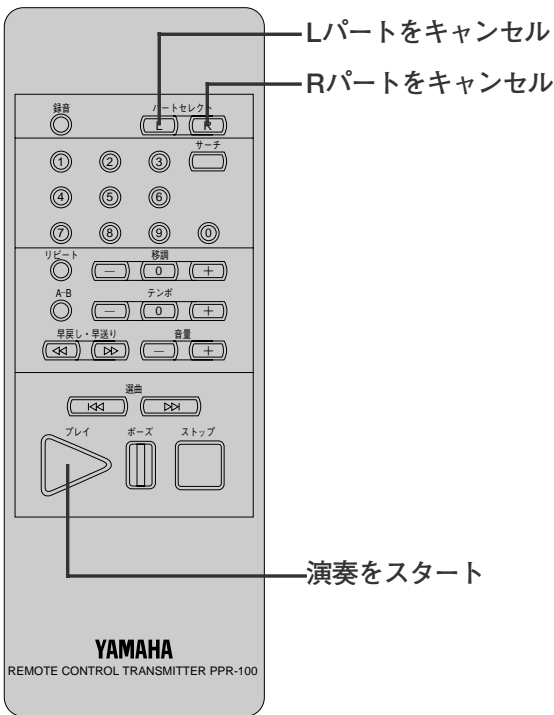
- セレクトボタンは、音量～バランスの4機能のいずれかを選択するボタンです。押すごとに、音量→テンポ→移調→バランス(→音量……)の順で各機能が呼び出されます。選択されている機能はセレクトボタン上部のランプで確認できます。
- /NO、+/YESボタンを同時に押すと、直接オリジナルのテンポに戻ります。
- リモコンでは、テンポ専用ボタンで調節できます。また、0ボタンで直接オリジナルのテンポに戻ります。
- 別の曲を選んで、調節されたテンポで再生されます。
- 電源を切ったりフロッピーを取り出したたりすると、オリジナルのテンポに戻ります。
- 曲のテンポを変更して記録したい場合は、P86「録音テンポ変更」参照。

パートキャンセル LR曲を片手パートずつ再生する



②点灯します

①③



LR対応曲を選曲して操作します

① パートセレクトボタンのキャンセルしたい方を押す



② プレイ/ポーズボタンを押すと、パートキャンセルの状態では再生スタート

③ もう1回①で押したボタンを押すと、パートキャンセル解除



※この間、ディスプレイには曲名が表示されています。



- LR対応ソフト(P26参照)やLR録音(P60「楽しみ方を広げるLR録音」、P72「LR録音」参照)した曲で、ピアノパートの内で聴きたいパートだけ再生させる機能です。
- 片手パートだけの再生や、連弾曲などをパートごとに再生することができます。通常、Lは低音側・左手パート、Rは高音側・右手パートです。
- 再生・ポーズ・停止中とも操作できます。



- LR対応曲を選ぶと、パートセレクトボタンが2つとも緑に点灯します。
- 点灯しているパートが再生され、点滅しているパートがキャンセルされます。
- パートキャンセルとパートキャンセルの解除は、パートセレクトボタンを押すごとに切り換わります。
- 電源を切ったり、ディスクを取り出したりすると、パートキャンセルの設定は解除されます。



- もともと演奏が入っていないパートのランプは点灯しません。

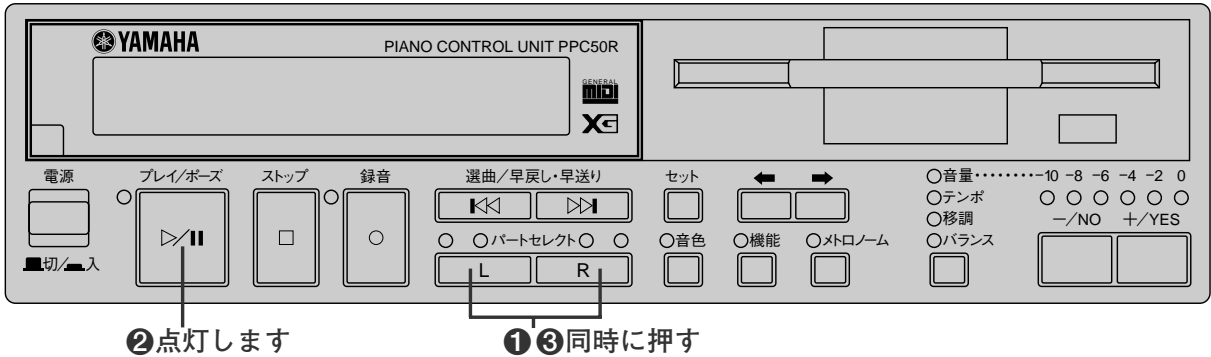


- ピアノ電子音の、指定したパートの再生がキャンセルされます。この状態で、鍵盤で演奏を行うと、ピアノ電子音が発音します。

ペダルキャンセル

ペダル効果なしで再生する

※ペダルキャンセルはリモコンでは操作できません。



① パートセレクトボタンを2つ同時に押す



点滅(約10秒)→点灯

② プレイ/ポーズボタンを押すと、ペダルキャンセル再生スタート



③ もう1回①の操作をすると、ペダルキャンセル解除



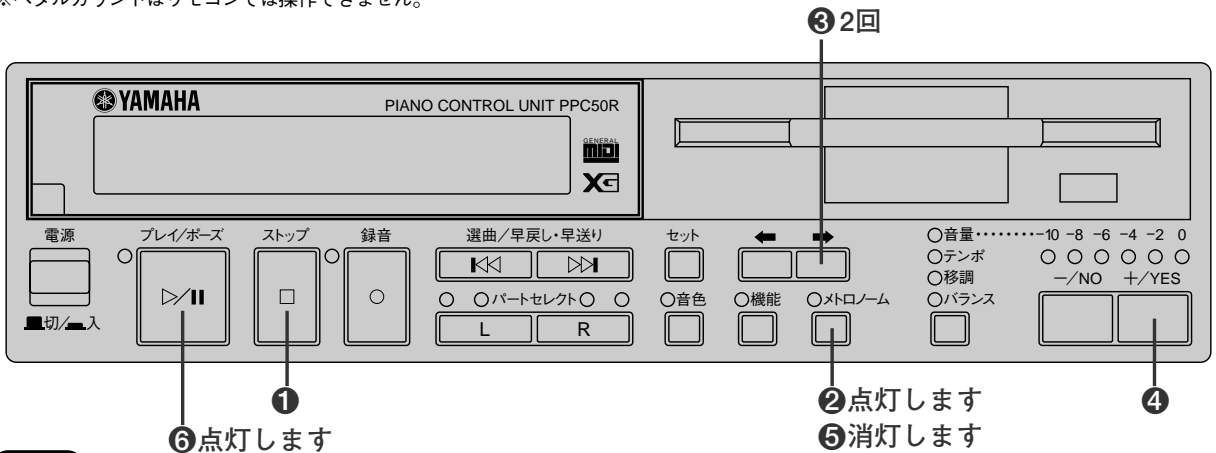
- ピアノパートのペダル効果をキャンセルして再生します。再生・ポーズ・停止中とも操作できます。
- LR対応曲でピアノパートの片方のパートのみ再生し、もう片方のパートを演奏しつつ、ペダリングを行う場合などに使います。



- ペダル効果をキャンセルして、ピアノ電子音の再生を行います。

ペダルカウントの再生 弾きはじめのきっかけを知らせる機能

※ペダルカウントはリモコンでは操作できません。

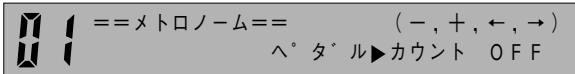


1 再生中等であれば、ストップボタンを押して停止させる

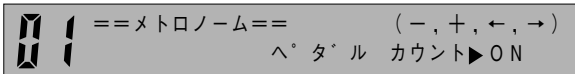
2 メトロノームボタンを押す



3 カーソルボタン⇔を2回押して「ペダルカウント▶OFF」と表示させる



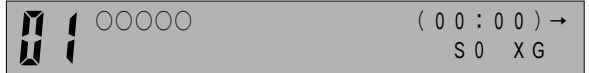
4 +/YESボタンを押して、「ペダルカウント▶ON」と表示させる



5 もう1回メトロノームボタンを押せば、設定終了

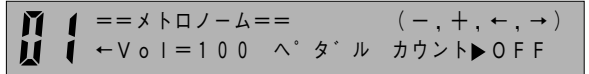


6 プレイ/ポーズボタンを押せば、ペダルカウントスタート



《ペダルカウントの解除》

4の画面を呼び出し、-/NOボタンを押して、「ペダルカウント OFF」と表示させる



- 曲の開始前に電子メトロノーム音とダイヤル上部の点滅で、テンポや弾き始めのきっかけを知らせる機能です。
- あらかじめペダルカウントを録音する必要があります(P84「ペダルカウントの録音」参照)。また、LR対応ソフトの中にはペダルカウントが録音されているタイトルもあります。
- 再生がスタートすればカウントは止まります。



- 自動演奏と一緒に弾き始める時などに便利です。



- オンにすると、電源を切るか、ペダルカウントを解除するまで有効です。
- 電子メトロノーム音は本機のOUTPUT端子から出力されますので、本機の再生を聴くのと同一方法(ヘッドフォンやスピーカーなど)でお聴き下さい。

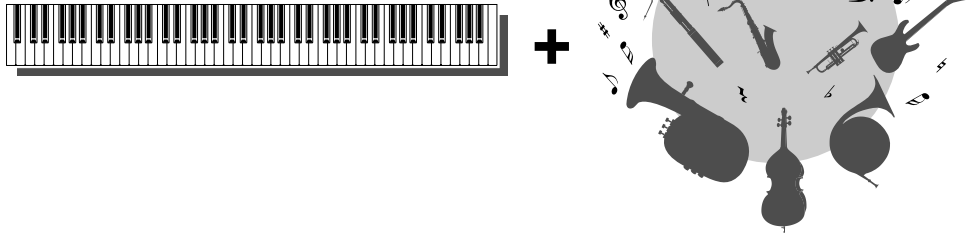


- ピアノ電子音を使ったメトロノームが鳴り、ヘッドフォンまたは補助出力端子(AUX OUT)に接続したスピーカーでお聴きになれます。

アンサンブル曲とは…

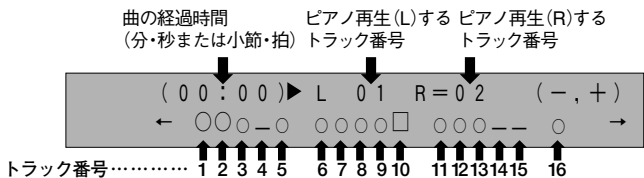
- 本取扱説明書で「アンサンブル曲」とは、『ピアノパートとそれ以外の楽器パート(=アンサンブルパート)を持った曲』のことです。例えば、ピアノ、ベース、ドラムスのピアノトリオ曲、ピアノと弦楽四重奏のピアノ五重奏曲、ピアノとビッグバンド、ピアノとオーケストラなど、さまざまな編成のアンサンブル曲が可能です。「ピアノソフトプラス」などの市販のアンサンブルソフトをリスニングするだけでなく、自分でアンサンブル曲を録音して、再生することもできます。
- MIDI端子付きのピアノに本機を組み合わせれば、このアンサンブル曲が楽しめるようになります。標準設定では、ピアノパートをピアノ側が担当し、アンサンブルパートを内蔵電子音源が担当します。

- ピアノ用のパートはピアノが、アンサンブルパートは内蔵電子音源が発音



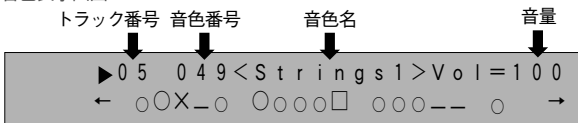
- アンサンブル曲には、こうしたさまざまな楽器パートを記録しておく場所(トラックと呼びます)が、16トラックあります。16段の楽譜のように考えることもできます。

●トラック表示画面



- ……ピアノ再生パート
- ……アンサンブルパート
- ……リズムパート(通常、トラック10)
- ……演奏が入っていない
- ※録音時には、録音トラックが●や■で表示されます。

●音色表示画面



- サイレントアンサンブルピアノには、アンサンブル曲を楽しむための便利な機能が用意されています。ぜひこれらの機能も使いこなしてください。

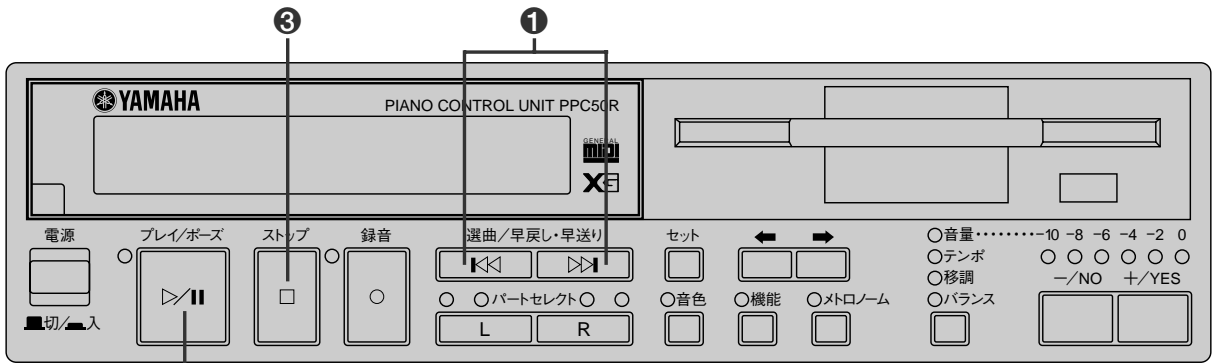
- ◆ピアノパートセレクト アンサンブルパートを、接続されたピアノ側(ピアノ音源)で再生[再生時の一時的な変更]
- ◆マスターバランス ピアノパートとアンサンブルパートの音量バランスを変更する
- ◆アンサンブルパート音色表示 再生時にパートごとの音色や音量を表示・変更する
- ◆マスターチューン 内蔵電子音源を接続されたピアノに合わせてチューニングする
- ◆ピアノパートセット ピアノで再生するトラックを変更する[アンサンブル録音の機能]

[*参照ページ]

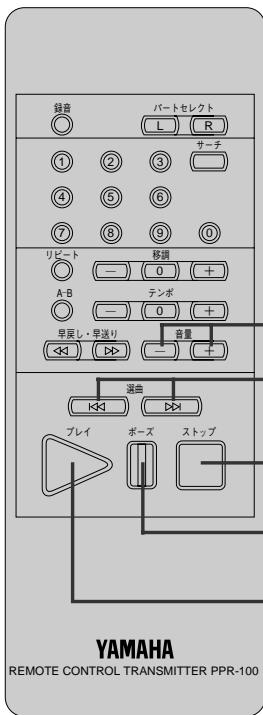
- ◆アンサンブル曲の再生…P44
- ◆アンサンブルパート音色変更…P47
- ◆ピアノパートセット…P78
- ◆マスターバランス…P45
- ◆マスターチューン…P48
- ◆リズムパートの録音…P80
- ◆ピアノパートセレクト…P46
- ◆アンサンブルパートの録音…P76

アンサンブル曲の再生 ①

再生 アンサンブル曲を再生しましょう



②点灯します



十ボタンで
トータル音量を大きく
一ボタンで
トータル音量を小さく

曲を選びます

演奏をストップ

演奏を一時停止

演奏をスタート



アンサンブル曲の再生

① アンサンブル曲を選ぶ



② プレイ/ポーズボタンを押せば、再生スタート



③ ストップボタンを押せば停止



- アンサンブル曲とは、ピアノ以外のアンサンブルパートをもった曲のことです。
- アンサンブル曲の再生では、ピアノパートを本機に接続されたピアノが、ピアノ以外のアンサンブルパートを本機の内蔵音源が再生します。

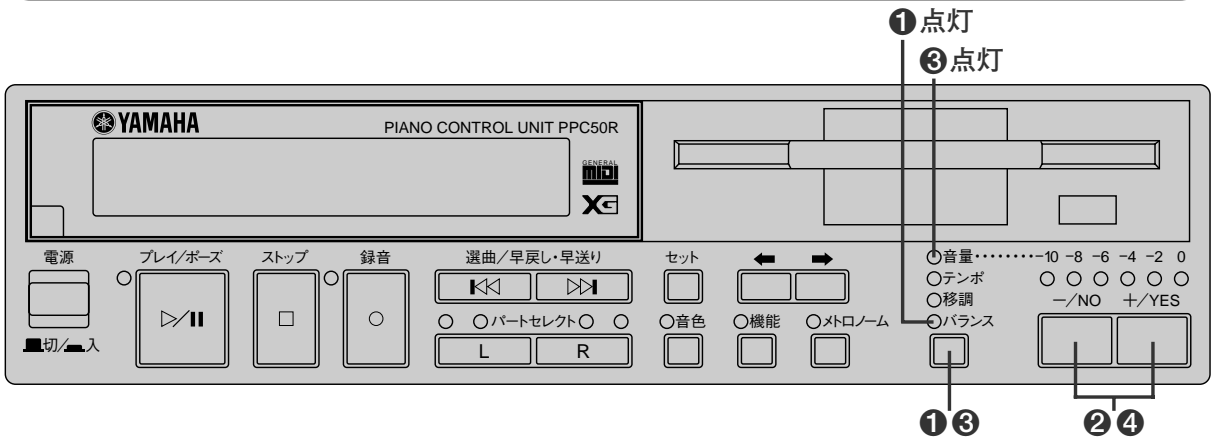


- 再生に関する操作は、ふつうの曲と全く同じ。一時停止、選曲、早送り・戻し、音量・移調・テンポの調節なども行えます。
- アンサンブル曲の録音方法はP76参照。



- リズムパートはリズム音色を正しく再生するため、移調の設定にかかわらず移調されません。

マスターバランス ピアノパートとアンサンブルパートの音量バランスを変更する



再生中に音量を確認しながら操作します

- 1 バランスランプが点灯するまで何回かセレクトボタンを押す



↑ アンサンブルパートの再生音量

- 2 ピアノとバランスがとれるよう、内蔵音源の音量を -/NO、+/YES ボタンで調節する



以上でマスターバランスが新しい設定に変更されました。トータル音量を調節したい場合は、引き続き③④の操作を行ってください。

- 3 セレクトボタンを1回押して、音量ランプを点灯させる



- 4 -/NO、+/YES ボタンでトータル音量を調節する
②で設定したバランスを保ってピアノパートとアンサンブルパートの音量が一緒に変化する



- 音量調節を行うと、ピアノの音量とアンサンブルパートの音量と一緒に変化しますが、マスターバランスは、アンサンブル曲の再生中に、ピアノの音量とアンサンブルパートの音量のバランスをとる機能です(停止中でも設定はできません)。
- 内蔵音源の音量は、10(最小)~100(初期値)~127(最大)の範囲で調節できます。



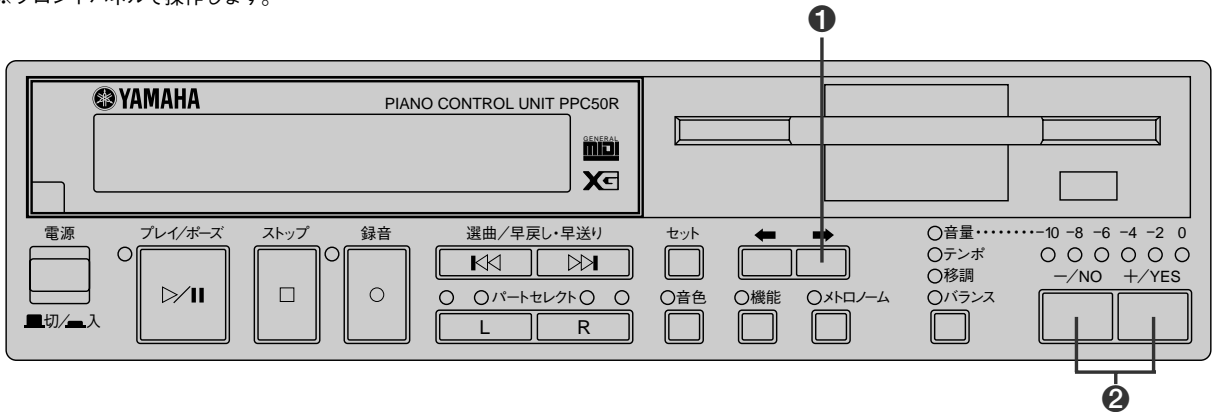
- -/NO、+/YES ボタンを同時に押すと初期値(100)になります。



- マスターバランスは、リセット機能を実行するまで記憶されています(P128参照)。
- マスターバランスの操作はリモコンでは行えません。

ピアノパートセレクト アンサンブルパートをピアノで一時的に再生する

※フロントパネルで操作します。



1 曲名表示画面で、カーソルボタン \leftarrow を1回押し、トラック表示画面を呼び出す



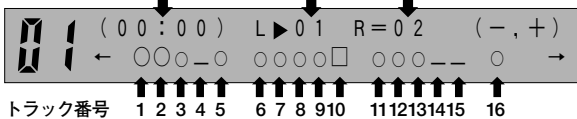
2 -/NO、+/YESボタンでピアノで再生したいトラックを選ぶ



●アンサンブル曲は、16のパートからできており、パートのことを「トラック」と呼びます。通常、トラック1と2はピアノ用(変更する場合は、P78「ピアノパートセット」で行います)で、特別にLパート、Rパートと呼んでいます。そして3~16の14トラックがそれ以外のアンサンブルパートの記録に用いられます(トラック10は通常リズムパートに使われます)。

[アンサンブル曲のトラック表示の見方]

曲の経過時間 ピアノ再生 (L) ピアノ再生 (R)
(分・秒または小節・拍) するトラック番号 するトラック番号



- ……ピアノ再生パート
- ……アンサンブルパート
- ……リズムパート(通常、トラック10)
- ……演奏が入っていないことを示します

- E-SEQフォーマットでハーフペダル対応曲の場合、トラック3には「X」が表示されます。
- ピアノパートセレクトは、アンサンブルパートのトラックを、ピアノで一時的に再生する機能です(データは変更されません)。



●Rパートは、カーソル \leftarrow で「R▶02」と表示させ、②と同様に設定します。



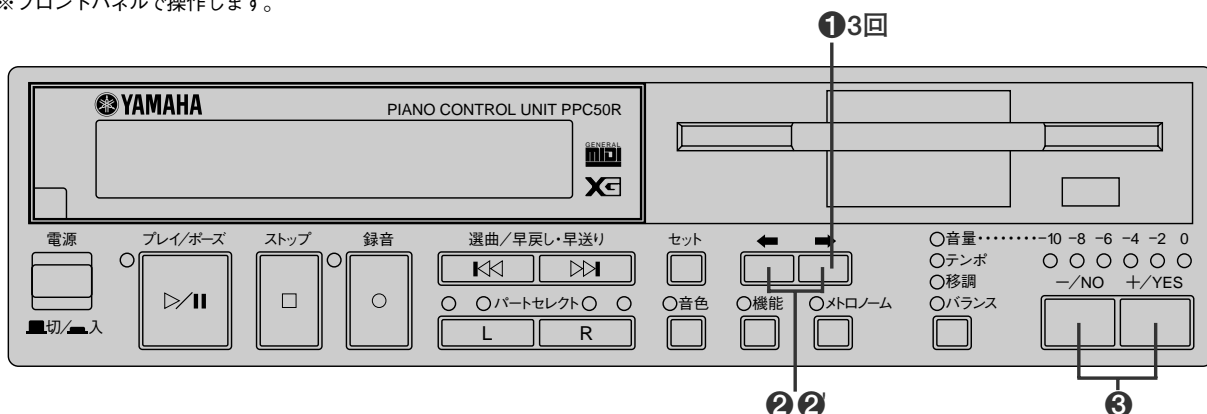
- 再生時にトラック画面を表示させておくと、内蔵音源で演奏中のトラックが点滅します。音量・移調・テンポ・リピート機能は、前画面に戻して操作します。
- 別の曲を選ぶと、ピアノパートセレクトの設定は解除されます。



●ピアノパートやL、Rに割り当てたアンサンブルパートはピアノ電子音で再生されます(ピアノの音は鳴りません)。ヘッドフォンまたは補助出力端子(AUX OUT)に接続されたスピーカーでお聴きになれます。

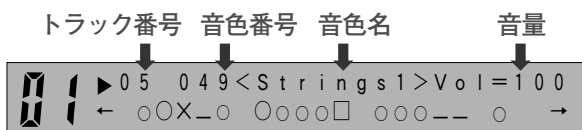
アンサンブルパート音色変更 アンサンブルパートの音色を変更する

※フロントパネルで操作します。



曲再生中、もしくはポーズ中に操作します

- 1 曲名表示画面で、カーソルボタン⇄を3回押し、音色設定画面を呼び出す



- 2 カーソルボタンで設定する項目 (トラック、音色、音量) を選ぶ



- 2 拡張音色を選ぶには、カーソルボタンで▶を音色名の前に移す

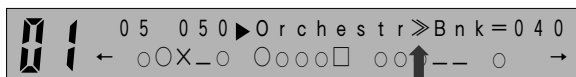


カーソル位置 バンク番号表示に変わる

- 3 -/NO、+/YESボタンで、トラック、音色、音量を設定する



拡張音色を設定している場合の表示



二重カッコに変わる



- アンサンブルパート音色変更で、各アンサンブルパート(トラック)ごとの音色や音量を一時的に変更することができます。トラックを選び、音色・音量を設定します。

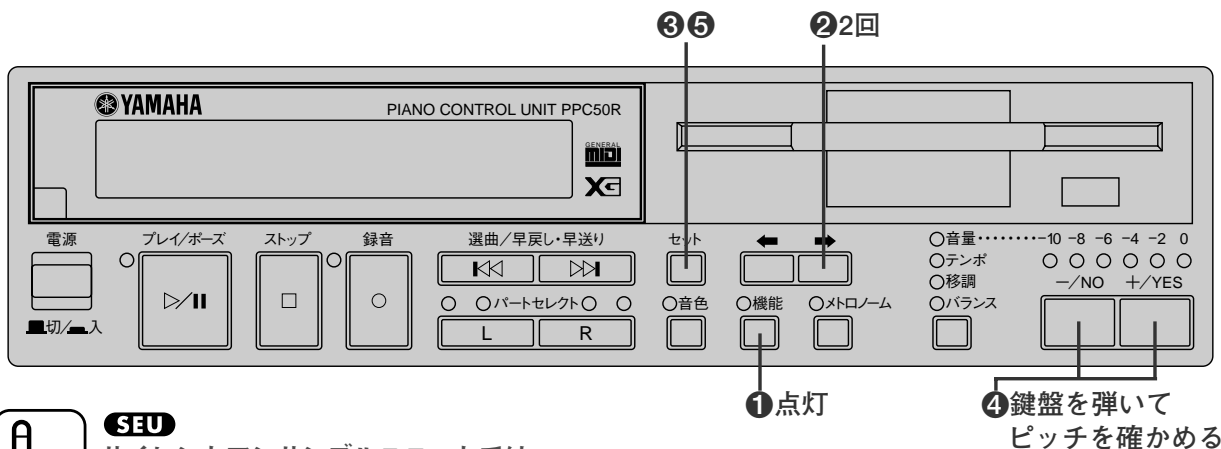


- 本機のフロントパネルで選べる内蔵電子音源の音色は、480ノーマル音色+11ドラム音色(ディスプレイの音色名は8文字以内に省略して表示しています)。拡張音色はP134~135参照、音色番号・音色名一覧表はP132参照。



- 一時的でなく完全に別の音色・音量に変更してしまう場合は、P76「アンサンブル録音」で、音色番号・音量のみ再録音します。
- MIDIデータにより演奏する場合の内蔵電子音源の音色数は、676ノーマル音色+21ドラム音色です。

マスターチューン 内蔵電子音源をピアノの音程と合わせる



SEU
サイレントアンサンブルユニットではサイレントモードを解除してください。

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

EU

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune

2 カーソルボタン \leftarrow を2回押して、「▶ M-Tune」と表示させる

SEU

* ティスク *MIDI Setup →
▶ M-Tune *サイレント

EU

* ティスク *MIDI Setup →
▶ M-Tune



- 鍵盤を弾くと、ピアノ本体と本機が同時に発音します。音のごり、うなりが無くなるように、チューニング値(セント値)を上下させ、本機の音程を接続したピアノの音程に合わせます。
- 電子音源のピッチは一般にA3=440Hzですが、この機能を使えば440Hz以外に調律されたアコースティックピアノに合わせて、内蔵電子音源をチューニングするといったことが可能です。
- ピッチコントロール機能の可変範囲

+001~+050セント	ピッチを上げる
0セント	A3=440Hz
-050~-001セント	ピッチを下げる

※440Hzに対し1Hzは約4セントです。



- ④で、- / NO、+ / YESボタンを同時に押すと000 (440Hz)に戻ります。
- この設定は電源を切っても記憶されています。



- リセット機能(P128参照)を実行した場合、工場出荷時の状態(000セント)に戻ります。

3 セットボタンを押してマスターチューン機能呼び出す

==TG Master Tune==
▶ 000 セント (-, +, セット)

4 鍵盤を弾いてみて、音のごりやうなりが無くなるよう、- / NO、+ / YESボタンで調整する

==TG Master Tune==
▶ +003 セント (-, +, セット)

5 チューニングが合ったらセットボタンを押す

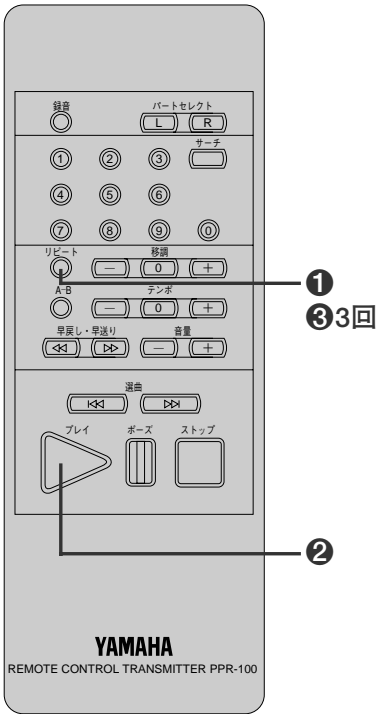
※元の画面に戻ります。



- ピッチコントロールを行うと、内蔵電子音源だけでなくピアノ電子音も同一にチューニングされ、ピアノとピアノ電子音と外部電子音源を一斉にチューニングすることになります。

全曲リピート 全曲を繰り返し演奏する

※リピート機能はリモコンでのみ操作できます。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



① リピートボタンを1回押す



点滅して出現(約10秒)→点灯

② プレイボタンを押せば、リピート演奏スタート



③ リピートボタンを3回押してOFFを表示させれば、リピート解除



- メモリディスクまたはフロッピーの全曲を1曲目から順に繰り返し演奏させる機能です。再生・ポーズ・停止中とも操作可能。
- リピート機能には、全曲リピート(ALL)、1曲リピート(RPT)、ランダムリピート(RND)、A-Bリピート(A-B)、リターン&ストップ(A)があります。



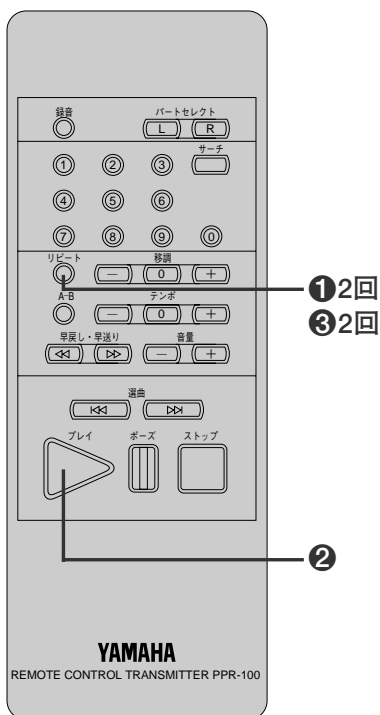
- リピートボタンを押すごとに、ALL→RPT→RND→OFF(解除)が設定できます。
- 電源を切ったりフロッピーを取り出すと、ふつうの再生に戻ります。



- 複数のリピート機能を組み合わせて使用することはできません。

1曲リピート 1曲を繰り返し演奏する

※リピート機能はリモコンでのみ操作できます。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



1 リピートボタンを2回押す



点滅して出現(約10秒)→点灯

2 プレイボタンを押せば、リピート演奏スタート



3 リピートボタンを2回押してOFFを表示させれば、リピートを解除



●1曲を繰り返し演奏させる機能です。再生・ポーズ・停止中とも操作可能。



- 繰り返し演奏する曲を、あらかじめ選曲(P34参照)してから操作します。
- リピートボタンを押すごとに、ALL→RPT→RND→OFF(解除)が設定できます。
- 電源を切ったりフロッピーを取り出したりすると、ふつうの再生に戻ります。

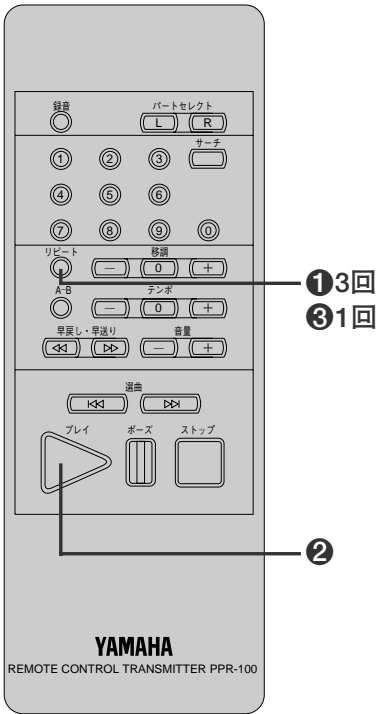


●複数のリピート機能を組み合わせて使用することはできません。

ランダムリピート

全曲をランダムな曲順で演奏する

※リピート機能はリモコンでのみ操作できます。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



1 リピートボタンを3回押す



点減して出現(約10秒)→点灯

2 プレイボタンを押せば、リピート演奏スタート



3 リピートボタンを1回押してOFFを表示させれば、リピートを解除



●メモリディスクまたはフロッピーに入った全曲をランダムな曲順で演奏させる機能です。再生・ポーズ・停止中とも操作可能。



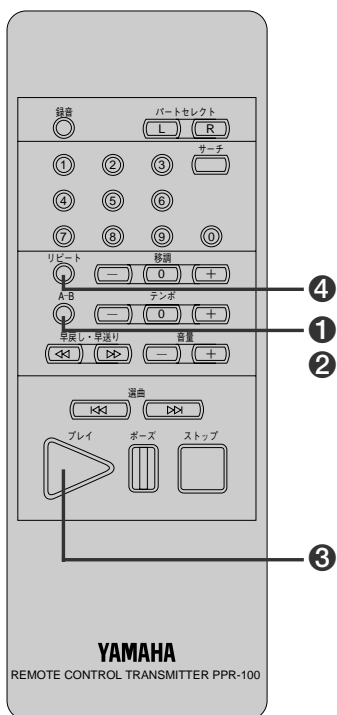
●リピートボタンを押すごとに、ALL→RPT→RND→OFF(解除)が設定できます。
 ●電源を切ったりフロッピーを取り出したりすると、ふつうの再生に戻ります。



●複数のリピート機能を組み合わせて使用することはできません。

A-Bリピート 曲中の2点を指定し、その間を繰り返し演奏させる

※リピート機能はリモコンでのみ操作できます。



1 再生中にリピート開始個所でA-Bボタンを押す



Bが点減

2 リピート終了個所でもう1度A-Bボタンを押すとリピート開始個所まで早戻しし、一時停止する

A点に戻ってポーズ



3 プレイボタンを押せば、A点から演奏スタート



※B点まで再生されると再びA点まで早戻しされ、繰り返しプレイボタンで演奏をスタートできます。

4 リピートボタンを押してOFFを表示させれば、リピートを解除



- 1曲中の2点(A点・B点)を指定し、A-B間を繰り返し演奏させる機能です。
- 曲を再生させておき、A点、B点を指定します。B点を指定すると、自動的にA点に早戻しして一時停止します。

[A-Bリピート]



B点を指定すると自動的にA点まで戻って一時停止。プレイ/ポーズボタンを押すと再生スタート。



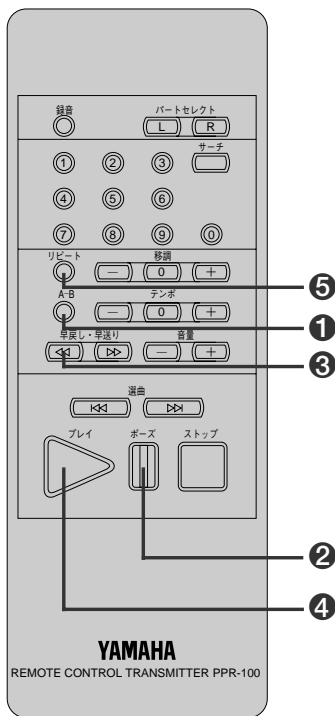
- ④でリピートを解除してもA点・B点は記憶されています。再度A-Bボタンを押すと、ディスプレイの「OFF」が「A-B」に変わり、A-Bリピートが行えます。
- 記憶されているA点・B点を変更したりクリアしたい場合は、「A-B」が表示されている状態で、A-Bボタンを押します。
- 電源を切ったりフロッピーを取り出したりすると、ふつうの再生に戻ります。



- 複数のリピート機能を組み合わせて使用することはできません。

リターン&ストップ 繰り返し早戻ししたい、曲中の1点を記憶させる

※リピート機能はリモコンでのみ操作できます。



1 再生中に繰り返し開始個所でA-Bボタンを押す



Bが点滅

2 ポーズボタンを押して、一時停止させる



3 早戻しボタンを押すと、**1**で設定した個所に戻って、一時停止



4 プレイボタンを押せば、A点から演奏スタート



5 リピートボタンを押してOFFを表示させれば、リピートを解除

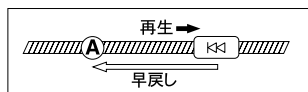


※ **5**でリピート演奏を解除し、ふたたびリターン&ストップを使う時は、リピートボタンを押してディスプレイにA-B(Bは点滅)と表示させます。



●繰り返し開始のA点のみ指定して再生し、好きな個所からA点に早戻しして一時停止させる機能です。

[リターン&ストップ]



A点のみ指定し、早戻しボタンを押すと、A点に戻って一時停止します。プレイボタンを押すと再生スタート。



●早戻しボタンは、押したらすぐに離します。

●**5**でリピートを解除してもA点は記憶されています。再度A-Bボタンを押すと、ディスプレイの「OFF」が「A-B」に変わり、リターン&ストップが行えます。

●記憶されているA点を変更したりクリアしたい場合は、**3**の一時停止状態で、A-Bボタンを押します。

●電源を切ったりフロッピーを取り出したりすると、ふつうの再生に戻ります。



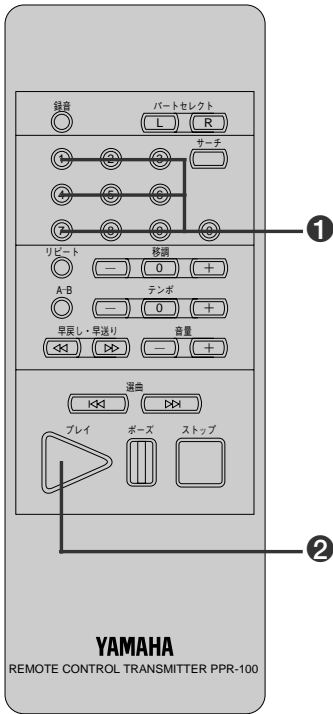
●**2**のポーズボタンを省略して早戻しボタンを押すと、サウンド早戻しでA点に戻ります。

●2曲以上にまたがって使用することはできません。

ダイレクト選曲

リモコンで聴きたい曲をサッと選曲

※サーチ機能はリモコンでのみ操作できます。



① テンキーで曲番号を押す



※例えば12曲目を聴きたい時は、テンキーの①を押し、次に②を押します。

② プレイボタンを押せば演奏スタート



●リモコンのテンキーで曲番号を直接指定して、聴きたい曲を再生できます。再生・ポーズ・停止・録音待機中とも選曲可能。



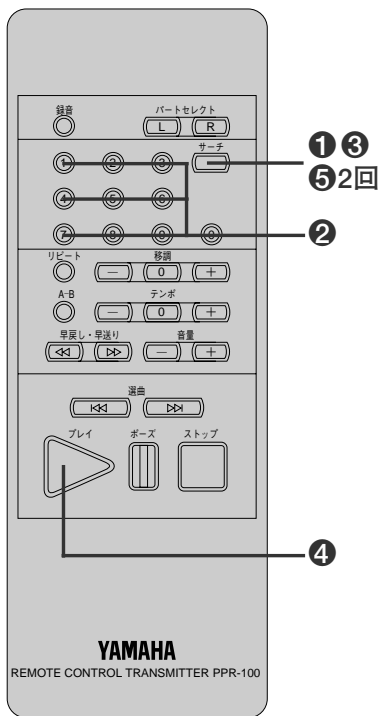
- 再生中に操作すると、曲番号が点滅後選曲した曲が演奏スタート。②の操作は必要ありません。
- ポーズ・停止中に操作すると、選曲された曲の頭で停止します。プレイボタンを押して演奏をスタートさせてください。
- 曲番号が一桁の場合は「01」または「1」と押します。



●記録されている曲数より大きい曲番号を指定すると、最後の曲が選曲されます。例えば、10番までの場合に11番以降を指定すると10番が選ばれます。

ダイレクトサーチ リモコンで聴きたいところを頭出し

※サーチ機能はリモコンでのみ操作できます。



再生中、またはポーズ・停止中に操作します

1 サーチボタンを押す



2 テンキーで頭出しするところの経過時間を入力します



《メトロノーム録音の場合》



3 もう1回サーチボタンを押せば、指定個所をサーチします。

4 プレイボタンを押して演奏スタート

※再生中に操作した場合は不要です。



5 サーチボタンを2回押せば、再び指定個所をサーチします。

※ポーズ・停止中に操作した場合は、プレイボタンを押して演奏をスタートさせます。

※再生中に操作した場合は、頭出しの地点から演奏が始まります。



●ダイレクトサーチは、A-Bリピートやリターン&ストップと違って、分・秒(時間録音)、小節・拍(メトロノーム録音)で、選択されている曲の中の再生開始個所を指定できる機能です。サーチ個所は、電源を切ったりフロッピーを取り出すまで記憶しています。

●例えば②は、テンキーで①②③④と入力します。

●再生中に操作すると、指定した個所から自動的に演奏がスタートします。ポーズ・停止中に操作すると、指定個所で一時停止します。プレイボタンを押して、演奏をスタートさせてください。



●実際の曲の長さより先の場所を指定すると、曲の末尾にサーチします。

メトロノーム

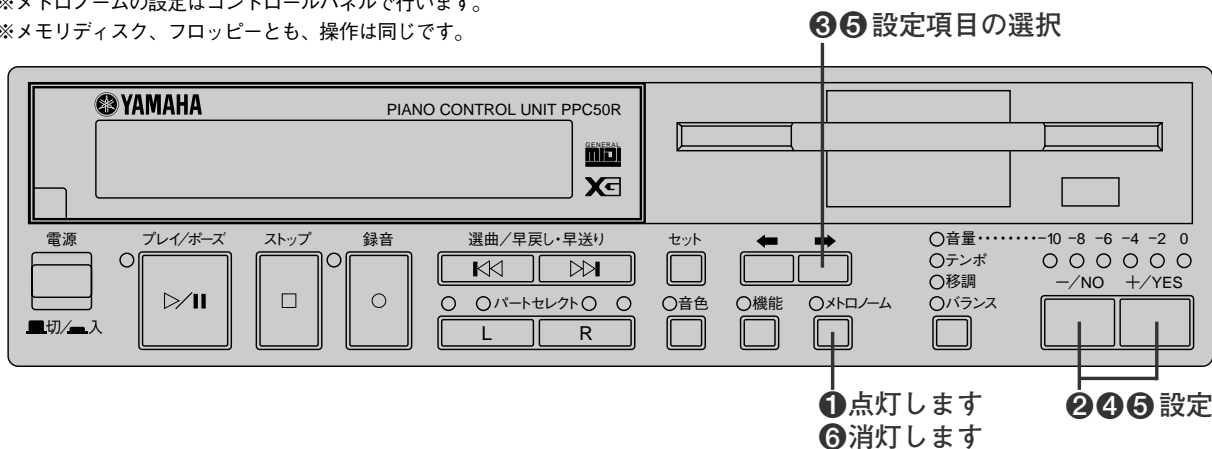
メトロノーム機能のご紹介

本機は目と耳でテンポを確認できる電子音メトロノームを内蔵しています。この章では、自動演奏の停止中にメトロノームを使う方法を中心に説明しています。さらに、このメトロノームを使って録音すると、曲の経過時間が小節/拍で記録・表示されます。

内蔵メトロノームの使い方	メトロノーム機能	P58
メトロノームの設定範囲	メトロノーム機能	P58
メトロノームを使って録音する	メトロノーム録音	P70
弾きはじめのきっかけをつかむ	ペダルカウン트의再生	P42
弾きはじめのきっかけを録音する	ペダルカウン트의録音	P84

メトロノームの使い方 内蔵メトロノームを使ってみましょう

※メトロノームの設定はコントロールパネルで行います。
 ※メモリスティック、フロッピーとも、操作は同じです。



自動演奏の停止中に

1 メトロノームボタンを押す



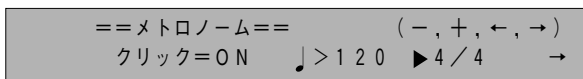
↑ 速さを設定 拍子を設定

メトロノーム音を発音する(ON)/
しない(OFF)の選択

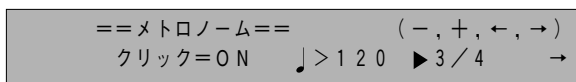
2 -/NO、+/YESボタンで速さを設定する



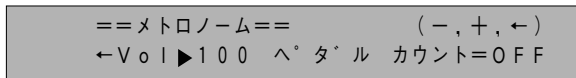
3 カーソルボタン⇨で「▶4/4」と表示させる



4 -/NO、+/YESボタンで拍子を設定する



5 カーソルボタン⇨で次画面を表示させ、-/NO、+/YESボタンでメトロノーム音量を設定する



※カーソルボタン⇨で前画面に戻ります。
 ※SEUサイレント機能使用時のみ「V o l ▶ 1 0 0」と表示され、メトロノーム音量が設定可能です。

6 もう1回メトロノームボタンを押せば、メトロノーム解除



- メトロノーム音と-/NO、+/YESボタン上部の点滅で、拍子・テンポを知らせます。
- メトロノームの設定範囲

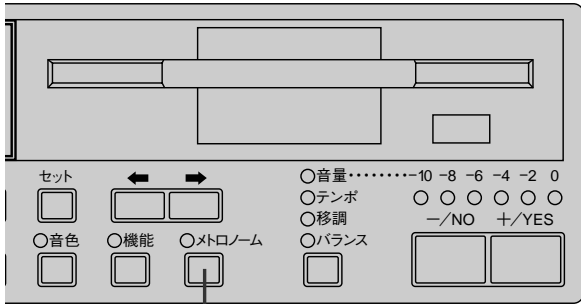
メトロノーム音	ON (発音する)、OFF (発音しない)
テンポ=♪	30~400 (♪=001ステップ) *数値は1分間の拍数です
拍子	1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、8/4、9/4
音量	50~127 (SEU サイレントモード時)

※メトロノーム録音時も設定範囲は同じです。

●拍子はすべて4分音符で、テンポも常に♪=○○○でカウントします。拍子を8分音符で数えるものや、♪=○○○などのテンポは換算してください。



- ①~④の画面でカーソルボタン⇨を1回押し、-/NOボタンで「クリック=OFF」とすれば、メトロノームを鳴らさずに、ディスプレイ上部の点滅のみでテンポをカウントさせることもできます。
- メトロノームボタンが点灯していれば、いつでも設定を変更できます。
- ②④で、-/NO、+/YESボタンを同時に押しと、①の初期値に戻ります。



- ①点灯します
- ②消灯します



メトロノーム録音曲の再生中に

- 1 メトロノームボタンを押すとメトロノームが鳴りはじめる
- 2 再度メトロノームボタンを押すとメトロノーム音が止まる

※メトロノーム録音曲に限り、録音時のテンポでメトロノームを鳴らすことができます。

[- / NO、+ / YESボタン上部の点灯による拍の表示]

次のように点滅して、テンポ・拍を知らせます。

1拍目	-10	-8	-6	-4	-2	0
	●	●	●	●	●	●
2拍目	-10	-8	-6	-4	-2	0
	○	○	○	●	●	●
3拍目	-10	-8	-6	-4	-2	0
	●	●	●	○	○	○



- トラック10に他のパートをトラック移動／コピーすると、そのパートの音色設定も移動／コピーされ、メトロノーム音はその音色で発音します。
- 電源オフで速さと拍子は初期値に戻りますが、メトロノームの音量は記憶されています。



- サイレントモード時は内蔵電子音源を使ったメトロノームが鳴ります。ヘッドフォンまたは補助出力端子(AUX OUT)に接続したスピーカーでお聴きになれます。
- トラック10に他のパートをトラック移動／コピーすると、そのパートの音色設定も移動／コピーされ、サイレント時にメトロノーム音はその音色で発音します。
- ⑥でメトロノームの音量が設定できます。

楽しみ方を広げるLR録音

- LR録音した曲は、1曲の中にL、Rの2パートが録音されています。LR録音対応ソフトやLR録音した曲が選曲されると、緑のパートセレクトボタンが2つとも緑に点灯します。

L	Left (左手)	低音側・左手パート
R	Right (右手)	高音側・右手パート

- 2つのパートを別々に再生できるのがパートキャンセル機能。ふつうの録音で録った曲は1パートしかないなので、パートキャンセルできません。
- LR録音なら、連弾曲をひとりりで仕上げたり、左手だけ集中練習したりと、使いこなしもいろいろ。演奏はフロッピーで持ち運びできるので、遠いところに住んでいる方との合奏なども楽しめます。
- 2つのパートを別々に録音する時、L、Rどちらのパートから先に録ってもかまいません。ペダリングは1パート目に録音されますが、2パート目で録音し直したい場合は、ペダルセットアップを使います。

ペダル	ロクオン	OFF	鍵盤演奏	1回目の演奏+2回目の演奏
			ペダリング	1回目のペダリング
ペダル	ロクオン	ON	鍵盤演奏	1回目の演奏+2回目の演奏
			ペダリング	2回目のペダリング

- LR録音してしまってから、再録音で1パートだけ録音し直すこともできます。再録音を行う場合は、L、Rどちらのパートを直すのかを指定しないと、下の表示になります。直したい方のパートセレクトボタンを押して、赤く点灯させれば、引き続き操作できます。

ロクオン トラックヲ エランテ`クダ`サイ

[*参照ページ]

◆LR録音……P72

◆LRスプリット録音……P75

録音

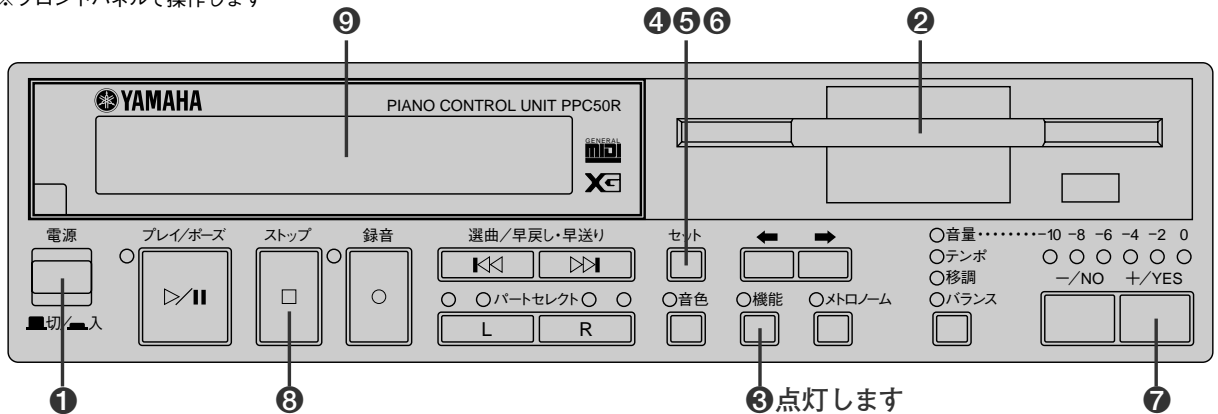
録音機能のご紹介

ご自分の演奏、お子さまの演奏、お友達の演奏……。再生だけでなく、録音できるのも本機の大きな特長です。ピアノだけでなく、リズムパートや伴奏パートを加えたアンサンブル曲の録音も行えます。なお、「フォーマットのしかた」は、フロッピーを使う前に必ずお読みください。

新しいフロッピーを買ったら	フォーマットのしかた	P62
基本的な録音方法は？	基本的な録音のながれ	P64
パートキャンセルできるソフトを作る	LR録音	P72
*2度目の録音のペダリングを生かす	LRセットアップ(ペダルロックオン)	P74
*両手を一度に録音する	LRスプリット録音	P75
ピアノ以外の楽器パートを録音する	アンサンブルパートの録音	P76
ピアノで再生するトラックを変更する	ピアノパートセット	P78
リズムセクションを録音する	リズムパートの録音	P80
フロッピーに名前をつける	タイトル入力	P68
曲名を入力する	タイトル入力	P68
メトロノームを使って録音する	メトロノーム録音	P70
弾きはじめのきっかけを録音する	ペダルカウントの録音	P84
メトロノーム通り正確なリズムで録音する	クオンタイズ	P82
何度かに分けて録音する	オーバーダビング	P82
録音した曲を録り直す	再録音	P66
録音した曲のテンポを変える	録音テンポ変更	P86
MIDI機器、パソコンからデータを記録する	MDR機能	P87

フォーマットのしかた 新しいフロッピーを使用する前に行います

※フロントパネルで操作します

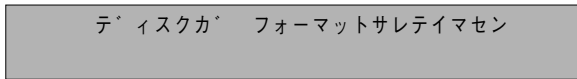


停止中に操作します

1 電源ボタンを押す



2 フォーマットしたいフロッピーを入れる
(3.5インチ2DD、2HDタイプ)



3 機能ボタンを押す

SEU



EU

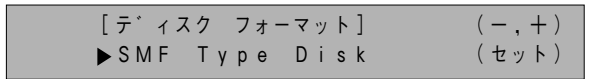


※メモリディスクのフォーマットはフロッピーを抜いた状態で**3**から操作を始めてください(フロッピーを入れる必要はありません)。

4 表示が「▶ディスク」となっていることを確認して、セットボタンを押す



5 表示が「▶フォーマット」となっていることを確認して、セットボタンを押す



※「SMF Type Disk」と「E-SEQ Type Disk」の切り換えは、-/NO、+/YESボタンで行います。



- 「フォーマット」は、フロッピーを本機で使えるようにする機能です。
- 新しくお買い求めになったフロッピーは、録音やディスクコピーに用いる前にフォーマットを行ってください。
- 5**の表示で、タイプを「SMF Type Disk」から「E-SEQ Type Disk」に変更することもできます。ディスクフォーマットのタイプについては、P19「様々なフォーマット」、P116「フォーマットについて」をご参照ください。
- 旧モデルのサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤと互換をとる場合は、2DDのフロッピーを使ってE-SEQタイプにフォーマットしてください。
- メモリディスクは工場出荷時にSMFタイプにフォーマットされていますが、再フォーマットをしたり、E-SEQタイプにフォーマットすることも可能です(メモリディスクのフォーマットは**3**から操作を始めます)。



- すでに内容が書き込まれているフロッピーやメモリディスクをフォーマットすることもできますが、その場合は内容がすべて消去されます。
- フロッピー(またはメモリディスク)の曲を全部消したい時には、フォーマットすると一度に行えます。
- 6**の表示で-/NOボタンを押せば、フォーマットをキャンセルして**5**の表示に戻ります。

6 もう一度セットボタンを押す

[ディスク フォーマット] イイテ スカ?
SMF Type Disk (YES, NO)

7 +/YESボタンを押すとフォーマット開始

99 シ ッコウチュウ
テ ィスクラ トリタ サナイテ !

※フォーマット中は、画面の曲番号表示部にフォーマットの進行具合が数字で表示されます。00でフォーマット終了。

※メモリディスクをフォーマット中は2行目(ディスクラ……)が表示されません。

8 約1分後下の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホ タンヲ オシテクタ サイ

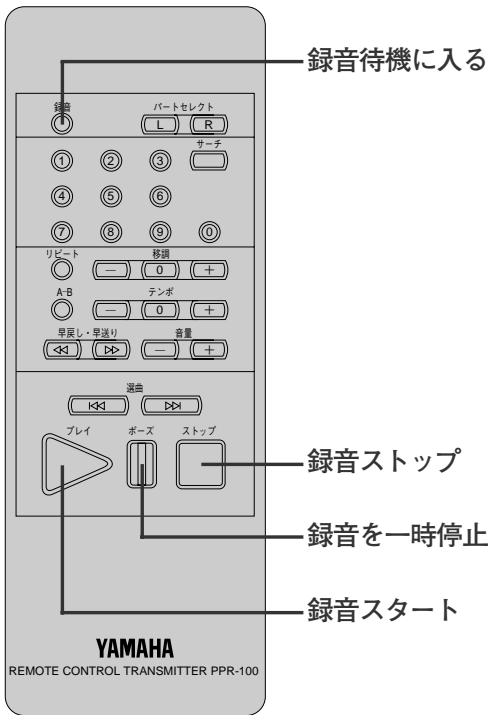
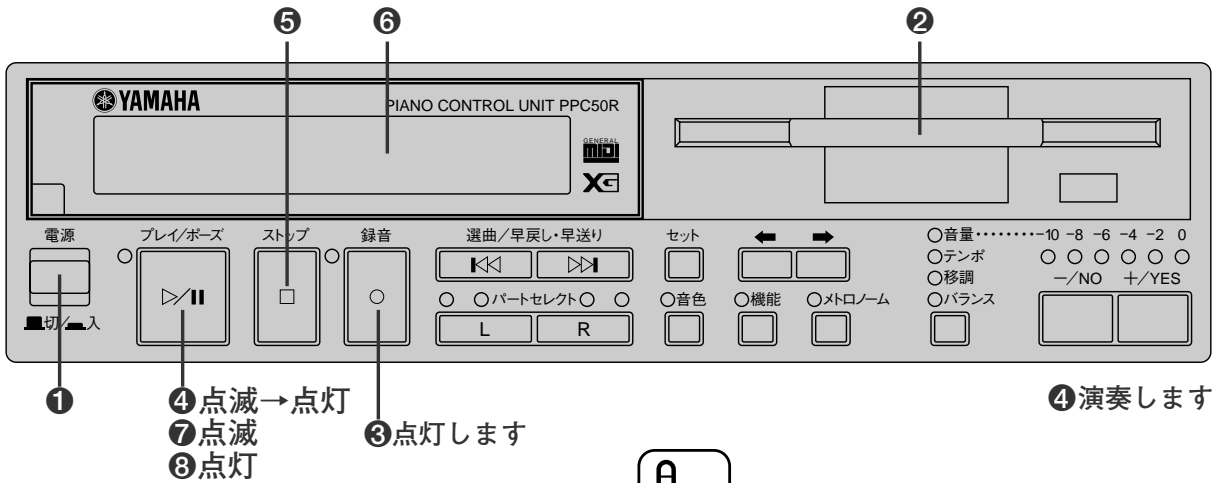
9 表示が変わったら、フォーマット終了

<----->
GM



- フォーマットを始めると(7で+/YESボタンを押すと)、9の表示になるまで途中で止めることはできません。その間にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンのフロッピーは、フォーマットできません(P16「フロッピーディスクについて」参照)。
- 8で「▶フォーマット」と表示されていない場合は、カーソルボタンを押して▶を移動します。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ディスクをフォーマットすることはできません。

基本的な録音のながれ ピアノ演奏の録音のしかたをマスターしましょう



① 電源ボタンを押す



SMF Type Diskが選ばれている状態

② フロッピーに録音する場合はフロッピーを入れる

メモリディスクに録音する場合はフロッピーは不要です。

③ 録音ボタンを押して、録音待機に入る



点滅 メモリディスク(またはフロッピー)の残量表示(%)



- 演奏を始めた時点から録音されます。
- フロッピーを入れないとメモリディスクに録音されます。フロッピーを入れておくとフロッピーに録音されます。
- 新しいフロッピーは必ずフォーマットしてから使用します(P62「フォーマットのしかた」参照)。
フォーマット時に選んだフォーマット(SMFまたはE-SEQ)で記録されます。



- 録音ボタンを押すと、新しい曲番号を表示。5曲録音されているメモリディスク(またはフロッピー)なら、自動的に6曲目が選ばれます。
- 新たに録音する場合、自動的にLパートに録音されます(変更も可能)。再生時、パートキャンセルして聴くためには、ここで左手パートのみ録音し、後でRパートに右パートを録音します。詳しくは「LR録音」(P72参照)をごらんください。
- ピアノ以外のアンサンブルパートやドラムパートを録音する場合は、④の録音待機状態で、カーソルボタン<> (または音色ボタン)を押して、トラック選択画面を呼び出してから行います。詳しくは「アンサンブルパートの録音」(P76)、「リズムパートの録音」(P80)をご覧ください。
- 録音後は自動的に「PIANO○○○○.○○○」が仮の曲名としてセットされます(ファイル名は自動的に割り振られます)。録音待機状態で録音ボタンを1回押すと、タイトルを付ける画面に移ります(P68「タイトル入力」参照)。
- 「メトロノーム録音」(P70)を行うと、曲の経過が「分・秒」でなく「小節・拍」で表示されます。

- 4** プレイ/ポーズボタンを押す(ピッと音がします)
演奏を始めてください
演奏を始めた時点から録音が始まり
カウンターが進み始めます



- 5** 演奏が終わったらストップボタンを押す



※フロッピーの場合は「ディスクロトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。

- 6** 表示が変わったら、録音終了

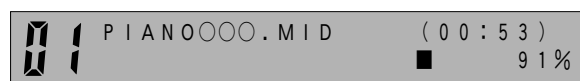


録音を一時停止したい時

- 7** プレイ/ポーズボタンを押せば、録音を一時停止



- 8** もう1回プレイ/ポーズボタンを押すと、録音再開



- 4で録音をスタートしたら、鍵盤を弾く前に、曲のテンポで数回ダンパーペダルを踏んでペダルカウントを録音することができます(P84「ペダルカウントの録音」、P42「ペダルカウントの再生」)参照。



- 録音を途中でやめたい時も、ストップボタンを押し、56の手順で終了してください。途中でフロッピーを取りだしたりしないでください。
- 6の表示で右下が「DSK」と点滅していたら、メモリディスク(またはフロッピー)の残量が10%以下です。メモリディスクが一杯になったら曲をフロッピーに移します(P104「曲コピー」、P108「ディスクコピー」参照)。フロッピーの場合は空きのあるものと交換してください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーに録音しようとする、「ディスクプロテクトガカッテイマス!」と表示されます。録音してよいフロッピーの場合は、ストップボタンを押し、フロッピーを取り出して、プロテクトをオフしてから録音してください。



- サイレント時には4でプレイ/ポーズボタンを押してもピッと音は鳴りません。

5 演奏が終わったら、ストップボタンを押す

ディスクニ ホソンシマスカ? (←, →)
▶オキカエ *シンキョク *キャンセル(セット)

6 3つのうちから選び、 カーソルボタンを押して▶を移動させる

ディスクニ ホソンシマスカ? (←, →)
*オキカエ ▶シンキョク *キャンセル(セット)

オキカエ…… 録音してあった元の曲を消して再録音曲のみ保存
シンキョク…… 元の曲も再録音曲も両方とも保存
キャンセル…… 再録音曲を保存せず元の曲のままにする

7 セットボタンを押す

ジッコウチュウ

※フロッピーの場合は「ディスクヲトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。

8 表示が変わったら、再録音終了

01 ○○○○ (00:00)→
S 0 GM

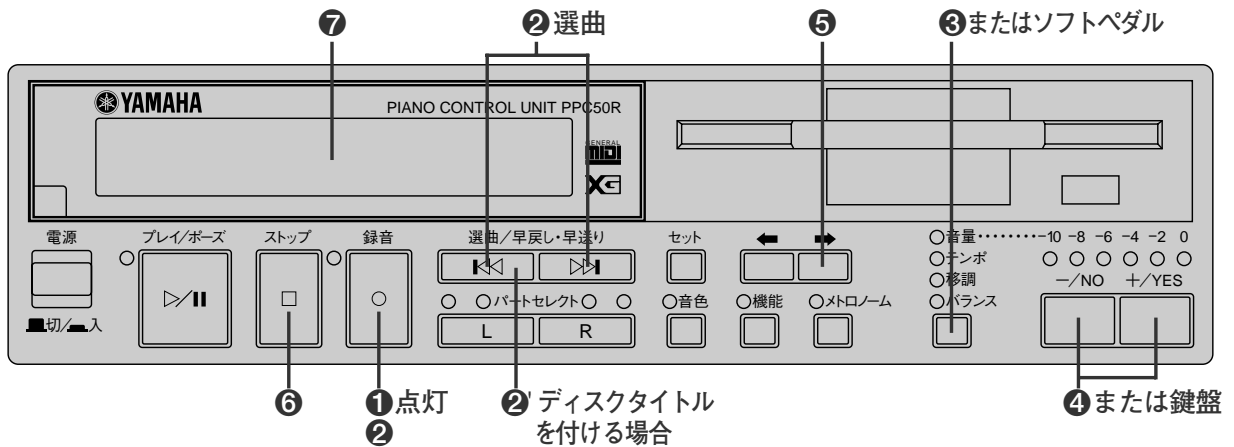


- 再録音するトラックに録音済みデータが入っていた場合、そのデータを破棄して新しく録音したデータのみ記録する(「オキカエ」)か、録音済みデータはそのまま新しく録音した演奏をプラスする(「カサネドリ」)かが選択できます(P82)。
- フロッピーに録音中や「ジッコウチュウ ディスクヲトリダサナイデ」の表示の時は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- 録音を途中でやめたい時は、まずストップボタンを押し、6のキャンセルを実行してください。再録音前の状態に戻ります。
- メモリディスク(またはフロッピー)の残量が10%以下の場合、ディスプレイ右下に「DSK」と表示されます。
- 67の操作は、リモコンではできません。
- スタンダードMIDIファイル・フォーマット1の曲は再録音できません。

- サイレント時には4でプレイ/ポーズボタンを押してもピツという音は鳴りません。

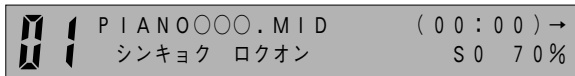


タイトル入力 曲名やディスクのタイトルを記録する



曲にタイトルを付ける場合

- 1** 録音ボタンを押して録音待機に入る



- 2** 曲にタイトルをつける場合は、選曲ボタンで曲を選び、もう1回録音ボタンを押す

カタカナや数字記号が入力できる状態



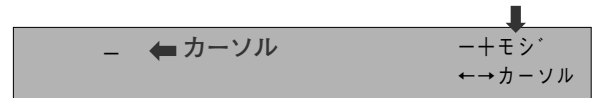
ディスクにタイトルを付ける場合

- 1** 録音ボタンを押して録音待機に入る



- 2** 1曲目を選び、さらに選曲/早戻しボタン(⏮)を押す(曲番号表示が消えるまで⏮を押し続ける)

カタカナや数字記号が入力できる状態



- 3** 英文字を入力したい時は、セレクトボタンを押すか、ソフトペダル(一番左のペダル)を1回踏む

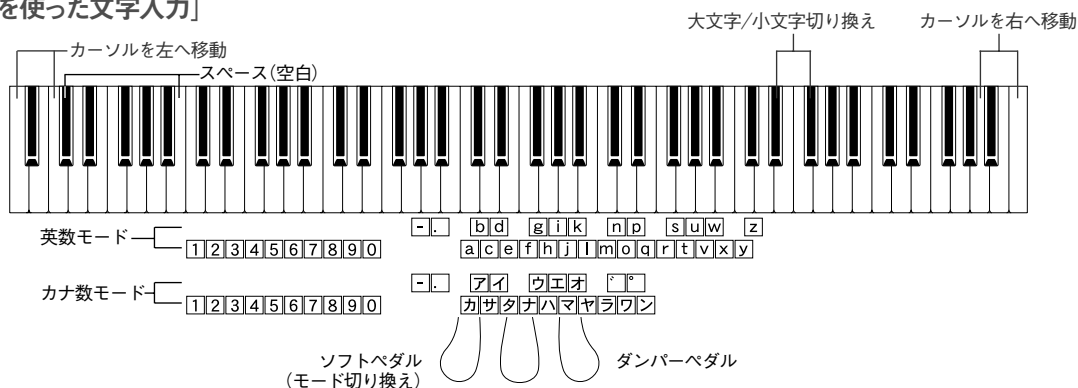


- 録音した曲やメモリディスク、フロッピーにタイトルをつける機能です。ディスクタイトル(メモリディスクまたはフロッピー)は電源オンやフロッピー挿入時に右から左へと表示されます。
- 入力できる文字数は、曲名16文字×2行、ディスクタイトル64文字まで。文字は、カタカナ、アルファベット(大文字・小文字)、数字・記号が使える、文字と文字の間に空白をあけることもできます。
- カタカナと数字・記号が入力できる「カナ数モード」と、アルファベットと数字・記号が入力できる「英数モード」があります。
- タイトルは、一度入力した後も自由に変更できます。



- あらかじめ仮の曲名(「PIANO○○○.○○○」)がセットされていますが、内容がよく分かるタイトルをつけることをおすすめします。
- カーソルのある位置に文字が入力できます。カーソルを戻して書き直したり、カーソルを移動して空白を設けることもできます。一旦入力した文字を消して空白に置き換える場合は、スペース(次ページ参照)を使います。
- カナ数モードと英数モードは、セレクトボタンまたはソフトペダル(一番左のペダル)を踏むごとに切り換わります。
- 録音済みの曲にタイトルを入力し、そのままプレイ/ポーズボタンを押して録音すると、再録音(P66参照)になります。
- タイトル入力画面(②~⑤)で録音ボタンを押すと、クオンタイズやオーバーダビングの設定が行えます(P82参照)。
- フロッピーのタイトルや曲名の入力中や⑥の表示中は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- 演奏の入っていない新しい曲番号に曲のタイトルだけ入力することはできません。
- ③~⑤の操作は、リモコンではできません。

[*鍵盤を使った文字入力]



- 鍵盤でのカタカナ入力はローマ字入力方式です。まず子音のキーを押し、母音のキーを押して、文字を入力します。

《例：「ツ」の入力》

まず子音の鍵盤を弾きます。タ行なので……中央のミ (E3) を弾く

次に母音の鍵盤を弾きます。ウ音なので……少し右のファ# (F3#) を弾く

- カナ数モードの「アイウエオヤユヨ」やアルファベットの小文字を入力する時は、中央のドより2オクターブ高いレ# (D5#) ~ ファ# (F5#) のいずれかを弾くことにより、大文字/小文字が切り換わります。

[*フロントパネルによる文字入力]

- 一/NO、十/YESボタンにより文字が次の順で現れます。

《カナ数モード》

□アイウエオカキク… (中略) …ヤユヨラリレロワン° ヲアイウエオヤユヨツ。「」、・! " # \$ % & ' () * +, -, / ; : < = > ? 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

↑スペース(空白)

《英数モード》

□ABC… (中略) …XYZ abc… (中略) …xyz ! " # \$ % & ' () * +, -, / ; : < = > ? 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

↑スペース(空白)

- 一/NO、十/YESボタンを同時に押すとスペース(空白)をスピーディに入力できます。1文字削除したい時などに便利です。

4 一/NO、十/YESボタンまたは鍵盤で文字を選ぶ



5 カーソルボタン ⇄ を押してカーソルを移動し、次の文字を入力する



※④⑤を繰り返して入力します。

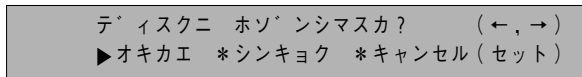
※入力後演奏を録音する場合は、プレイ/ポーズボタンを押し、演奏を始めます(新曲の場合は、録音しないと曲名が記録されません)。

6 入力し終わったらストップボタンを押す



※フロッピーの場合は「ディスクワトリダサナイデ！」が2行目に加わります。

※録音済みの曲にタイトルをつけたり、タイトルを変更した場合、⑥でストップボタンを押すと次の表示が出ます。カーソルボタンで3つの中から選んでセットボタンを押してください(P66「再録音」参照)。



オキカエ 録音してあった元の曲を消して再録音曲のみ保存
シンキョク 元の曲も再録音曲も両方とも保存
キャンセル 再録音曲を保存せず元の曲のままにする

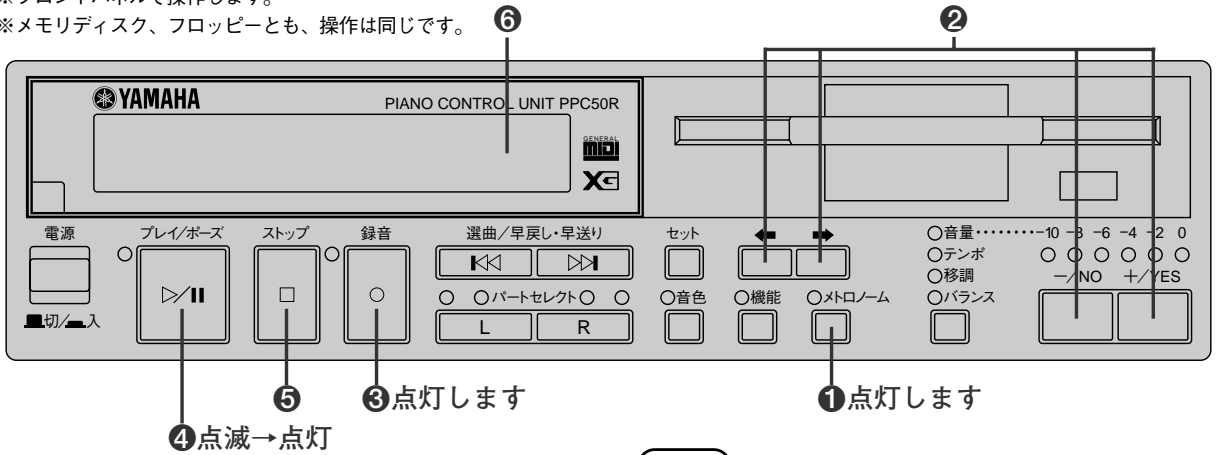
7 表示が変わったら、タイトル入力終了



メトロノーム録音 メトロノームに合わせて演奏を録音

※フロントパネルで操作します。

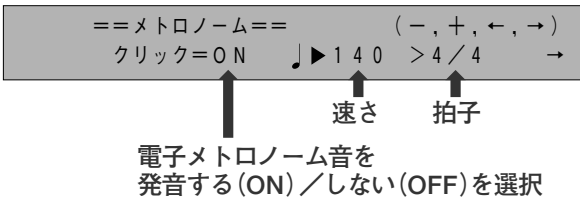
※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



1 メトロノームボタンを押す
(メトロノームが鳴り始めます)



2 速さと拍子を設定する
カーソルボタンで設定項目を選び、
ダイヤル、- / NO、+ / YESボタンで設定する



- メトロノーム録音とは、曲の経過時間でなく、小節・拍で演奏データを管理する録音方法です。録音時には、内蔵の電子メトロノーム音を聴きながら、演奏することができます。ディスプレイやランプ上部の点滅でもテンポ・拍子を知ることができます。
- 設定範囲は ♩ = 30~400 (SMF曲) / ♩ = 30~280 (E-SEQ曲)、1/4~9/4 拍子です (P58「メトロノーム機能」参照)。
- メトロノーム設定画面 (1・2) でカーソルボタン \leftarrow を押して次画面を呼出し、ペダルカウントのオン/オフを設定できます (P58「メトロノーム機能」参照)。



- メトロノームを鳴らさずに、ディスプレイや表示のみでテンポをカウントさせることもできます (クリック=OFF)。
- 2で、- / NO、+ / YESボタンを同時に押すとそれぞれ初期値に戻ります。
- 1・2でカーソルボタン \leftarrow を押して次画面を呼出し、メトロノームの音量やペダルカウントのオン/オフを設定できます (P58「メトロノーム機能」参照)。



- フロッピーに録音中や「ジッコウチュウ ディスクヲトリダサナイデ」の表示の時は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- メトロノーム録音曲から時間録音曲への変更は、「カウンター変更」(P112)で行います。
- メトロノームの設定をして録音ボタンを押した後で、時間録音に戻りたい場合は、プレイ/ポーズボタンを押す前に、もう1回メトロノームボタンを押すと、通常的时间録音待機になります。



- メトロノーム音は、ヘッドフォンまたは補助出力端子 (AUX OUT) に接続したスピーカーでお聴きになれます。

3 録音ボタンを押して録音待機に入る



4 プレイ/ポーズボタンを押せば、録音開始(弾き始めます)

小節/拍をカウント



5 演奏が終わったらストップボタンを押す



※フロッピーの場合は「ディスクラトリダサナイデ!」が2行目に加わります。

6 表示が変わったら、メトロノーム録音終了



[拍の表示]

最初の1小節のみ、ディスプレイは次のような表示でテンポ・拍を知らせます。

1拍目



2拍目



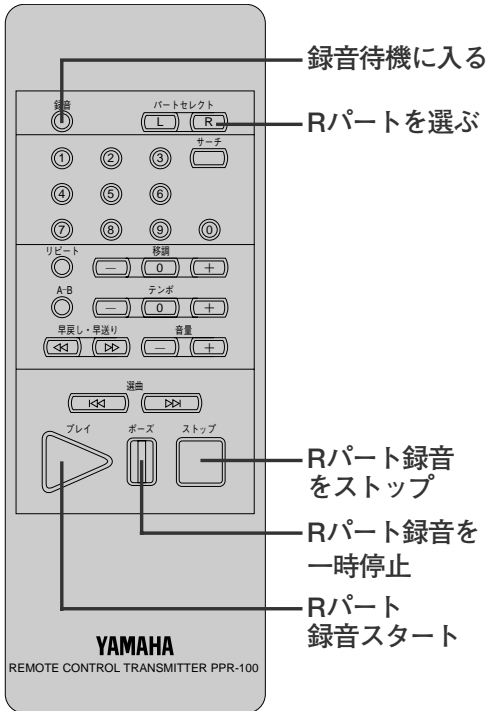
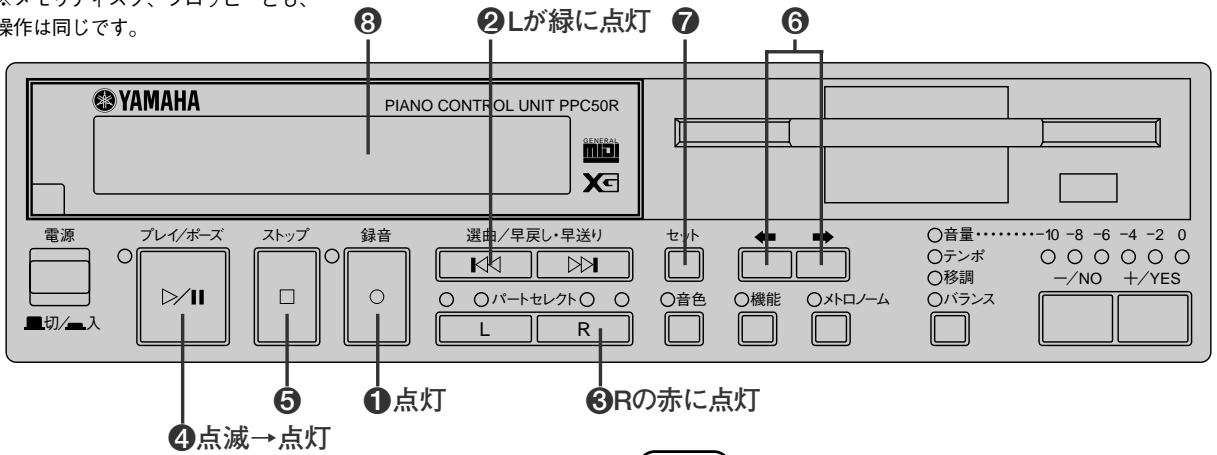
3拍目



LR録音(追加録音のしかた)

パートキャンセルできる曲の録音

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



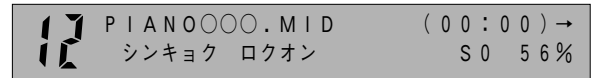
◆Lパート(1パート目)の録音

新たに録音しようとするとき自動的にLパートが選ばれますので、まず左手パートを「基本的な録音のながれ」(P64)に従って録音してください。

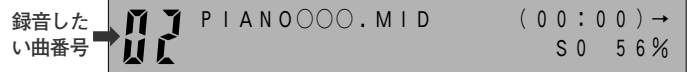


◆Rパート(2パート目)の追加録音

- 録音ボタンを押して、録音待機に入る



- 選曲ボタン [L] でLパートを録音した曲番号を選ぶ

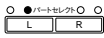

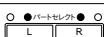


- 1曲の中の低音側・左手パート(L)と、高音側・右手パート(R)を別々に録音できる機能です。LR録音した曲は、パートキャンセルして聴くことができます(Lに両手演奏を録音して、Rに装飾音のみ録音するといった使い方も可能です。また、Lパートに高音側、Rパートに低音側を録音することもできます)。
- 1パート目を録音する際、LRどちらのパートから先に録っても構いません。録音ボタンを押すと自動的にLパートが選ばれますが、先にRパートを録音したい場合は、Rパートボタンを押して下さい(これから録音するパートのセレクトボタン赤が点灯し、録音済みのパートセレクトボタンの緑が点灯します)。
- 2パート目の録音時(1パート目と同じ曲番号に録音)は、1パート目の演奏とペダリングの再生に合わせて録音できます。

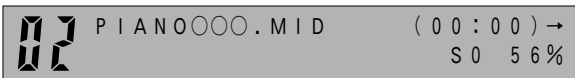


- ペダル効果は、1パート目に録音され、2パート目のペダリングは録音されない設定になっていますが、2パート目の録音時にペダル効果を録り直したい時は、あらかじめ「LRセットアップ」(P74参照)を行います。
- 1パート目の録音のテンポを変更して、それに合わせて2パート目を録音することもできます(P86「録音テンポ変更」参照)。

[*パートセレクトとLR録音]

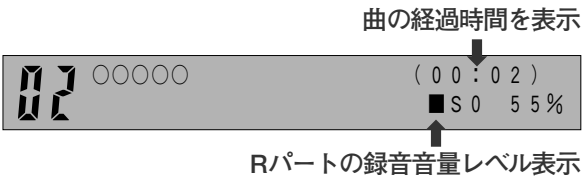
	Lを押して、赤く点灯させる	Lパートを録音
	Rを押して、赤く点灯させる	Rパートを録音
	L、Rともに押して、両方赤く点灯させる	スプリット録音

3 曲番号を確認し、パートセレクトのRボタンを押す

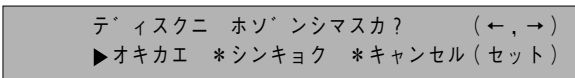


4 プレイ/ポーズボタンを押す(ピッと音がします)
演奏を始めてください
演奏を始めた時点から録音が始まり
カウンターが進み始めます

※Lパートの再生に合わせて弾き始めます。





5 演奏が終わったら、ストップボタンを押す



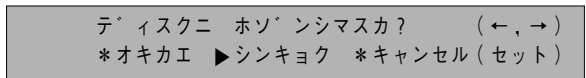
[Lパート(既録音)にRパートを追加録音した場合]

	操 作	記録されるパート	曲番
L・RパートをLR曲として保存	オキカエ	L+R	元の曲番
Lパートは元のままで、L・Rパートの のったLR曲を新曲として保存	シンキョク	L+R	新しい曲番
		L	元の曲番
Lパートを元のまま保存し、Rパートは保存しない	キャンセル	L	元の曲番

 ●録音中や**7**の表示の時は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
●**6****7**の操作はリモコンではできません。

 ●サイレント時には**4**でプレイ/ポーズボタンを押してもピッと音は鳴りません。

6 3つのうちから選び、カーソルボタンを押して▶を移動させる



7 セットボタンを押す



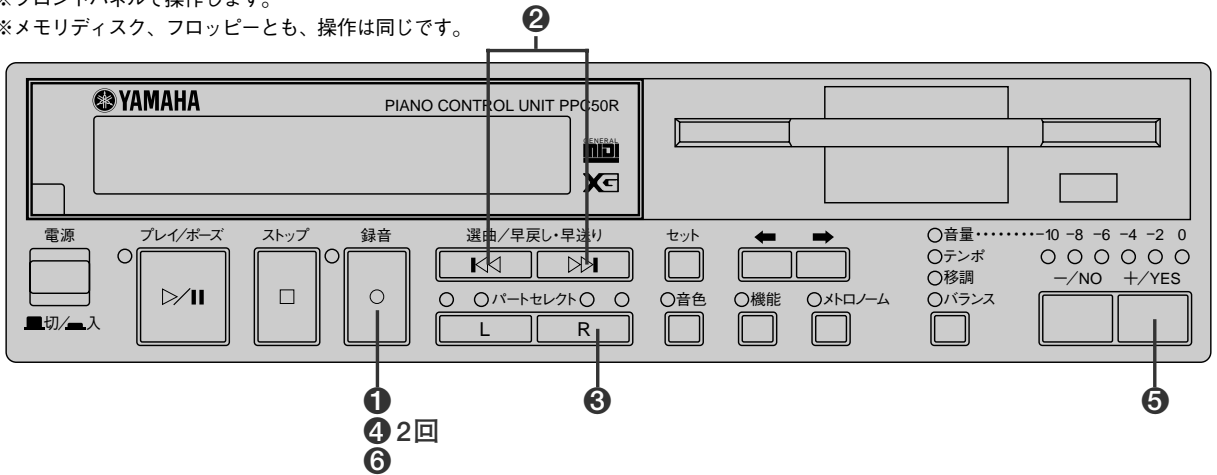
※フロッピーの場合は「ディスクヨトリダサナイデ!」が2行目に変わります。

8 表示が変わったら、Rパート録音終了



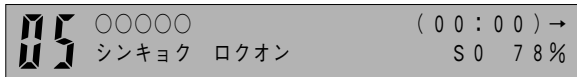
LRセットアップ ピアノの2パート目の録音時に録音済みのペダルを録り直す

※フロントパネルで操作します。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



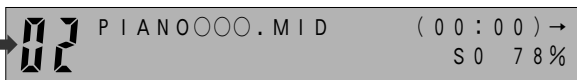
2パート目(R)の録音時にペダルを録り直したい

1 録音ボタンを押して、録音待機に入る

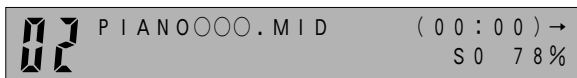


2 選曲ボタンで録り直したい曲を選ぶ

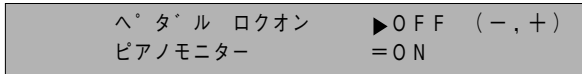
録り直したい曲番号



3 曲番号を確認し、パートセレクトのRボタンを押す

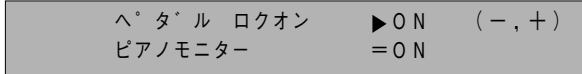


4 録音ボタンをもう2回押す



※ペダルロックオン…再録音時にペダル演奏を録音(置き換え)するかどうかの設定

5 +/YESボタンを押して、「ペダルロックオン ▶ ON」と表示させる



6 ふたたび録音ボタンを押して、録音待機に戻る



7 2パート目の録音を行い、保存します (P72「LR録音」参照)。



- 2パート目の録音時に、1パート目のペダリングを取り消し、ペダル効果を録り直す機能です。操作は1パート目をL、2パート目をRとして説明していますが、LRのどちらから先に録っても機能は同じです。
- 同じ設定画面で、1パート目の演奏をピアノ音で再生する/しないの設定も可能。内蔵音源で1パート目を再生させたい場合は、「ピアノモニター=OFF」を選択します。



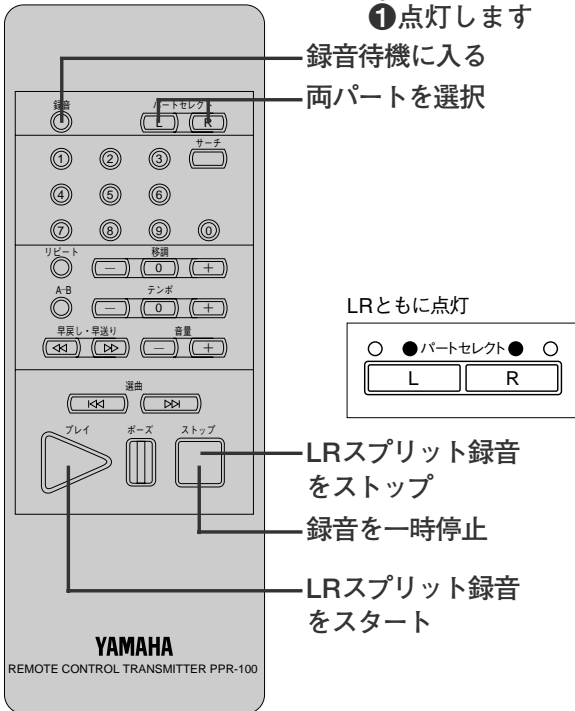
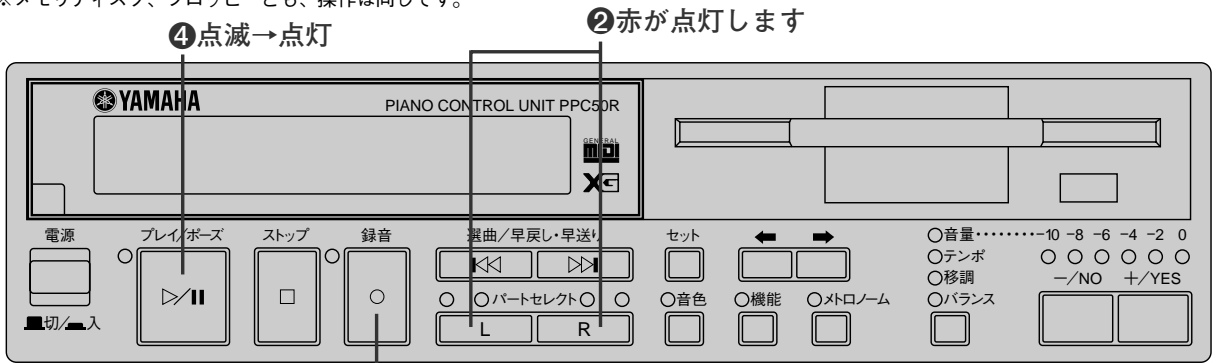
- ペダルロックオン、ピアノモニターの設定は録音が終わると解除され、元の設定(4)に戻ります。



- 「ペダルロックオン=ON」なら、ピアノ電子音で鳴っている2パート目の演奏に対してペダリングが有効です。ペダル録音=OFFなら、ピアノ電子音で再生されている1パート目のペダルデータが有効です。
- 「ピアノモニター=ON」なら、1パート目の再生も2パート目の演奏もピアノ電子音が発音します(1パート目の再生の鍵盤の動きはキャンセル可能(P24参照))。「ピアノモニター=OFF」の時、1パート目は内蔵音源でのみ発音可能。2パート目の演奏はピアノ電子音が発音します。

LRスプリット録音 鍵盤をある音を境に2パートに分け、同時に録音する

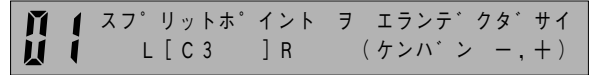
※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



1 録音ボタンを押して、録音待機に入る



2 パートセレクトボタンを1つずつ押し、LRの赤を両方点灯させる



3 境となる鍵盤を弾く



↑ 押した鍵盤番号を表示

4 プレイ/ポーズボタンを押す(ピッと音がします) 演奏を始めてください 演奏を始めた時点から録音が始まり、カウンターが進み始めます



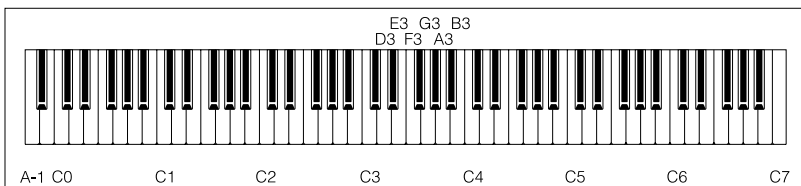
5 演奏を始めた時点から、LRスプリット録音スタート (P64「基本的な録音のながれ」参照)。

- 1回の録音で1キーを境にLRに分けて録音できる機能。パートキャンセルして聴くことができるLR録音のひとつです。
- スプリットポイント(境となる1キー)の設定範囲は、A-1~C7。ピアノ鍵盤のどのキーでも境に指定できます。境の音はLパート側になります。



- パートセレクトボタンは、LとRを1つずつ押します。どちらが先でも構いません。
- ふつうの録音と同じように、録音を一時停止することもできます。
- ③のスプリットポイントの指定は、-/NO、+/YESボタンでも操作できます。

[鍵盤と音名]



- フロッピーに録音中や「ジッコウチュウ ディスクトリアサナイデ」の表示の時は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。



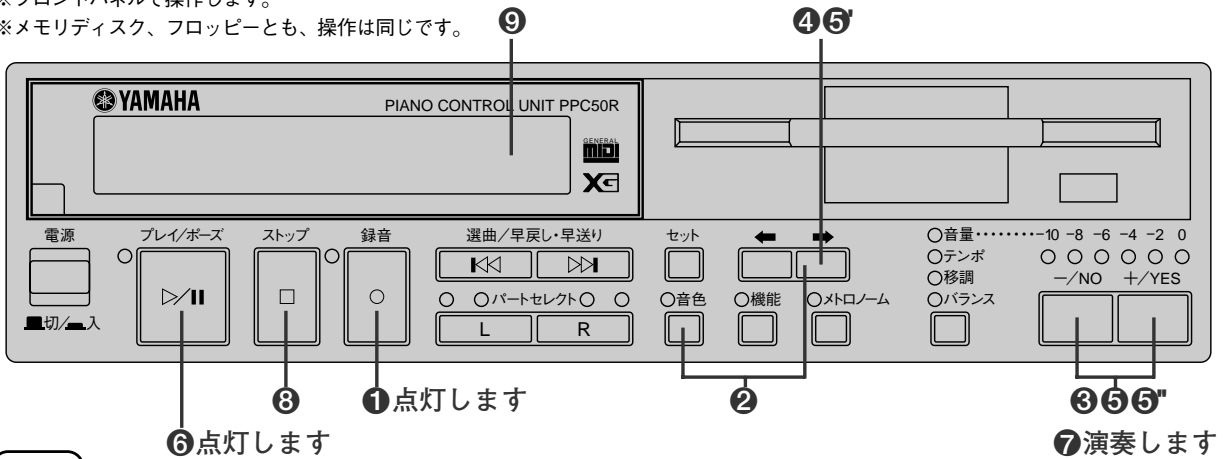
- サイレント時には④でプレイ/ポーズボタンを押してもピッと音は鳴りません。

アンサンブルパートの録音

内蔵音源を使ってピアノ以外のパートも録音する

※フロントパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



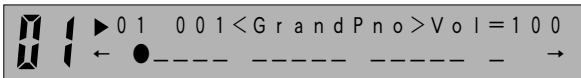
停止中に操作します

1 録音ボタンを押して録音待機に入る



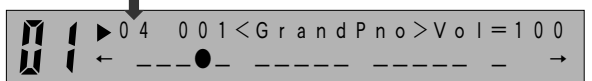
点滅 メモリディスク(またはフロッピー)の残量表示(%)

2 カーソルボタン⇄または音色ボタンを押して、トラック選択画面を呼び出す



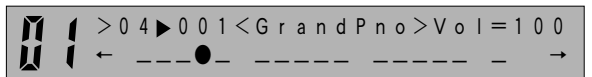
「—」はそのトラックに何も録音されていないことを表す
「●」はそのトラックが選ばれていることを表す(ピアノパート)

3 -/NO、+/YESボタンで、録音トラックを選ぶ



「—」は録音可能なトラック
「●」はそのトラックが選ばれていることを表す(アンサンブルパート)

4 カーソルボタン⇄を押して設定したい項目に移動する



- アンサンブルパートの録音は、まずトラックを選び、そこにどんな楽器パートを録音するか内蔵音源の音色で指定し、パート全体の音量バランス(Vol)を決め、1度に1パートずつ録音します。
- フロッピーを入れないとメモリディスクに、フロッピーを入れておくとフロッピーに録音されます。
- 最初からアンサンブルパートを録音することも、ピアノパートやリズムパートを録音した後にパートを重ねていくこともできます(再録音(P66)になります)。録音済みのパートの再生を聴きながら、それに合わせて録音していきます。
- 録音トラック・音色・音量の設定範囲

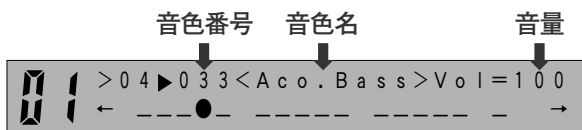
録音トラック番号	01~16	録音するトラック番号を選びます。
音色	001~128	内蔵音源の音色番号を指定します(音色一覧表はP132)。
バンク番号	設定範囲は音色によって異なります(拡張音色を選択している場合のみ)。	
音量	Vol=000~127	パート全体の音量です。0は無音、初期値=100。

※E-SEQ曲の場合は、トラック3はハーフペダル専用パートです。



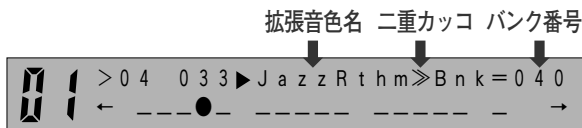
- ③でL、Rパートを選択する時は、パートセレクトボタンでも操作できます。
- ⑤、⑥でピアノを弾くと表示中の音色・音量で音源が鳴るので、音色を確かめながら設定できます。
- 録音済みトラックを選び、音色・音量を設定(⑤、⑥)後ストップボタンを押せば、音色・音量だけを変更できます。
- 録音の一時停止や、メトロノーム録音(P70参照)、録音済みトラックがある場合は録音テンポ変更(P86参照)も可能です。

5 -/NO、+/YESボタンで、
内蔵音源の音色・音量を設定する

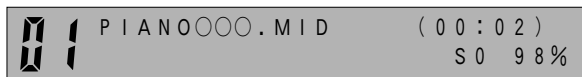


※ピアノの鍵盤を弾いて音源の音色・音量を確認できます。

5 音色名の前にカーソルを移動すると、拡張音色 (P30、
134参照)が設定できる



6 プレイ/ポーズボタンを押す(ピッと音がします)
演奏を始めてください



7 演奏を始めた時点から、アンサンブル録音スタート

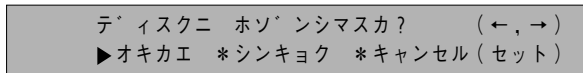
※7は、新曲録音の場合です。録音済みパートがある場合は、6で
曲の再生が始まります。

8 演奏が終わったら、ストップボタンを押す



※フロッピーの場合は「ディスクワトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。

※2パート目以降の録音では、8で録音結果を保存するかどうかをた
ずねてきます。



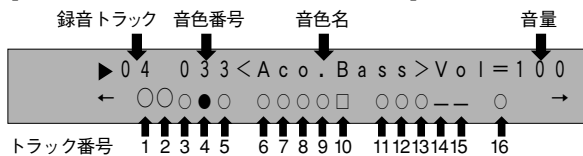
「オキカエ」の場合は録音したパートが加わった曲のみが保存されます。
「シンキョク」の場合は、元の曲はそのままで、録音したパートが加
わった曲が新たに作成されます。

「キャンセル」の場合は、録音結果は保存されません(元の曲はそのま
まです)。

9 表示が変わったら、録音終了



[アンサンブル録音のトラック表示の見方]



- ……ピアノ再生パート
- ……アンサンブルパート
- ……リズムパート(通常、トラック10)
- 、●、■……録音トラック
- ……演奏が入っていないことを示します



- フロッピーに録音中や9の表示中に、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- 録音を途中でやめたい時は、まずストップボタンを押し、曲名表示になってから取り出してください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーに録音しようとする時「ディスクニプロテクトガカクタイマス!」と表示されます。録音してよいフロッピーの場合は、ストップボタンを押し、フロッピーを取り出して、プロテクトをオフにしてから録音してください。

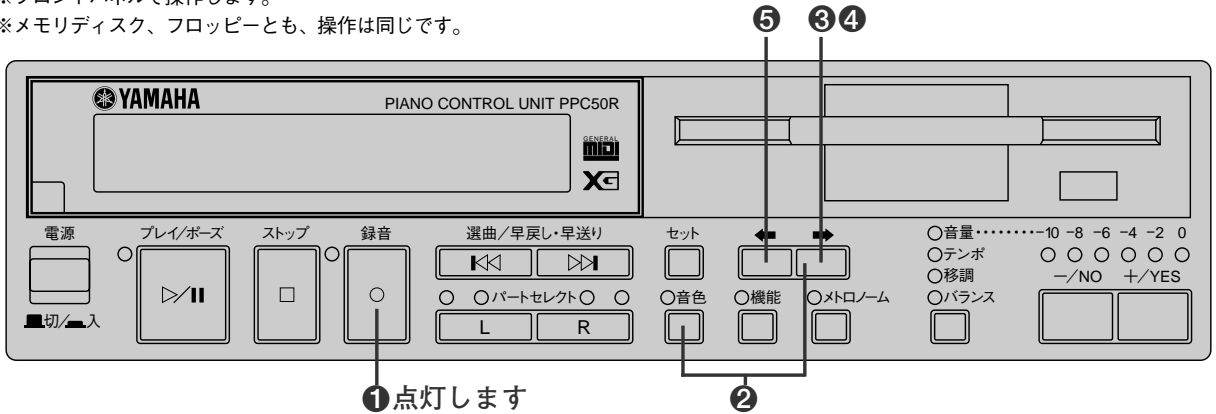


- サイレント時には4でプレイ/ポーズボタンを押してもピッと音は鳴りません。

ピアノパートセット ピアノで再生するトラックを変更する

※フロントパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。

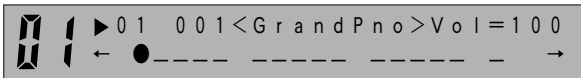


停止中に操作します

- 録音ボタンを押して録音待機に入る

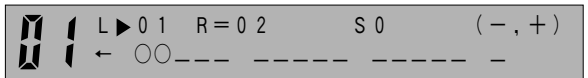


- カーソルボタン⇨または音色ボタンを押して、トラック選択画面を呼び出す

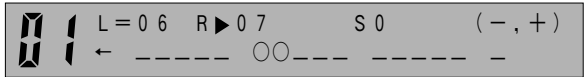


「—」はそのトラックに何も録音されていないことを表す
 「●」はそのトラックが選ばれていることを表す(ピアノパート)

- カーソルボタン⇨を押す



- カーソルボタン⇨でL、Rを選び、- / NO、+ / YES ボタンでトラックを変更する



- トラック選択画面に戻るにはカーソルボタン⇨を押す



- ピアノパートセットとはピアノで再生するトラックを変更する機能です。SMFフォーマット曲では、録音時に01~16、##を自由に選ぶことができます(「##」はピアノまたはピアノ音源を使わずに、アンサンブル音源を使用する設定です)。
- E-SEQフォーマット曲では、LパートはL=01に固定です。
- ピアノパートセットを行うと、変更は曲データとして記録されます。
- 変更後にストップボタンを押せば、ピアノパートセットだけを変更することができます。

トラック、パート、チャンネル

- トラック、パート、チャンネル……。本書のアンサンブル曲の説明の中に、似たような言葉が出てきます。本機とピアノの組み合わせでご使用になる場合はそれほど意識される必要はありませんが、パソコンや他のMIDI機器と一緒にご使用になる方のために、ここで整理しておきます。
- <トラック>は、陸上競技の走路のように帯状のものを指す言葉で、転じて「カセットテープはステレオで往復だから4トラック」と、録音テープの記録部分に使われるようになりました。本機にはこれが16トラックあるとお考えください。1回の録音で、1つのトラックを選び、そこに1パート記録します(LRスプリット録音を除く)。
- その<パート>とは、一つの楽器(または弦楽器のような一つのセクション)の演奏のことで、本機には特にピアノ用のパートがあり、LR録音では、LパートとRパートに分けて記録し、ピアノ本体またはピアノ電子音源(**SEU** サイレント時)を自動演奏させるために使われます。ピアノ以外のパートはアンサンブルパートと呼び、内蔵電子音源を発音させるのに使います。パートはいわば用途(楽器演奏)を表す言葉です。
- <トラック>に記録された音符などのデータを<パート>に結び付けるのが<チャンネル>の役目です。MIDIの世界では、バイオリンに使うドなのか、フルートに使うドなのか区別できるよう、録音時に音符の1つ1つに目印となる番号が付けられます。MIDIには16のチャンネルがあります。
- 本機では、これらの関係を分かりやすくするため、トラック1はチャンネル1、トラック2はチャンネル2……と、トラック番号とチャンネル番号がイコールになっており、トラック1と2はピアノのLパート、Rパート、トラック3~9とトラック11~16はアンサンブルパート用、トラック10はリズムパート用です(E-SEQ曲の場合はトラック3はハーフペダル用)。
- 内蔵音源では16のトラックに対応した16種類の音色が同時に発音可能です(ふだんはピアノパートはピアノ本体またはピアノ電子音源(**SEU** サイレント時)が発音します)。再生が始まると、各パートは同じチャンネル番号の音色番号と音符データを受けて、音色を選び演奏を開始します。
- 本機で録音した場合の初期値

SMF曲			
トラック	パート	チャンネル	発音
1	ピアノLパート (ハーフペダル)	1	接続されたピアノ (ピアノ電子音源)*
2	ピアノRパート (ハーフペダル)	2	
3~9	アンサンブルパート	3~9	内蔵音源
10	リズムパート	10	
11~16	アンサンブルパート	11~16	

E-SEQ曲			
トラック	パート	チャンネル	発音
1	ピアノLパート (スイッチペダル)	1	接続されたピアノ (ピアノ電子音源)*
2	ピアノRパート (スイッチペダル)	2	
3	ハーフペダル	3	ペダル
4~9	アンサンブルパート	4~9	内蔵音源
10	リズムパート	10	
11~16	アンサンブルパート	11~16	

*ピアノパートの初期値は、表のようにトラック1と2になっています(E-SEQ曲と同じ)、変更も可能です。また、一般的にスタンダードMIDIファイルのピアノパートがトラック1と2であるということもありません。

※ **SEU** サイレント時

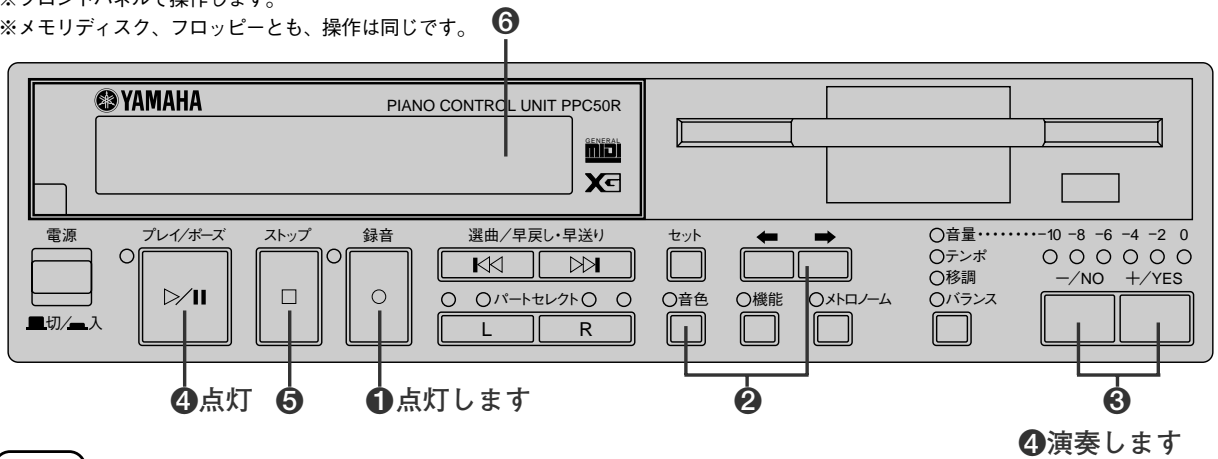
[*参照ページ]

- ◆ピアノパートセレクト……P46
- ◆ピアノパートセット……P78
- ◆MIDIセットアップ機能……P118~P122

リズムパートの録音 内蔵音源を使ってリズムパートを録音する

※フロントパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

- 1 録音ボタンを押して録音待機に入る



- 2 カーソルボタン⇄または音色ボタンを押して、トラック選択画面を呼び出す



- 3 -/NO、+/YESボタンで10トラックを選ぶ



「■」はリズムトラックが選択されていることを表す

※ピアノの鍵盤を弾いて音源の音色・音量を確認できます。

- 4 プレイ/ポーズボタンを押す(ピツと音がします)と録音開始。演奏を始めてください



- 通常、10トラックをリズムパートとして使用しています。
- 複数のパートをリズムパートに指定することもできます。
- 10トラック以外でも、音色に<リズムキット><SFXキット>を指定すればリズムパートとして使うことができます。<リズムキット><SFXキット>は、多数の打楽器で構成され、各鍵盤に打楽器音が割り当てられたリズムパート用のドラム音色です(通常の音色は、一種類の楽器音を鍵盤によって音の高さを変えて発音します)。P30参照。
- フロッピーを入れないとメモリディスクに、フロッピーを入れておくとフロッピーに録音されます。
- ③で10トラックを選択すると、内蔵音源のリズムキットのみが選ばれるようになります。また、カーソルボタン⇄で選択項目を右に移動すれば、-/NO、+/YESボタンでキットを変更できます(P133「ドラム音色一覧表」参照)。



- ③で鍵盤を弾くと表示中のドラム音色が発音します。録音前に、どの鍵盤を叩くとどんな打楽器が鳴るかを確かめておきます。
- メトロノーム録音(P70)で「クオンタイズ」(P82)を設定しておくことでジャストビートで録音できます。
- リズムパートは、通常1回の録音で1つが2つの打楽器を録音し、再録音ですでに録音した打楽器音の再生を聴きながら「カサネドリ」(重ね録り、オーバーダビング、P82参照)によって別の打楽器音を追加していきます。

5 演奏が終わったら、ストップボタンを押す

シッコウチュウ

※フロッピーの場合は「ディスクワトリダサナイデ!」が2行目に加わります。

※2回目以降の録音では(すでに他のパートが録音されていれば)、5で録音結果を保存するかどうかをたずねてきます。

ディスクニ ホソシマスカ? (←, →)
▶オキカエ *シンキョク *キャンセル(セット)

「オキカエ」の場合は録音した打楽器音が加わった曲のみが保存されます。

「シンキョク」の場合は、元の曲はそのまま、録音した打楽器音が加わった曲が新たに作成されます。

「キャンセル」の場合は、録音結果は保存されません(元の曲はそのままです)。

6 表示が変わったら、リズムトラックの録音終了



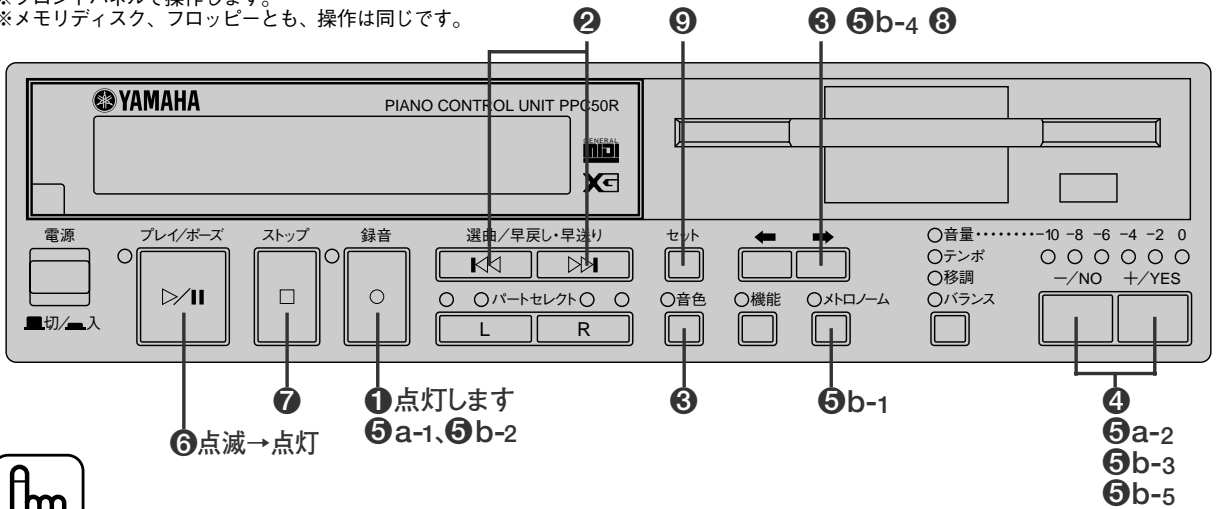
- 録音中や5の表示中に、絶対にフロッピーを取り出したり電源を切ったりしないでください。
- 録音を途中でやめたい時は、まずストップボタンを押し、曲名表示になってから取り出してください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーに録音しようとする「ディスクニプロテクトガカクテイマス!」と表示されます。録音してよいフロッピーの場合は、ストップボタンを押し、フロッピーを取り出して、プロテクトをオフしてから録音してください。
- 10トラックにドラムキット以外の音色を直接指定することは出来ませんが、トラック移動(P92)/トラックコピー(P94)でトラック10に他のパートを移すと音色設定も移動/コピーされ、メトロノーム曲であれば、サイレント時にメトロノーム音が発音します。



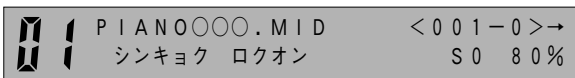
- サイレント時には4でプレイ/ポーズボタンを押してもピツという音は鳴りません。

クオンタイズとオーバーダビング 録音タイミングの補正機能と同じパート

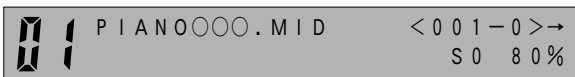
※フロントパネルで操作します。
※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



1 録音ボタンを押して、録音待機に入る



2 曲番号を選ぶ(再録音、追加録音の場合)



メトロノーム録音された曲を選ぶとメトロノームが発音します(クリック=ONの場合)

3 カーソルボタン⇔または音色ボタンを押して、トラック選択画面を呼び出す(新曲録音の場合)



4 -/NO、+/YESボタンで、録音トラックを選ぶ

《時間録音の場合》

5a-1 録音ボタンをもう2回押す



5a-2 +/YESボタンで「ロクオン トラック▶カサネドリ」と表示させる



同一トラック内での重ね録音モードになります。



●時間録音では録音トラックの「オキカエ/カサネドリ」の選択ができます。メトロノーム録音では「オキカエ/カサネドリ」の選択に加えて「クオンタイズ」の設定も可能です(時間録音ではクオンタイズはできません)。

[オーバーダビング]

●オーバーダビング(カサネドリ)は、録音済みの演奏データはそのまま、新しく録音した演奏を同一トラック内にプラスします。一方「オキカエ」は、これまでトラック内にあったデータを破棄して、新しく録音した演奏のみを記録します。

●オーバーダビングは、打楽器を順次追加しながらリズムパートを録音する場合などに便利です(P80)。

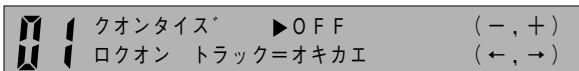
《メトロノーム録音の場合》

5b-1 メトロノームボタンを押す
(メトロノームが鳴り始めます)



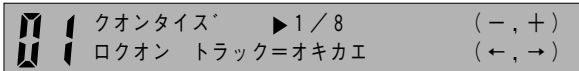
新曲録音の場合と、再録音でメトロノームの速度を変えたい場合には、この操作が必要です。

5b-2 録音ボタンをもう3回押す

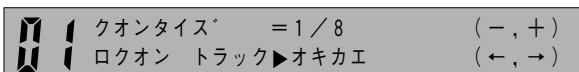


再録音で5b-1の画面をスキップした場合は、録音ボタンを2回押します。

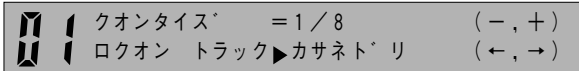
5b-3 クオンタイズを設定する場合は、
- / NO、+ / YESボタンで行う



5b-4 「ロックオン トラック」を「カサネドリ」に変更する場合は、カーソルボタン⇔を押す



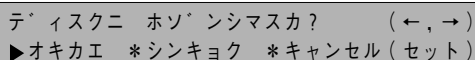
5b-5 + / YESボタンで「ロックオン トラック▶カサネドリ」と表示させる



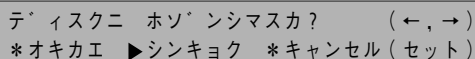
同一トラック内での重ね録音モードになります。

6 プレイ/ポーズボタンを押して、録音をスタート

7 演奏が終わったら、ストップボタンを押す

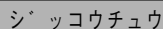


8 3つのうちから選び、
カーソルボタンを押して▶を移動させる



オキカエ…… 録音してあった元の曲を消して再録音曲のみ保存
シンキョク…… 元の曲も再録音曲も両方とも保存
キャンセル…… 再録音曲を保存せず元の曲のままにする

9 セットボタンを押す



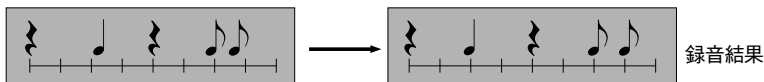
※フロッピーの場合は「ディスクラトリダサナイデ!」が2行目に変わります。

10 表示が変わったら、録音終了

[クオンタイズ]

●クオンタイズは、メトロノーム録音の5b-3であらかじめ拍子を設定しておけば、その位置に録音してくれる機能です。特に、リズムパートをメトロノーム通り正確に録音したい時に便利です。設定値は、録音する最も短い音符を選びます。

クオンタイズ=1/8の例



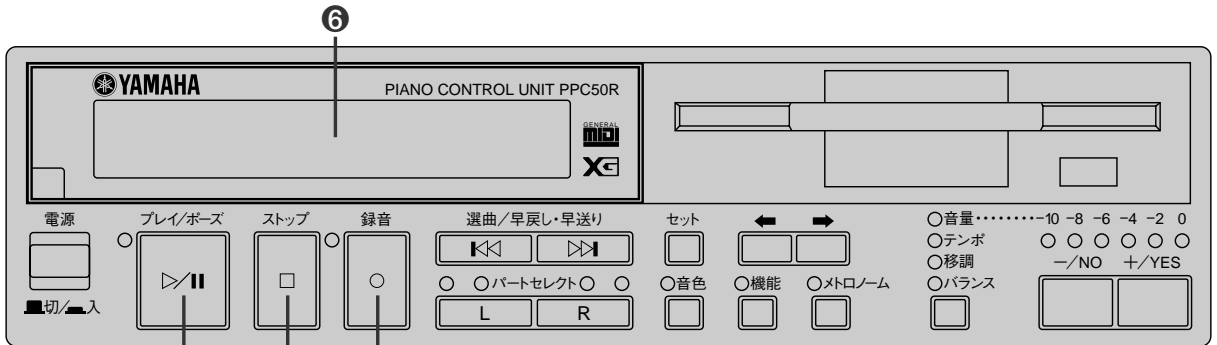
●クオンタイズの設定範囲

拍子	1/4、1/6、1/8、1/12、1/16 ……設定された拍子の位置に録音されます
	OFF ……鍵盤を弾いたタイミング通りに録音されます

ペダルカウントの録音

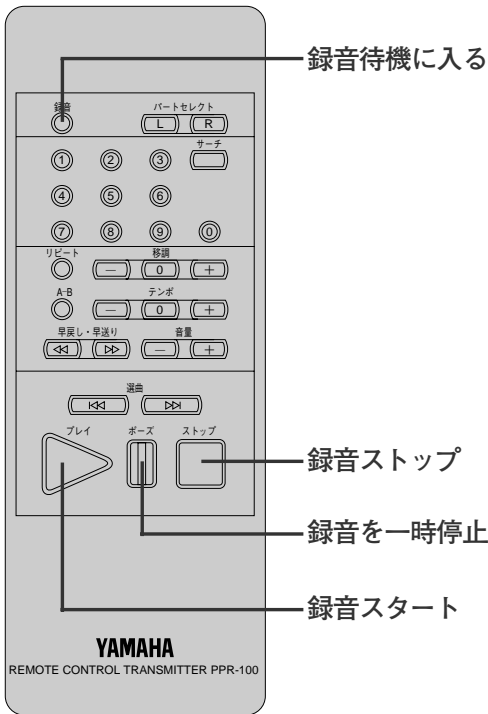
再生時に弾きはじめの合図が入るように録音する

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



点滅→点灯② ⑤ ①点灯します

③ダンパーペダルを踏む
④演奏します



① 録音ボタンを押して、録音待機に入る



点滅 メモリディスク(またはフロッピー)の残量表示(%)

※フロッピーに録音する場合はあらかじめフロッピーを入れておく(メモリディスクに録音する場合はフロッピーは不要)

② プレイ/ポーズボタンを押す(ピッと音がします)
曲の経過時間を表示



録音音量レベル表示



●「ペダルカウント」は、曲を再生する時、演奏に先だって電子メトロノーム音とランプ上部を点滅させることにより、これから始まる曲のテンポや弾きはじめをつかみやすくするための機能です(P42「ペダルカウントの再生」参照)。
●ペダルカウントを録音するには、演奏し始める前に、曲のテンポに合わせて数回ダンパーペダル(一番右のペダル)を踏み、それから演奏を始めます。

●LR曲など、自動演奏と一緒に演奏を開始する時に便利です。

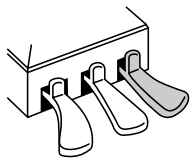
●再録音時には、ペダルカウントは録音できません。

●ペダルカウント録音の例

図は4拍子の曲で、3拍分ペダルを踏んだところ。



3 曲のテンポで数回ダンパーペダルを踏む
(ペダルカウントが録音される)



ダンパーペダル

4 引き続き、演奏を始めてください
(録音がスタート)

5 演奏が終わったらストップボタンを押す

シッコウチュウ

※フロッピーの場合は「ディスクヲトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。

6 表示が変わったら、録音終了

PIANO ○○○ . MID (00 : 00) →
S 0 X G



- 再生時は、ペダルを踏み込んだタイミングで電子メトロノーム音が鳴り、ランプが点滅します。弾きはじめのきっかけが分かりやすいように踏んでください。
- 再生時は、「ペダルカウント=ON」に設定する必要があります(P42「ペダルカウントの再生」参照)。



- フロッピーに録音中や⑤の表示の時は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- 録音を途中でやめたい時も、ストップボタンを押し、⑤⑥の手順で終了してください。途中でフロッピーを取りだしたりしないでください。
- ⑤の表示で右下が「DSK」と点滅していたら、メモリディスク(またはフロッピー)の残量が10%以下です。メモリディスクが一杯になったら曲をフロッピーに移します(P104「曲コピー」、P108「ディスクコピー」参照)。フロッピーの場合は空きのあるものと交換してください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーに録音しようとする、「ディスクニプロテクトガカッテイマス!」と表示されます。録音してよいフロッピーの場合は、ストップボタンを押し、フロッピーを取り出して、プロテクトをオフにしてから録音してください。

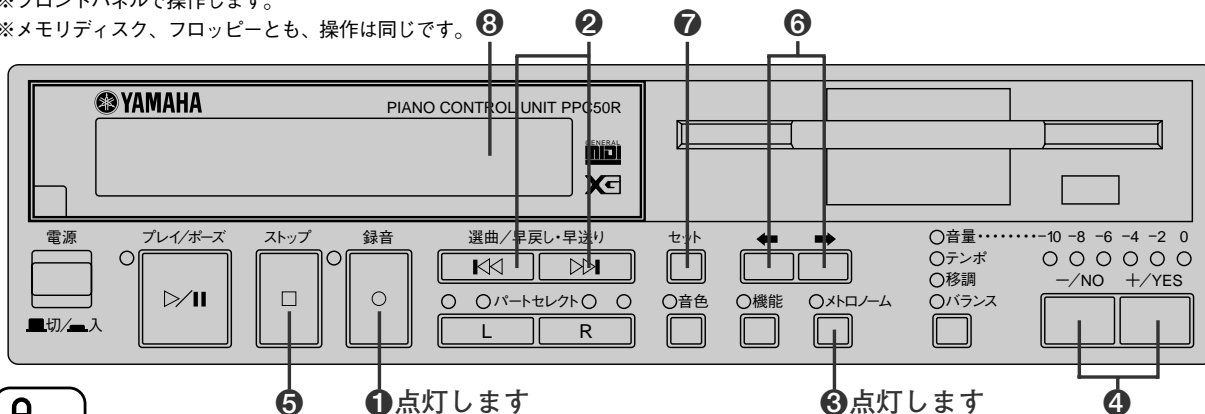


- サイレント時には②でプレイ/ポーズボタンを押してもビツという音は鳴りません。
- サイレント時には2つ目のパートを録音する時に、電子メトロノーム音の発音はありません。画面上にペダルを踏み込んだタイミングで合図の棒が現われます。

録音テンポ変更 すでに録音した曲を速さだけ変更する機能

※フロントパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



1 録音ボタンを押して、録音待機に入る

2 録音テンポを変更したい曲の曲番号を選ぶ

3 メトロノームボタンを押す

《時間録音の場合》



《メトロノーム録音の場合》



4 ▶で示されている録音テンポを、
- / NO、+ / YESボタンで変える

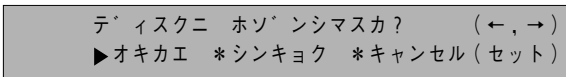
《時間録音の場合》



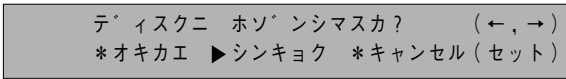
《メトロノーム録音の場合》



5 変更し終わったら、ストップボタンを押す



6 3つのうちから選び、
カーソルボタンを押して▶を移動させる



オキカエ…… 録音してあった元の曲を消して再録音曲のみ保存
シンキョク…… 元の曲も再録音曲も両方とも保存
キャンセル…… 再録音曲を保存せず元の曲のままにする

7 セットボタンを押す



※フロッピーの場合は「ディスクワトリダサナイデ!」が2行目に加わります。

8 表示が変わったら、録音テンポ変更終了



- すでに録音した曲を、速さだけ変更する機能です。変更後のテンポが、再生する際のオリジナルテンポになります。
- SMF曲：メトロノーム録音の場合は30～400の範囲で♩=001ずつ、時間録音の場合は-75～+242%の範囲で1%ずつ調節できます。
- E-SEQ曲：メトロノーム録音の場合は30～280の範囲で♩=001ずつ、時間録音の場合は-75～+140%の範囲で1%ずつ調節できます。



●4で- / NO、+ / YESボタンを同時に押すと、時間録音曲なら000%、メトロノーム録音曲なら♩=117に戻ります。

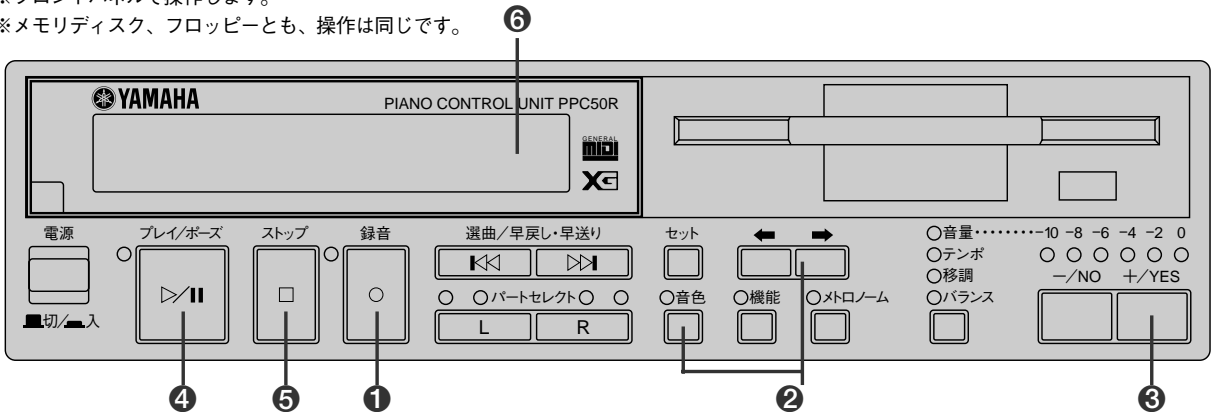


- フロッピーに録音中や「ジッコウチュウ ディスクワトリダサナイデ!」の表示の時は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- 本製品では実際に鍵盤を動かして演奏を再現するため、早過ぎるテンポを設定すると、音抜けする場合があります(内蔵音源使用時は音抜けしません)。

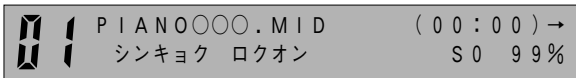
MDR機能 外部のMIDI機器、パソコンからの演奏データを記録する機能

※フロントパネルで操作します。

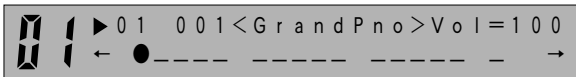
※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



1 録音ボタンを押して、録音待機に入る



2 カーソルボタン \leftarrow または音色ボタンを押して、トラック選択画面を呼び出す



「-」はそのトラックに何も録音されていないことを表す

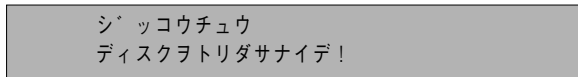
3 +/YESボタン録音トラックを16の次(右)に設定すると、次の画面になる



※カーソルボタン \leftarrow で次画面を呼び出すと、ピアノパートの設定が行えます(P78)。

4 プレイ/ポーズボタンを押して外部機器の演奏をスタートさせると、記録開始

5 ストップボタンを押すか、外部機器の演奏をストップさせると、記録停止



6 表示が変わったら、MDR録音終了



●MIDI IN端子(またはTO HOST端子)に接続した外部MIDI機器やパソコンからの演奏データを、本機のメモリディスクまたは本機にセットしたフロッピーディスクに記録する機能です。

●MDR=MIDI Data Recording.

●入力端子の選択・設定はHOST SELECTスイッチで行います。接続する機器に合わせてください(P136「TO HOST端子の接続について」参照)。



●④で外部機器のスタート、ストップにより録音開始・終了するためには、MIDIセットアップで「Remote In=ON」になっていることが必要です(P121参照)。

●MDR機能で記録中に鍵盤演奏を同時に録音することはできません。

●MDR機能は、新曲録音の場合のみ使用できます。

●記録中や⑥の表示の時は、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。

●記録を途中でやめたい時は、まずストップボタンを押し、⑥の表示になってからフロッピーを取り出してください。

●プロテクトがオンになっているフロッピーに記録しようとすると、「ディスクニプロテクトガカクタイマス!」と表示されます。記録してよいフロッピーの場合は、ストップボタンを押し、フロッピーを取り出してプロテクトをオフにしてから記録してください。

トラック

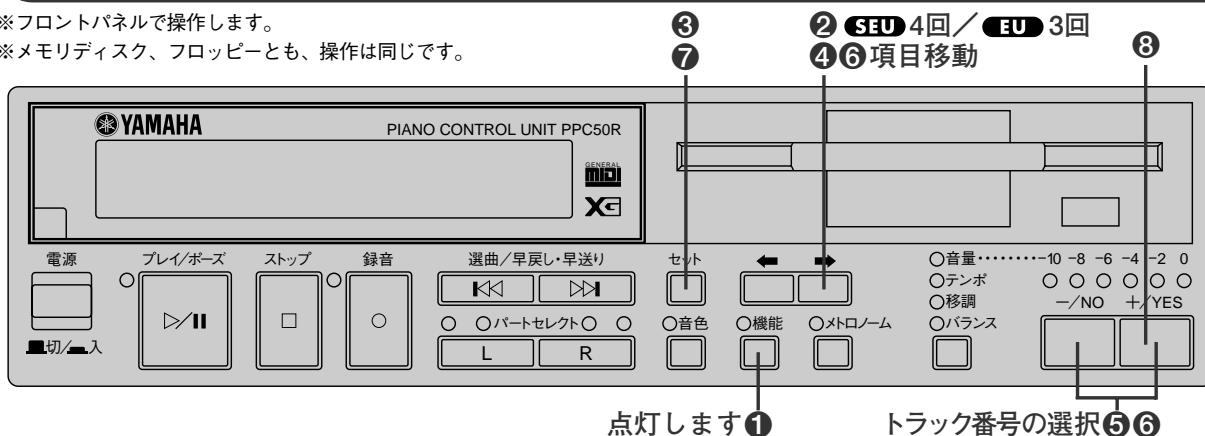
トラック機能のご紹介

録音済みのトラックはトラック機能を使って編集することができます。複数のトラックを一つのパートにまとめたり、トラック全体を移調したり、不要なトラックを消去したりして、曲を完成させることが可能です。なお、トラック機能はフロントパネルで操作します。

2つのトラックを1つにまとめる	トラックミックス	P90
トラックを別のトラックに移す	トラック移動	P92
トラックの複製を作る	トラックコピー	P94
不要なトラックを消す	トラック消去	P96
トラック全体を移調する	トラック移調	P98

トラックミックス 2つのトラックを1つにまとめる

※フロントパネルで操作します。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
 *M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
 *M-Tune

2 カーソルボタン⇔を押してSEUでは4回、EUでは3回押して次画面を呼出す

←▶トラック *リセット
 (←, →, セット)

3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶ [ミックス] > 01 → ##
 ●○○○ ○○○□ ○○○— — (セット)

4 カーソルボタン⇔を押して項目を移動し、「▶01」と表示させる

[ミックス] ▶ 01 → ##
 ●○○○ ○○○□ ○○○— — (セット)



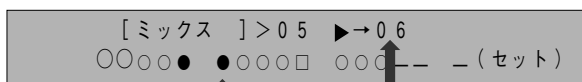
- 2つのトラックのデータをミックスして、1つのトラック(2番目に選択したトラック)の中にまとめる機能です。ミックス後、最初に選択したトラックのデータは消去されます。
- 1つ目のトラックの音符データ(ノート・オン/オフ)とペダルデータ(コントロールチェンジ)が2つ目のトラックに重ね合わされます。

5 まず1つ目のトラックを、
- / NO、+ / YESボタンで選ぶ



選択されたトラック(1つ目)

6 カーソルボタン⇄を押して項目を移動し、
- / NO、+ / YESボタンで2つ目のトラックを選ぶ



選択されたトラック(2つ目)

7 セットボタンを押す



8 トラックミックスを行う場合は+ / YESボタンを押す
(ミックスしない場合は- / NOボタンでキャンセル)
表示が変わったら、トラックミックス終了



※フロッピーの場合は「ディスクラトリダサナイデ!」が2行目に加わります。

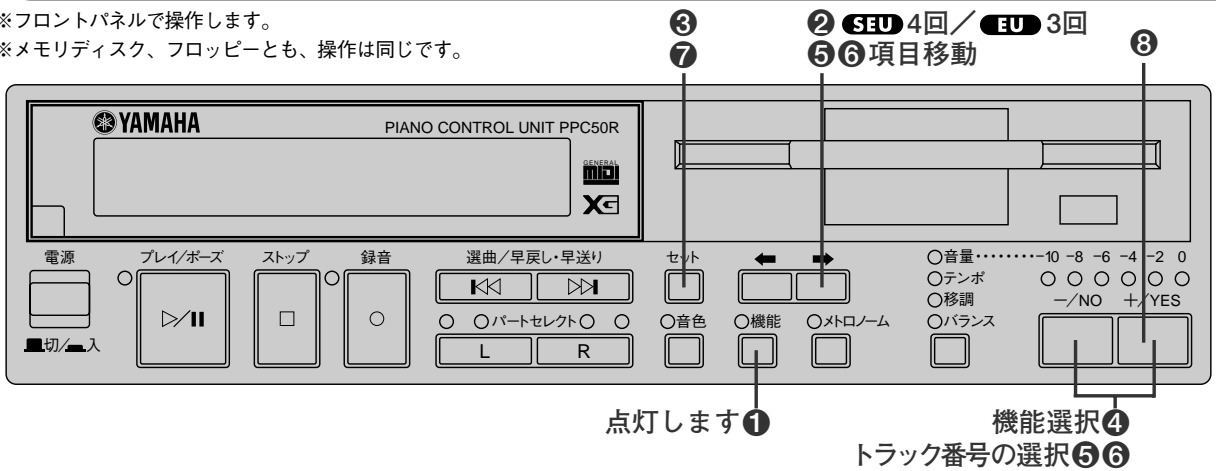


- フロッピー内の曲のトラック編集中には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはトラックミックスできません(P17参照)。
- E-SEQフォーマット曲でハーフペダルデータが記録されている場合、トラック3は選択できません。
- E-SEQフォーマット曲でピアノパートをそれ以外のパート(アンサンブルパート)へミックスしたり、アンサンブルパートをピアノパートへミックスした場合、ハーフペダルデータ(トラック3)は消去されます(ペダルのON/OFFデータは残ります)。

トラック移動

トラック内のデータを別のトラックに移す

※フロントパネルで操作します。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU



EU



2 カーソルボタン⇔を **SEU** では4回、**EU** では3回 押して次画面を呼出す



3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す



4 -/NO、+/YESボタンで「▶[イトウ]」と表示させる



●トラック内のデータを、別のトラックに移す機能です。移動後、元のトラックにあったデータと、移動先のトラックに入っていたデータは消去されます。

- 5** カーソルボタン⇐で項目を移動し、
- / NO、+ / YESボタンで移動するトラックを選ぶ



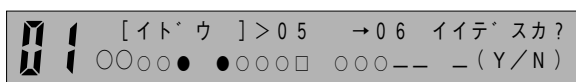
選択されたトラック

- 6** カーソルボタン⇐で項目を移動し、
- / NO、+ / YESボタンで移動先のトラックを選ぶ



移動先のトラック

- 7** セットボタンを押す



- 8** トラック移動を行う場合は+ / YESボタンを押す
(移動しない場合は- / NOボタンでキャンセル)
表示が変わったら、トラック移動終了



※フロッピーの場合は「ディスクトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。



- フロッピー内の曲のトラック編集中には、絶対にフロッピーを取り出ししたり、電源を切ったりしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはトラック移動できません(P17参照)。
- 音符データ(ノート・オン/オフ)、ペダルデータ(コントロールチェンジ)の他、音色番号、音量のデータも移動します。
- E-SEQフォーマット曲でハーフペダルデータが記録されている場合、トラック3は選択できません。
- E-SEQフォーマット曲でピアノパートをそれ以外のパート(アンサンブルパート)へ移動したり、アンサンブルパートをピアノパートへ移動した場合、ハーフペダルデータ(トラック3)は消去されます(ペダルのON/OFFデータは残ります)。
- トラック10に他のパートをトラック移動すると音色設定も移動されます。

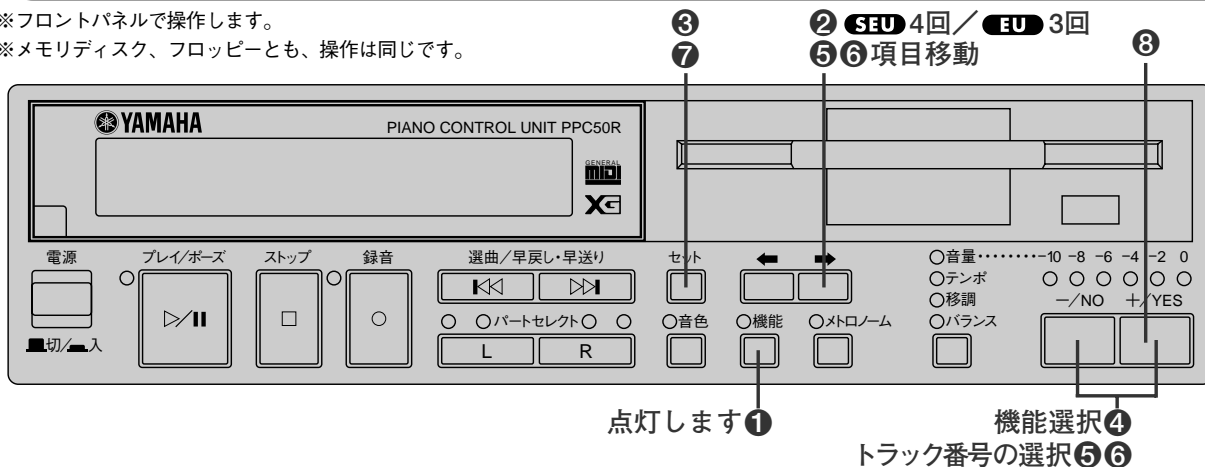


- トラック10に他のパートをトラック移動すると音色設定も移動され、サイレント時にメトロノーム音とその音が発音します。

トラックコピー

トラックのデータを別のトラックにコピーする

※フロントパネルで操作します。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
 *M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
 *M-Tune

2 カーソルボタン ⇄ を **SEU** では4回、**EU** では3回
 押して次画面を呼出す

←▶トラック *リセット
 (←, →, セット)

3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、
 セットボタンを押す



4 -/NO、+/YESボタンで「▶[コピー]」と表示さ
 せる



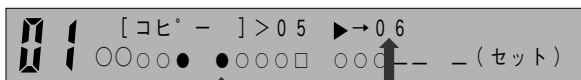
- トラック内のデータをコピーして、その曲の中に同じ演奏内容のトラックをもう1つ作る機能です。
- コピー先にデータが入っていた場合、そのデータは消去されます。コピー元のトラックのデータはそのまま残ります。

- 5** カーソルボタン⇐で項目を移動し、
- / NO、+ / YESボタンでコピーするトラックを選ぶ



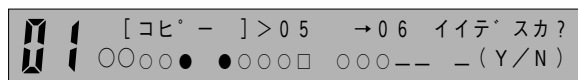
選択されたトラック

- 6** カーソルボタン⇐で項目を移動し、
- / NO、+ / YESボタンでコピー先のトラックを選ぶ



コピー先のトラック

- 7** セットボタンを押す



- 8** トラックコピーを行う場合は+ / YESボタンを押す
(コピーしない場合は- / NOボタンでキャンセル)
表示が変わったら、トラックコピー終了



※フロッピーの場合は「ディスクラトリダサナイデ！」が2行目に加
わります。



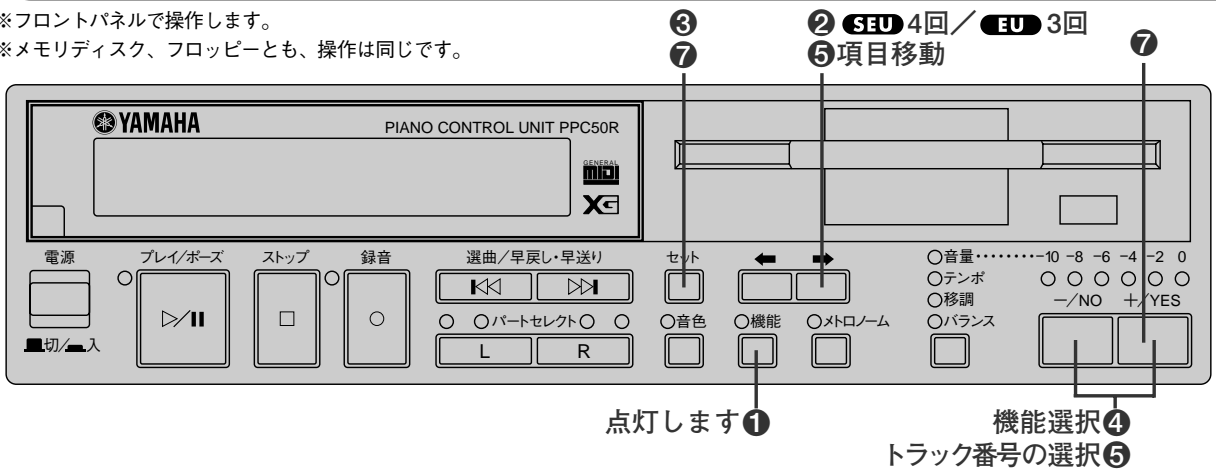
- フロッピー内の曲のトラック編集中には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはトラックコピーできません(P17参照)。
- 音符データ(ノート・オン/オフ)、ペダルデータ(コントロールチェンジ)の他、音色番号、音量のデータもコピーされます。
- E-SEQフォーマット曲でハーフペダルデータが記録されている場合、トラック3は選択できません。
- E-SEQフォーマット曲でピアノ以外のパート(アンサンブルパート)をピアノパートへコピーした場合、ハーフペダルデータ(トラック3)は消去されます(ペダルのON/OFFデータは残ります)。
- トラック10に他のパートをトラックコピーすると音色設定もコピーされます。



- トラック10に他のパートをトラックコピーすると音色設定もコピーされ、サイレント時にメトロノーム音はその音で発音します。

トラック消去 要らないトラックを消す

※フロントパネルで操作します。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
 *M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
 *M-Tune

2 カーソルボタン⇔を **SEU** では4回、**EU** では3回
 押して次画面を呼出す



3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、
 セットボタンを押す



●要らないトラックを消す機能です。



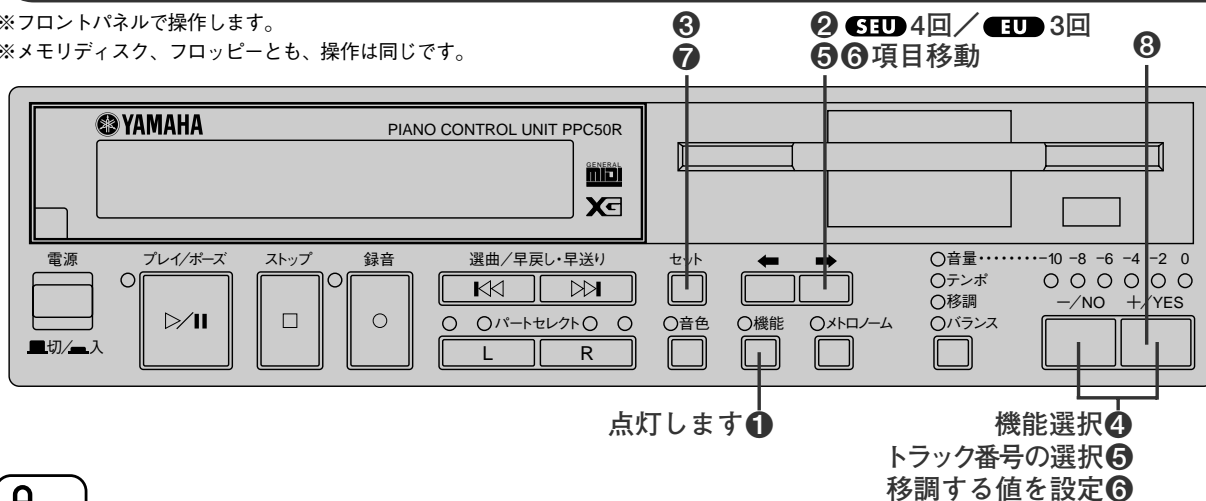
●フロッピー内の曲のトラック編集中には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
 ●プロテクトがオンになっているフロッピーはトラック消去できません (P17参照)。

トラック移調

トラックに入った演奏を移調する

※フロントパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



曲を選び、停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune

2 カーソルボタン ⇄ を **SEU** では4回、**EU** では3回
押して次画面を呼出す

←▶トラック *リセット
(←, →, セット)

3 「▶トラック」と表示されていることを確認し、
セットボタンを押す



4 -/NO、+/YESボタンで「▶[イチョウ]」と表示
させる



- トラック内のデータを移調する機能です。
- トラック移調の設定範囲は、-60～+60で、1キー(半音)単位で調節できます(例えば+12で1オクターブ上がります)。
- トラック番号に「ALL」を指定すると全トラック一斉に移調することができます(リズムトラックは移調されません)。



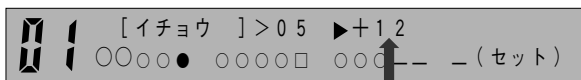
- フロッピー内の曲の編集・保存中には、絶対にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはトラック移調できません。
- パソコンなどを使ってシステムエクスクルーシブ等の特殊な方法でリズムトラックを指定した場合、トラック番号に「ALL」を指定するとリズムトラックも移調される場合があります。

- 5** カーソルボタン⇄で項目を移動し、
- / NO、+ / YESボタンで移調するトラックを選ぶ



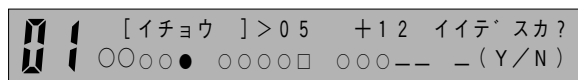
↑
選択されたトラック

- 6** カーソルボタン⇄で項目を移動し、ダイヤル、
- / NO、+ / YESボタンで移調する値を設定す



↑
移調する値(半音単位)

- 7** セットボタンを押す



- 8** トラック移調を行う場合は+ / YESボタンを押す
(移調しない場合は- / NOボタンでキャンセル)
表示が変わったら、トラック移調終了



※フロッピーの場合は「ディスクトリダサナイデ!」が2行目に加
わります。

ディスクの使いこなし

メモリディスクとフロッピー

- 本機では、2種類の「ディスク」が使えます。メモリディスクとフロッピーディスクです(この取扱説明書では、フロッピーディスクは「フロッピー」と表記)。ディスプレイに「ディスク」と出る場合は、両方を指しています。
- <メモリディスク>は実際には本体の中の半導体で、フロッピーディスクのように取り出すことはできません(もちろん電源をオフしても曲は覚えています)。
- ふだんの録音にはこのメモリディスクをお使いになると便利です。保存や選曲などもスピーディです。まずメモリディスクに録音しておき、たまってきたら曲コピーでテーマごとにフロッピーに整理・保存し(メモリディスク内の不要な曲は曲消去します)、必要に応じてフロッピー内の曲順を曲並び替えて入れ換えます。
- 逆に、複数のフロッピーや市販ソフトからメモリディスクに曲をコピーし、聴きたい曲だけを好きな順番に並べたオリジナルプログラムを作成しておく使い方もあります。フロッピー入れ換えの手間が省けますし、うっかり別の曲を再生してしまうこともありませんから、パーティーやイベントがスマートに行えます(市販ソフトからメモリディスクへのコピーは可能ですが、メモリディスクからフロッピーへのコピーはできません)。

2HDと2DD(旧機種とのやりとり)

- 本製品に使う3.5インチ・フロッピーディスクには、容量の違いで、2HDと2DDの2種類があります。2HDは2DDの約2倍のデータを記録できます。2HDは消去防止以外にもう1つ穴があいており、2DDと区別できます。
- 2HDと2DDのいずれも同じように使うことができますが、いくつか注意が必要です。旧機種のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤで使用できるのは2DDのみです。これらの機種とフロッピーのやりとりをする場合は、2DDをE-SEQタイプにフォーマットして使います(2HDと2DDの間で曲コピーは可能です)。

タイトルを付けましょう

- 録音を行うと仮の名前がセットされますが、内容がよく分かるようタイトル入力で題名を付けておきましょう。最大32文字までOKですから、曲名だけでなく、演奏者や録音日なども書き込めます。
- 挿入時に表示される、フロッピーのタイトルもぜひ入力しましょう。プレゼントのフロッピーにメッセージを入れておくのもアイデアですね。
- 大切な演奏の記録を保管したフロッピーは、ディスクコピー時などにうっかり内容を消してしまわないよう、消去防止をオンにしておきます。
- フロッピーのラベルには、ディスクタイプも記入しておきましょう。

[*参照ページ]

- ◆ピアノパートセレクト……P46
- ◆タイトル入力……P68
- ◆曲コピー……P104
- ◆曲並び替え……P106
- ◆ディスクコピー……P108
- ◆フォーマットについて……P62
- ◆メモリディスクとフロッピー……P18

※フロッピーディスクの取り扱いは、「フロッピーディスクについて」(P16)をよくお読みください。

ディスク

ディスク機能のご紹介

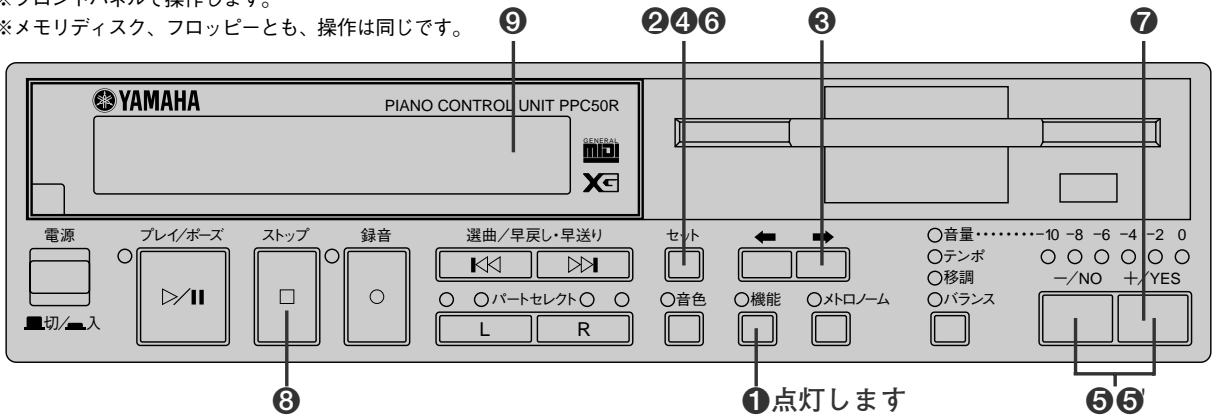
本章では、曲単位で消去やコピー、並び替えなどを行う機能と、フロッピー単位でコピー、タイプ変換を行う機能をご紹介します。

要らない曲を消したい	曲消去	P102
曲の複製をつくりたい	曲コピー	P104
保存用のフロッピーをつくりたい	曲コピー	P104
メモリディスクの曲をフロッピーに移したい	曲コピー	P104
曲の順番を並び替えたい	曲並び替え	P106
曲のフォーマットを変更したい	曲フォーマット変換	P110
メトロノーム録音した曲を 時間録音曲に変換する	カウンター変更	P112
フロッピー全体をコピーしたい	ディスクコピー	P108
フロッピー全体のタイプを変更したい	ディスクタイプ変換	P114
フロッピー全体を消去したい	フォーマットのしかた	P62

曲消去 要らない曲を消す

※フロントパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク	*MIDI Setup →
*M-Tune	*サイレント

EU

▶ ディスク	*MIDI Setup →
*M-Tune	

2 「▶ディスク」と表示されていることを確認してセットボタンを押す

▶フォーマット	*キョク ショウキョ
*キョク コヒ	*キョク ナラヒ カエ →

3 カーソルボタン $\leftarrow \rightarrow$ を押して「▶キョク ショウキョ」と表示させる

*フォーマット	▶キョク ショウキョ
*キョク コヒ	*キョク ナラヒ カエ →

4 セットボタンを押す

[キョク ショウキョ]	(-, +)
▶ 01 ○○○○	(セット)

↑ ↑
曲番号 曲名 (曲名がない場合はファイル名)

5 -/NO、+/YESボタン、消去する曲を選ぶ

[キョク ショウキョ]	(-, +)
▶ 03 ○○○○	(セット)

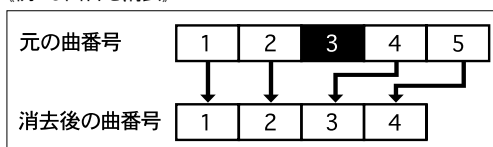
5 全曲を消去する場合は-/NOボタンで次の表示を呼び出す

[キョク ショウキョ]	(-, +)
▶ スハ テノキョク	(セット)



●メモリディスクやフロッピーに録音された要らない曲を、1曲単位または全曲一斉に消す機能です。消去するとその曲番号や曲名も、演奏と一緒に消去されます。

《例：3曲目を消去》



6 セットボタンを押す

[キョク ショウキョ] イイテ`スカ?
03 ○○○○○ (Y/N)

8 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホ`タンヲ オシテクタ`サイ

7 +/YESボタンを押すと曲消去開始

シ`ッコウチュウ

9 曲名表示が変わったら、曲消去終了

01 ○○○○○ (00:00)→
S0 XG

※-/NOボタンを押せば、曲消去をキャンセルして⑥の表示に戻ります。

※フロッピー内の曲を消去中は2行目に「ディスクヲトリダサナイデ！」が表示されます。



- フロッピーの場合は、④の表示までに入れておきます。
- ⑥の表示で-/NOボタンを押せば、曲消去をキャンセルして④の表示に戻ります。
- 大事な演奏を誤って消さないためには、「タイトル入力」(P68)したり、フロッピーのプロテクトをオンにしておくことをおすすめします(P16「フロッピーディスクについて」参照)。
- ディスク内の全曲を消去したい時には、ディスクフォーマット(P62「フォーマットのしかた」)が便利です。

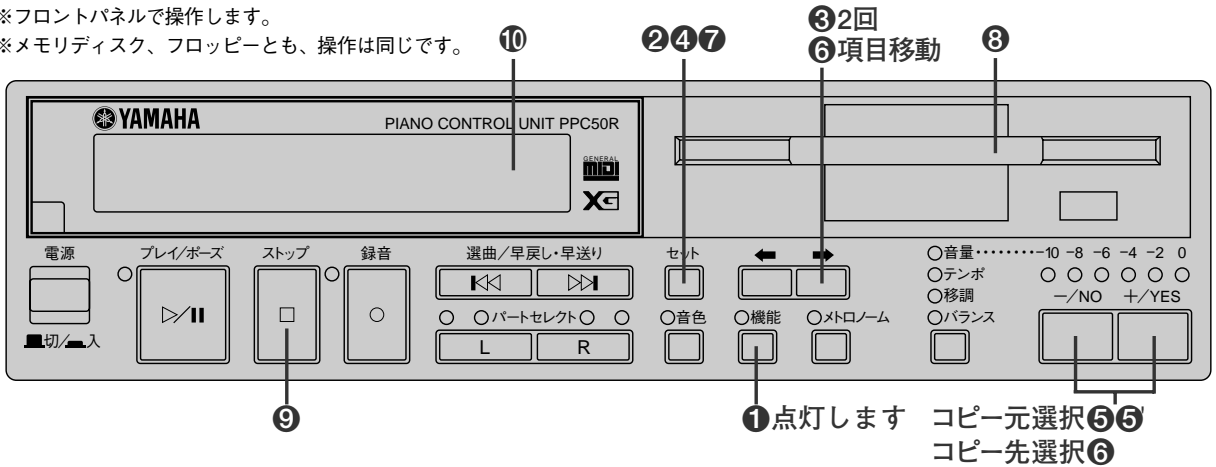


- 曲消去を始めると(⑦で+/YESボタンを押すと)、途中で止めることはできません。その間にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーは曲消去できません(P17参照)。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ディスクを曲消去することはできません。
- 複数の曲を一度に消去することはできません。

曲コピー 曲の複製をつくる

※フロントパネルで操作します。

※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune

2 「▶ディスク」と表示されていることを確認して
セットボタンを押す

▶フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コピー *キョク ナラビ カエ →

3 カーソルボタン⇐⇒を2回押して「▶キョク コピー」と表示させる

*フォーマット *キョク ショウキョ
▶キョク コピー *キョク ナラビ カエ →

4 セットボタンを押す

コピー先表示

[キョク コピー] →オナジ ディスク
▶ 01 ○○○○ (セット)

↑ ↑
曲番号 曲名(曲名がない場合はファイル名)

5 -/NO、+/YESボタンでコピーする曲を選ぶ

[キョク コピー] →オナジ ディスク
▶ 03 ○○○○ (セット)

5 全曲をコピーする場合は-/NOボタンで次の表示を呼び出す

[キョク コピー] →オナジ ディスク
▶ スヘ テノキョク (セット)



●1曲単位または全曲一斉にコピーする機能です。メモリディスクや1枚のフロッピーの中でも、メモリディスクとフロッピーの間でも、フロッピーと別のフロッピーの間でもコピーできます。

●コピーされた曲は、最後の曲番号になります。



●フロッピーをコピー元にする場合は、あらかじめフロッピーを挿入しておいてから操作を開始します。挿入されていない場合は、メモリディスクがコピー元になります。

●7で、「オナジディスク」「ホカノディスク」「メモリディスク」の3種類からコピー先を選びます(コピー元がメモリディスクの場合「オナジディスク」は表示されません)。フロッピーからメモリディスクへコピーする場合は「ホカノディスク」ではなく、「メモリディスク」を選びます。

6 カーソルボタン \blacktriangleleft を押して「▶ホカノディスク」と表示させ、コピー先を- / NO、+ / YESボタンで選ぶ

[キョク コピ° -] ▶ホカノテ° イスク
> 03 ○○○○○ (セツト)

コピー先表示	コピー元	コピー先
オナジディスク	フロッピー	→ フロッピー
ホカノディスク	フロッピー	→ フロッピー
	メモリディスク	→ フロッピー
メモリディスク	フロッピー	→ メモリディスク
	メモリディスク	→ メモリディスク

9 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホ° タンヲ オシテクタ° サイ

10 曲名表示に変わったら、曲コピー終了

01 ○○○○○ (00:00) →
S0 GM

7 セットボタンを押す

《ホカノディスクの場合》

コピ° -サキノ テ° イスクヲ イレテクタ° サイ
03 →ホカノテ° イスク

※コピー先に「メモリディスク」を選んだ場合、セットボタンを押せば、曲コピーが開始されます。

8 コピー先のフロッピーを入れると曲コピー開始

70 シ° ッコウチュウ ■■■□□□□□□□
テ° イスク ヲ トリタ° サナイテ° !

※曲番号表示部とディスプレイにコピー残量が表示されます。図では、残量が70%。「00」(ディスプレイは全て■)でコピー終了。

※メモリディスク内でコピーを行う場合は、2行目は表示されません。

※フロッピーから他のフロッピーへコピーする時には、⑧でコピーを開始した後に、次の表示が出ます。ディスプレイの指示に従って、コピー先のフロッピーとコピー元のフロッピーを入れ換えてください。

コピ° -モトノ テ° イスクヲ イレテクタ° サイ
03 →ホカノテ° イスク

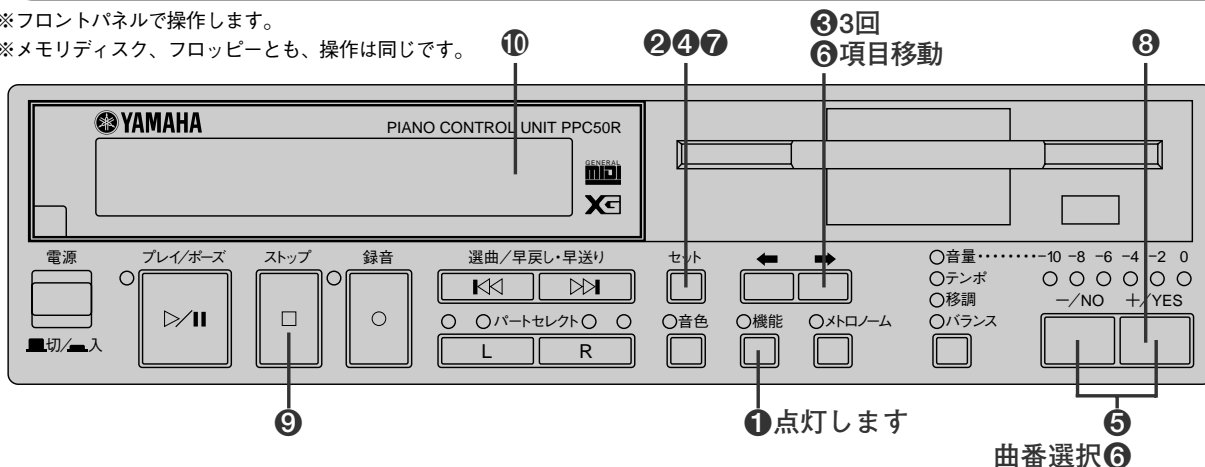
※コピーするデータ量が多いと入れ換えが何回か必要です。ディスプレイの指示に従ってください。



- 曲コピー開始中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーはコピー先に指定できません(P17参照)。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトからメモリディスクへの曲コピーは可能です。市販ソフトからフロッピーへの曲コピーはできません。
- E-SEQタイプのディスクにE-SEQフォーマット以外の曲はコピーできません。

曲並び替え 録音した曲を好きな曲順に並び替える

※フロントパネルで操作します。
 ※メモリディスク、フロッピーとも、操作は同じです。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
 *M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
 *M-Tune

2 「▶ディスク」と表示されていることを確認して
 セットボタンを押す

▶フォーマット *キョク ショウキョ
 *キョク コヒ°ー *キョク ナラヒ°カエ →

3 カーソルボタン⇔を3回押して「▶キョク ナラヒ°カエ」と表示させる

*フォーマット *キョク ショウキョ
 *キョク コヒ°ー ▶キョク ナラヒ°カエ →

4 セットボタンを押す

[キョク ナラヒ°カエ] (-, +)
 ▶ 01ヲ → 01ハ°ンメニ (←, →, セット)
 ↑
 曲番号

5 -/NO、+/YESボタンで何曲目を変更するかを選ぶ

[キョク ナラヒ°カエ] (-, +)
 ▶ 02ヲ → 01ハ°ンメニ (←, →, セット)



●メモリディスクやフロッピーの中の曲順を、好きな順番に並び替える機能です。



●フロッピー内の曲順を並び替える場合は、④の表示までに入れておきます。挿入されていない場合は、メモリディスク内の曲順を並び替えます。

●「現在○番の曲を変更後何番にするか」を1曲ずつ指定していきます。

例えば、3番の「C」を1番にして並び替えを続行し、5番の「E」を4番にして終了させると、次のように並び替わります。

曲番号	1	2	3	4	5
並び替え前	A	B	C	D	E
並び替え後	C	A	B	E	D

- ⑥ カーソルボタン⇐を押してカーソルを右に移し、変更後の曲番を、- / NO、+ / YESボタンで選ぶ

[キョク ナラヒ カエ] (-, +)
> 02ヲ ▶ 05ハ ンメニ (←, →, セット)

- ⑦ セットボタンを押すと1曲分の設定が終わり、次の画面になります。+ / YESボタンを押すと曲消去開始

点滅

ナラヒ カエヲ ツツ ケマスカ?
02ヲ ▶ 05 (YES, NO)

※並び替えを続けるなら、+ / YESボタンを押すと④に戻るので、⑤～⑦を繰り返して、1曲ずつ変更します。

- ⑧ 並び替えの設定を終了するには、⑦の質問に対して- / NOボタンを押すと、並び替えを開始

シ ッコウチュウ

※フロッピーの場合は「ディスクヲトリダサナイデ!」が2行目に加わります。

- ⑨ 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホ タンヲ オシテクタ サイ

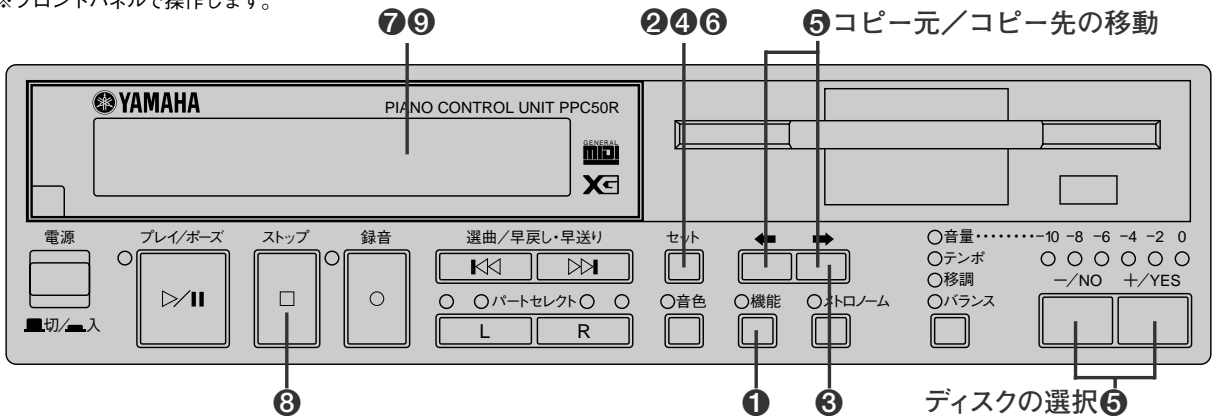
- ⑩ 曲名表示が変わったら、曲並び替え終了



- 曲並び替え実行中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになったフロッピー(P17参照)や「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトは、曲並び替えできません。
- 変更後の曲番号は、重複して指定できないようになっています。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。

ディスクコピー ディスク全体をコピーする

※フロントパネルで操作します。



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune

2 「▶ディスク」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

▶フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コピー *キョク ナラヒカエ →

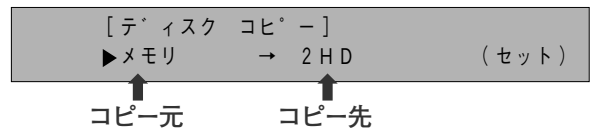
3 「▶ディスク コピー」と表示するまでカーソルボタン⇄を押す

←▶ ディスク コピー *キョク ヘンカン
*カウンター *ディスク ヘンカン

4 セットボタンを押す

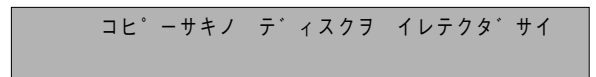
[ディスク コピー]
▶メモリ → 2HD (セット)

5 カーソルボタンでコピー元/コピー先を移動し、-/NO、+/YESボタンでディスクの種類を選択

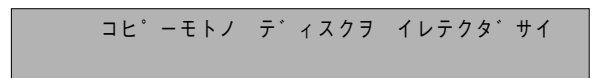


コピー元/コピー先とも、「メモリ」「2HD」「2DD」が選べます。「メモリ→メモリ」を除く全ての組み合わせが可能です。

《メモリディスク→フロッピー (2HD、2DD)》
6a セットボタンを押すと次の表示になるのでフロッピーを入れるとコピー開始



《フロッピー (2HD、2DD) →メモリディスク》
6b セットボタンを押すと次の表示になるのでフロッピーを入れるとコピー開始



- ディスクに入った全曲を、別のディスクにまるごとコピーする機能です。「曲コピー」で「スベテノキョク」を指定した場合、コピー先のディスク中の曲は消去されませんが、「ディスクコピー」では、**コピー先のディスク中の曲は全て消去されます。**
- ディスクコピーは、コピー元のデータ容量が多いとかなり時間がかかる場合があります。目的に応じて、曲単位での「曲コピー」(P104)を行ってください。



- 大切な演奏を記録したフロッピーのバックアップをとる時などに使います。
- コピー先が新しいフロッピーである場合は、フォーマットしてから行います。

《フロッピー(2HD、2DD)→フロッピー(2HD、2DD)》

6C-1 セットボタンを押すと次の表示になるので
コピー元のフロッピーを入れる

コピ°-モトノ テ°イスクラ イレテクタ°サイ

6C-2 次の表示になるのでコピー元のフロッピーを
一旦取り出し、コピー先のフロッピーを入れる

コピ°-サキノ テ°イスクラ イレテクタ°サイ

6C-3 次の表示になるのでコピー先のフロッピーを
一旦取り出し、コピー元のフロッピーを入れる

コピ°-モトノ テ°イスクラ イレテクタ°サイ

6C-4 次の表示になるのでコピー元のフロッピーを
もう一度取り出し、コピー先のフロッピーを入れるとコピー開始

コピ°-サキノ テ°イスクラ イレテクタ°サイ

7 コピー中の画面

70 シ°ッコウチュウ ■■■□□□□□□□
ディスクヲトリダサナイデ!

※曲番号表示部とディスプレイにコピー残量が表示されます。図では、残量が70%。「00」(ディスプレイは全て■)で変換終了。
※フロッピー間でディスクコピーを行うと、コピー開始後も再度次の表示が出ます。ディスプレイの指示に従って、コピー先のフロッピーとコピー元のフロッピーを入れ換えてください(入れ換えを促す音が出ます)。

コピ°-モトノ テ°イスクラ イレテクタ°サイ

8 次の表示になったらストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホ°タンヲ オシテクタ°サイ

9 曲名表示に変わったらディスクコピー終了

01 ○○○○ (00:00)→
S0 GM



- コピー元のフロッピーのプロテクトがオンになっていないと次の表示が出ます。一旦フロッピーを取り出し、プロテクトをオンにしてから(P17参照)入れ直して下さい。

コピ°-モトノ テ°イスクハ
ショウキョホ°ウシヲ シテクタ°サイ

- プロテクトがオンになったフロッピーには、ディスクコピーできません。オフにして入れ直して下さい。
- コピー先のフロッピーの内容はすべて消去されます。次の画面が表示されますので、消して良い場合は+ / YESボタン、取り止める場合は- / NOボタンを押して下さい。

テンソウサキノ キョクヲ ショウキョ シマス
イイテ°スカ?(Y / N)

- 6でディスクコピーを開始すると途中でキャンセルすることはできません。また、ディスクコピー実行中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- コピー先のフロッピーが画面で指定したものと異なると次のような画面が表示されます。指定したタイプのフロッピーを入れ直して下さい。間違っただけでキャンセルしたい場合はストップボタンを押します。

コピ°-サキノテ°イスクカ° チカ°イマス
2DDテ°イスクラ イレテクタ°サイ

- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトをフロッピーにディスクコピーすることはできません。メモリディスクにはコピーできます。
- ディスクが一杯になった時は、下記の表示になります。

テ°イスクカ° イッハ°イニナリマシタ
ナニカ ホ°タンヲ オシテクタ°サイ

6 カーソルボタン \leftarrow でカーソルを移動し、 $-$ /NO、 $+$ /YESボタンで変換後のフォーマットを選ぶ

[キョク ヘンカン] (セット)
> 05 PIANO〇〇〇.MID ▶ E-SEQ

7 セットボタンを押すとフォーマット変換開始

シッ コウチュウ

※フロッピーの場合は「ディスクロトリダサナイデ!」が2行目に加わります。

8 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホタンヲ オシテクタ サイ

9 曲名表示に変わったら、曲フォーマット変換終了

01 PIANO〇〇〇.FIL (00:00) →
S O E S



- E-SEQ Type Diskにフォーマットされたフロッピーディスクでは、E-SEQ曲からSMF曲への「曲フォーマット変換」はできません。「ディスクタイプ変換」(P114参照)を行ってください。
- 曲フォーマット変換実行中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- プロテクトがオンになっているフロッピーは曲フォーマット変換できません(P17参照)。
- タイトルをつけていない曲では、仮の名前がセットされていますが、曲フォーマット変換を行うと、末尾の3文字が次のように変更されます。

変換前	変換後(ファイル名)
E-SEQ (〇〇〇.FIL)	SMF0 (〇〇〇.MID)、SMF1 (〇〇〇.MID)
SMF0 (〇〇〇.MID)	E-SEQ (〇〇〇.FIL)、SMF1 (〇〇〇.MID)
SMF1 (〇〇〇.MID)	E-SEQ (〇〇〇.FIL)、SMF0 (〇〇〇.MID)

- また、曲フォーマット変換は新しい曲を作成することになるため、元からあったファイル名との重複を避けるために変換後のファイル名を変更する場合があります(同一のファイル名はディスク内に混在できません)。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトのフォーマット変換は行えません。

- ⑥ カーソルボタン⇔でカーソルを移動し、- / NO、+ / YESボタンで変更後の録音タイプを選ぶ

```
[カウンター  ヘンコウ]      (-, +)
> 05 ▶メトロノーム      (←, →, セット)
```

↑ ↑
曲番号 変更後の録音タイプ

- ⑦ セットボタンを押すとカウンター変更開始

```
シッコウチュウ
```

※フロッピーの場合は「ディスクヲトリダサナイデ！」が2行目に加
わります。

- ⑧ 次の表示になったら、ストップボタンを押す

```
シュウリョウシマシタ  
ナニカ ホタンヲ オシテクタサイ
```

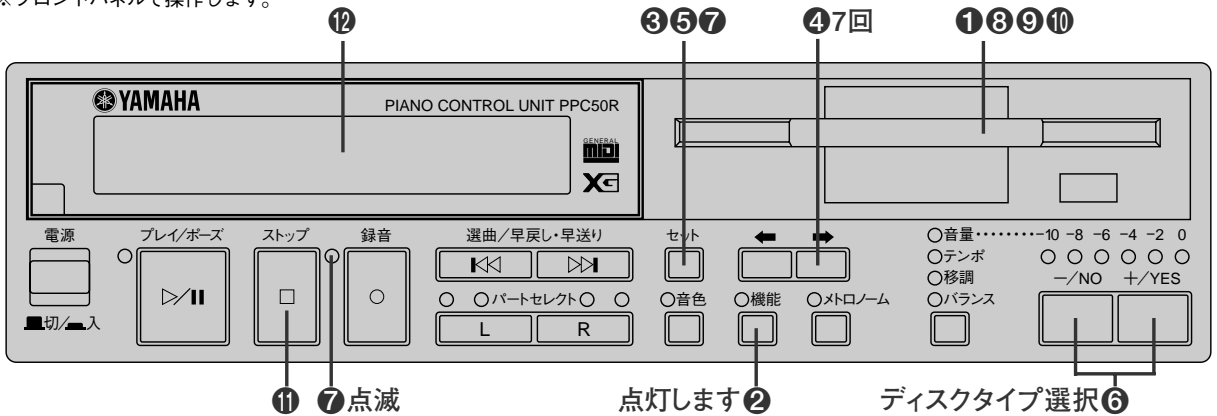
- ⑨ 曲名表示に変わったら、カウンター変更終了

```
PIANO○○○.MID      (000-0) →  
S O G M
```

ディスクタイプ変換

フロッピーのタイプを変えて別のフロッピーにコピーする

※フロントパネルで操作します。



停止中に操作します

1 変換元のフロッピーを入れる

※変換元のフロッピーはプロテクトをオン(プロテクトタブを穴のあいた状態にスライドさせる)にしてください(P17参照)。

2 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune

3 「▶ディスク」と表示されていることを確認してセットボタンを押す

▶ フォーマット *キョク ショウキョ
*キョク コピー *キョク ナラビ カエ →

4 カーソルボタン⇄を7回押して「▶ディスク ヘンカン」と表示させる

← * ディスク コピー *キョク ヘンカン
*カウンター ▶ ディスク ヘンカン

5 セットボタンを押す

[ディスク ヘンカン] (-, +)
E-SEQ → ▶ SMF Type (セット)

現在のタイプ 変更後のタイプ

6 -/NO、+/YESボタンで変換後のタイプを選ぶ

[ディスク ヘンカン] (-, +)
E-SEQ → ▶ E-SEQ (MX) (セット)

7 セットボタンを押す

ヘンカンサキノ ディスクイ イレテクタ サイ



- 従来機種との互換のためにフロッピーのディスクタイプを変換して、別のフロッピーにコピーする機能です。
- SMFタイプ↔E-SEQタイプの変換が行えます(ディスクタイプについてはP19、P116参照)。

変換元のディスクタイプ	変換後のディスクタイプ
E-SEQ	→ SMF Type
	→ E-SEQ (MX)
	→ E-SEQ Type
SMF	→ E-SEQ Type
	→ E-SEQ (MX)

- ディスクタイプ変換は、変換元のデータ容量が多いとかなり時間がかかる場合があります。ディスク全体を変換する必要のない場合は、曲単位での「曲フォーマット変換」(P110)を行ってください。

8 変換元のフロッピーを取り出し、変換先のフロッピーを入れる

ヘンカンモトノ ティスクヲ イレテクタサイ

9 変換先のフロッピーを一旦取り出し、もう一度変換元のフロッピーを入れる

ヘンカンサキノ ティスクヲ イレテクタサイ

※データ量が多いと⑧と⑨の操作が何回か必要です。ディスプレイの指示に従ってください。

10 変換先のフロッピーをもう一度入れると変換開始

70 シッコウチュウ ■■■□□□□□□□
ディスクヲトリダサナイデ!

※曲番号表示部とディスプレイに変換残量が表示されます。図では、残量が70%。「00」(ディスプレイは全て■)で変換終了。

※⑩でディスクタイプ変換を開始した後も再度次の表示が出ます。ディスプレイの指示に従って、変換先のフロッピーと変換元のフロッピーを入れ換えてください。

ヘンカンモトノ ティスクヲ イレテクタサイ

11 次の表示になったら、ストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホタンヲ オシテクタサイ

12 曲名表示に変わったら、ディスクタイプ変換終了

01 PIANO○○○.FIL (00:00)→
ES GM



●「E-SEQ (MX)」への変換は、変換先フロッピーとして必ず2DDタイプを使います。また、変換元のデータが多いと、フロッピーが2枚必要になることがあります。次のような表示が出たらフロッピーを入れ換えてください。

モウイチマイ ティスクカヒツヨウテス
ヘンカン サキノ ティスクヲ イレテクタサイ

- SMFタイプをE-SEQ (MX)タイプに変換すると、ピアノパートはすべてTr.1およびTr.2になります。
- コピー先が新しいフロッピーである場合は、フォーマットしてから行います。



●⑩で変換元のフロッピーのプロテクトがオンになっていないと次の表示が出ます。一旦フロッピーを取り出し、プロテクトをオンにしてから(P17参照)入れ直して下さい。

ヘンカンモトノ ティスクハ
ショウキョホウシヲ シテクタサイ

- 変換先フロッピーはプロテクトオフで使用します。プロテクトがオンでは使用できません(P17参照)。
- ⑩で変換をスタートすると途中でキャンセルすることはできません。また、ディスクタイプ変換実行中にフロッピーを取り出したり電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。
- 変換先のフロッピーにあったデータは全て失われます。
- ディスク機能を途中で終了したい時は、もう1度機能ボタン(またはストップボタン)を押して消灯させます。
- 「ピアノソフト」「ピアノソフトプラス」等の市販ソフトのディスクタイプ変換は行えません。

フォーマットについて

- 新しいフロッピーを録音／再生に使えるようにする作業をフォーマットと言いますが、ここでは、曲やディスクの「形式」という意味でのフォーマットを解説します。サイレントアンサンブルピアノの旧機種やピアノプレーヤと曲やフロッピーをやりとりされる方、パソコンの音楽ソフトと共にお使いになる方は、ご一読ください。
- 「曲フォーマット」は、曲をメモリディスクやフロッピーに記録する形式のこと。本機では、現在もっとも広く使われている「スタンダードMIDIファイル(SMF)のフォーマット0」という形式を採用しています。パソコン用の音楽ソフトで作成しこのフォーマットで保存した曲に、本機でピアノパートを追加したり、本機で作成した曲をパソコンでエディットするといったことがスムーズに行えます(曲名表示で「S0」と表示)。
- フロッピーのフォーマット時にディスクタイプを指定できますが、初期値の「SMF type Disk」にしておくと、新たに曲を録音する時に、自動的にスタンダードMIDIファイルのフォーマット0形式になります(メモリディスクは工場出荷時にSMFタイプにフォーマットされています)。
- もう一つの「E-SEQ type Disk」は、旧機種のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤとの互換性を重視するディスクフォーマットです。旧機種のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤの曲は、「E-SEQ」という形式をベースにしています(ピアノプレーヤHQシリーズではSMF曲の再生は可能)。E-SEQタイプにフォーマットされたディスクは、E-SEQフォーマット曲で録音されます(曲名表示で「ES」と表示)。なお、従来機種では2HDフロッピーは使えません。
※なお、E-SEQタイプのディスクの中にパソコンでE-SEQ以外の形式のファイルをコピーしても、本機のディスプレイで確認したり、再生することはできません。
- SMF1は「スタンダードMIDIファイル(SMF)のフォーマット1」という形式で、これもパソコン用の音楽ソフトでしばしば使われる形式です。本製品は、SMF1形式の曲の再生が可能です。

[*参照ページ]

- ◆フォーマット……P19
- ◆曲コピー……P104
- ◆ディスクコピー……P108
- ◆曲フォーマット変換……P110
- ◆ディスクタイプ変換……P114

MIDI

MIDIセットアップ機能のご紹介

本機は、楽器をつなぐデジタル規格＝MIDI (ミディ) に対応。他のMIDI対応楽器と接続して、手軽に連携プレイが楽しめます。またパソコンとの接続も、TO HOST端子により手軽。MIDI対応のパソコン音楽ソフトなどとシステムアップすれば、ピアノの世界をさらに広げることができます。本章では、MIDIシステムを組む際に本機で行う準備についてご紹介しています。

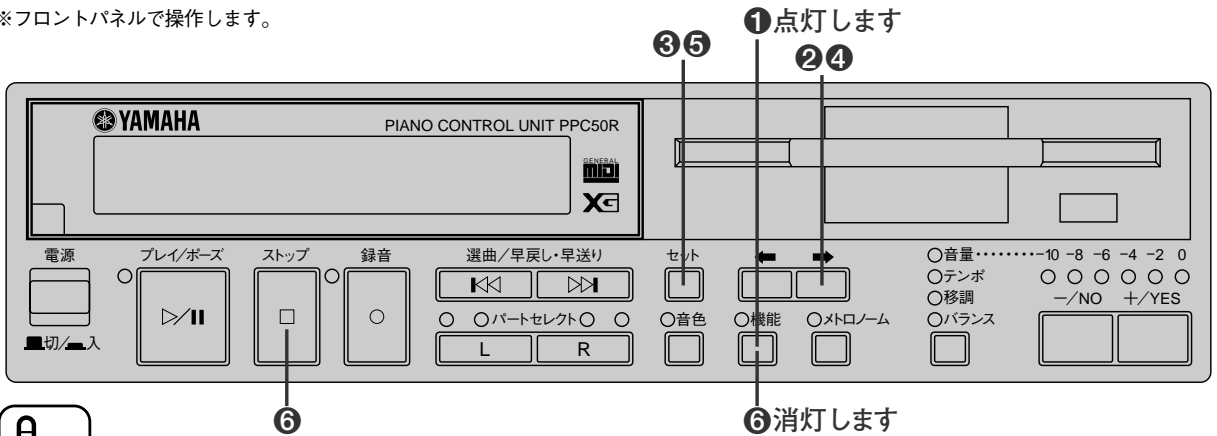
*MIDI機能は、フロントパネルで操作します。

MIDIセットアップメニューでの操作方法	——MIDIセットアップメニュー	P118
パラメーター一覧 (アルファベット順)		
*Delay In	——ディレイのオン/オフ	P119
*Import File	——他機種で作成されたディスクのピアノパートの再生チャンネル指定	P119
*KBD Out	——鍵盤演奏のMIDI出力に関する設定	P120
*Local	—— SEU 鍵盤と音源部の切り離し	P122
*MIDI Out	——MIDI出力データの選択	P120
*PianoPartESBL Out	——ピアノパートのデータも内蔵音源に送信する	P119
*Piano Rcv Ch	——ピアノパートの受信チャンネルの指定	P119
*Remote In	——システムリアルタイム情報の受信オン/オフ	P121
*Remote Out	——システムリアルタイム情報の送信オン/オフ	P121
*TO HOST	——TO HOST端子からの出力	P120
MIDIのセットアップ内容を初期値に戻す	——リセット機能	P128
資料編		
*TO HOST端子の接続について		P136
*MIDIインプリメンテーションチャート		P137

MIDIセットアップメニュー

MIDI機能の呼び出し方と設定の方法

※フロントパネルで操作します。



停止中に操作します

- 機能ボタンを押す

SEU

```
▶ ティスク      *MIDI Setup →
*M-Tune        *サイレント
```

EU

```
▶ ティスク      *MIDI Setup →
*M-Tune
```

- カーソルボタン \rightleftarrows を1回押し、「▶ MIDI Setup」と表示させる

- セットボタンを押し、メニュー選択画面を呼び出す

SEU

```
▶ PianoPart *MIDI Out
*Remote     *Local
```

EU

```
▶ PianoPart *MIDI Out
*Remote
```



本製品のMIDI端子やTO HOST端子と他のMIDI端子付き楽器、パソコンを接続してシステムを組む際に必要となる設定を、この機能で行います。

- MIDIセットアップ機能でセットした内容は、一部を除き、電源を切っても記憶されます。



- TO HOST端子を使った接続方法はP136をご覧ください。
- TO HOST端子を使ったMIDIシステムの活用法はP130「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご覧ください。
- MIDIセットアップモードでの基本操作(⑤)



- 接続する他のMIDI楽器・機器、パソコン、パソコンソフト等の取扱説明書もよくお読みください。
- 設定途中でも、機能ボタンまたはストップボタンを押すとMIDIセットアップ機能を終了できます。
- / NO、+ / YESボタンを同時に押し、設定を初期値に戻すことができます。

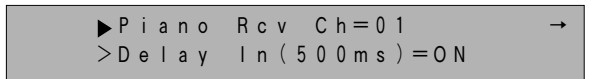
①点灯します

②④

③⑤

⑥消灯します

- カーソルボタンで機能を選びセットボタンを押す

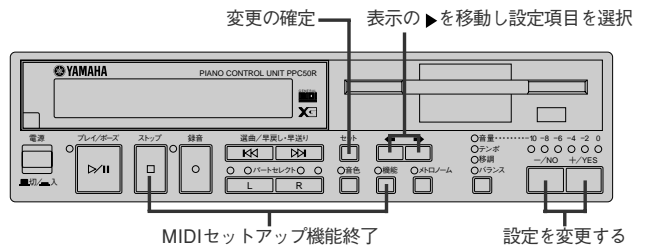


- カーソルボタンで項目を選び(▶が移動) - / NO、+ / YESボタンで機能の設定を行いセットボタンで確定する

※次画面があればカーソルボタン \rightleftarrows で移動し、選択→設定を行う。カーソルボタン \leftarrow で前画面に戻る。



- MIDIセットアップ機能を終わる時は、機能ボタンまたはストップボタンを押す



MIDIセットアップ機能終了

設定を変更する

Piano Part ピアノパートに関する設定

※操作方法はP118をごらんください。「Piano Part」は、他のMIDI楽器やパソコンと接続した際、ピアノを発音させるデータをどう扱うかを設定します。



P118④のメニュー画面で「▶Piano Part」と表示されていることを確認し、セットボタンを押す

《受信チャンネル/ディレイ・イン》の設定画面

```
▶ Piano Rcv Ch=01 →
> Delay In(500ms)=0N
```

カーソルボタン⇄を2回押すと、次の設定画面になります。

《インポートファイル/ピアノパートアンサンブル出力》の設定画面

```
← Import File L▶01 R=# #
PianoPart ESBL Out=OFF
```

●Piano Rcv Ch《ピアノ受信チャンネル》

MIDIからの入力データに対して、ピアノを発音させるMIDI受信チャンネルを指定する機能。

◆初期値：1

# #	受信しない
1~16	各チャンネルのデータでピアノが発音
1+2	チャンネル1と2のデータでピアノが発音
Prg	ピアノ系音色が設定されているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータでピアノが発音
HP	チャンネル1と2の音符データでピアノが発音 チャンネル3のデータでペダルが動く
Prg (All)	ピアノ系音色が設定されている全チャンネルのデータでピアノが発音

●Delay In (500ms)《ディレイ・イン》

受信データに対してピアノの発音タイミングを調整する機能。

◆初期値：ON

ON	ピアノを正確に発音させます。但し、受信タイミングより0.5秒の遅れが出ます。
OFF	受信タイミングに対して可能な限り速く発音させます。但し、弱音量では遅れがちになります。

●Import File《インポートファイル》

本機やサイレントアンサンブルピアノ、EMR1以外の機種で記録されたフロッピーを本機のフロッピーディスクドライブで再生する時、ピアノを発音させるチャンネルを指定する機能。

◆初期値：L=1、R=# #

# #	受信しない
1~16	各チャンネルのデータでピアノが発音
Prg	ピアノ系音色が設定されているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータでピアノが発音
Prg (All)	ピアノ系音色が設定されている全チャンネルのデータでピアノが発音

●PianoPart ESBL Out《ピアノパートアンサンブル出力》

再生時、ピアノパートを内蔵音源で発音させる/させないを設定する機能。

◆初期値：OFF

ON	ピアノパートのデータもアンサンブルパートの一部とみなし、内蔵音源に送信する
OFF	ピアノパートのデータは内蔵音源に送信しない



●本機の自動演奏機能は、ピアノパートをピアノで発音させる(●SEU)サイレント時はピアノ電子音源を使用)のが基本です。



- 「Piano Rcv Ch」は、データの内容に応じて変更してください。
- 「Import File」は主にサイレントアンサンブルピアノやEMR1、ピアノプレーヤ以外で作られた曲(スタンダードMIDIファイルなど)を本機で再生する時、データの内容に応じて変更してください。
- 「Piano Rcv Ch」および「Import File」で「Prg」(プログラムチェンジ)を設定すると、ピアノ系音色(音色番号1~8番)が使われているチャンネルの内、最も小さいチャンネル番号のデータをピアノパートとして自動設定します。また、カーソルがLパートにある時「Prg(All)」に設定できます。この場合、ピアノ系音色が設定されている全チャンネルがピアノパートとして設定されます。
- 「PianoPart ESBL Out」をONにすると、全パートを内蔵音源で再生することになります(ピアノと内蔵音源が同時に発音します)。なお、アンサンブルパートのMIDI出力のオン/オフは「MIDI Out」(P120)で行います。

MIDI Out MIDI OUT端子、TO HOST端子からの出力内容を設定

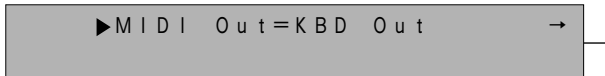
※操作方法はP118をごらんください。



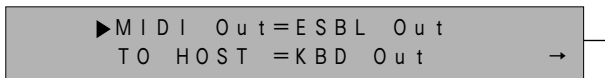
P118のメニュー画面でカーソルを「MIDI Out」に移し、セットボタンを押す

《ソースの選択》

- ・ホストセレクトスイッチ=MIDIの場合



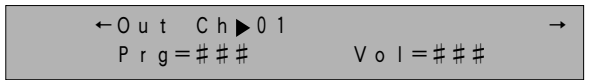
- ・ホストセレクトスイッチ=PC1、PC2、MACの場合



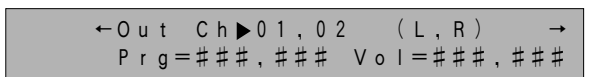
MIDI Out=KBD Outの場合、カーソルボタンを押して次の設定画面に入ります。

《送信チャンネル/プログラムチェンジ/音量》

- ・スプリットポイントを設定していない場合

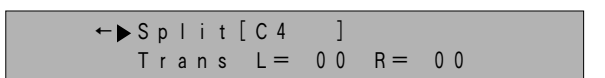


- ・スプリットポイントを設定している場合

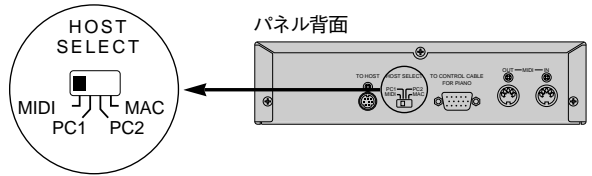


↓ 次の設定画面

《スプリットポイント、移調》



■ホストセレクトスイッチ



●MIDI Out

MIDI OUT端子からどのデータを出力するか指定する

- ◆初期値：KBD Out

KBD Out	鍵盤演奏のデータを出力
ESBL Out	アンサンブルパートを出力
Thru Port2	TO HOST端子からの入力の内、「ポート2」と指定されたデータのみを出力

●TO HOST

- ◆TO HOST端子からの出力はKBD Outに固定です。

●MIDI Out出力値(次画面で設定、送信)

- ◆初期値：Out Ch=1、Prg=###、Vol=###、Split=OFF、Trans=0/0

Out Ch	鍵盤演奏の送信チャンネル	OFF、1~16、HP
Split	スプリットポイントの設定	OFF、A-1~C7
Trans	移調して送信	-60~+60(1=半音)
Prg	音色番号データの送信	###、1~128
Vol	音量データの送信	###、0~127



- MIDI Outは、MIDIシステムの構成に合わせて設定が必要です。TO HOST端子を使ったMIDIシステムの活用法は、P130「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご覧ください。



- 「MIDI Out=KBD Out」は、接続したピアノをマスターキーボード、入力用キーボードとして、鍵盤演奏データをMIDI OUT端子から出力して使う際に選択します。この場合、カーソルボタンを押して次画面を呼び出し、引き続き送信チャンネルなどを設定します。
- 「MIDI Out=ESBL Out」を選ぶと、アンサンブルパート(本機の再生またはMIDI IN/TO HOST端子からの入力)を内蔵音源およびMIDI OUT端子にも出力します。PianoPart ESBL Out (P119) がONであれば、ピアノパートも合わせて出力します。
- 「MIDI Out=Thru Port2」を選んだ時、TO HOST端子から入力されたデータにPort2用のものが含まれていると、そのデータのみをそのまま出力します。(Delay InがONであればディレイをおこないます)
- 「MIDI Out=KBD Out」の次画面で「Out Ch=HP」に設定すると、鍵盤演奏情報とペダルのON/OFF情報をチャンネル1で送信し、ハーフペダル情報をチャンネル3を使って送信します。
- 「Split」で音名を指定すると(鍵盤、一/NO、十/YESボタン)、スプリットポイントで音域を2つに分け、演奏を2つのチャンネルに分けて送信します(スプリットポイントはLパートに含まれます)。外部音源の2種類の音色を同時に使って演奏したい時などに使います(鍵盤と音名についてはP75参照)。スプリットポイントを指定したら、Out Chは別々に設定します。LRごとの移調(TRANS)も設定できます(移調については、再生機能のP38「移調調節」参照)。
- 「Prg」「Vol」は、接続先のMIDI音源の音色・音量を切り換えるためのものです。ピアノの鍵盤を弾いて音色・音量を確認できます。スプリット時は、LR個々に切り換えられます。

Remote スタート、ストップなどの送受信のオン/オフ

※操作方法はP118をごらんください。



P118⑧のメニュー画面でカーソルを「Remote」に移し、セットボタンを押す

```
▶ Remote Out=OFF  
> Remote In=OFF
```

Remote Outをオンにするには+/YESボタンで「Remote Out=ON」と表示させる

```
▶ Remote Out=ON  
> Remote In=OFF
```

Remote Inをオンにするにはカーソルボタン⇨で項目を移動し、+/YESボタンで「Remote In=ON」と表示させる

```
> Remote Out=OFF  
▶ Remote In=ON
```

●Remote Out

スタート、ストップなどのデータの送信オン/オフ

◆初期値：OFF

ON	スタート(演奏開始)、ストップ、コンティニュースタート(一時停止からの演奏再開)、ソングポジション(曲中の位置)、ソングセレクト(選曲)、タイミングロックを送信する
OFF	上記のデータを送信しない

●Remote In

スタート、ストップなどのデータの受信オン/オフ

◆初期値：OFF

ON	スタート、ストップ、コンティニュースタート、ソングポジション、ソングセレクトを受信する
OFF	上記のデータを受信しない



●MIDIのシステムリアルタイムメッセージの送受信をオン/オフします(MIDIタイミングクロックの受信は行いません)。



●フロントパネルの操作で外部のシーケンサーなどをコントロールする場合は「Remote Out」をONにします。

●外部のシーケンサーなどの操作で本機をコントロールする場合は「Remote In」をONにします。

●TO HOST端子を使ったMIDIシステムについては、P130「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご覧ください。

Local 鍵盤と音源部を接続する／切り離す

※操作方法はP118をごらんください。

SEU このページで紹介している機能はサイレントアンサンブルユニットのみに内蔵しています。

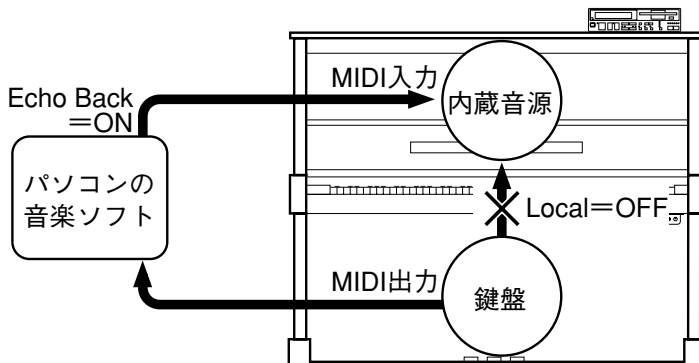


P118のメニュー画面でカーソルを「Local」に移し、セットボタンを押す

▶ Local = ON
Not Memorized!

－/NO、＋/YESボタンでLocal=OFF/ONを設定する

●Local=OFFの状態



Local=OFFでは鍵盤と内蔵音源が独立したMIDI機器のようになります。図の接続では、パソコンの音楽ソフト上のEcho Backなどの設定により、鍵盤を弾いて内蔵音源を発音させることも音楽ソフトからの内蔵音源のコントロールも可能です。



●本機の初期設定は「鍵盤を弾いて内蔵の音源をコントロールし音を出す」という状態になっており、この状態はLocal Control Onと呼ばれます。Local Control Offにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても内蔵している音源からは音が出なくなります。一方演奏情報はLocal Control OffでもMIDI出力されますので、「直接内蔵の音源は鳴らさず、MIDIで他の音源をコントロールしたい」時などは「Local=OFF」に設定します。



●TO HOST端子を使ったMIDIシステムの活用法はP130「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご覧ください。



●次回電源投入時には「Local=ON」になります。

オートセットアップ

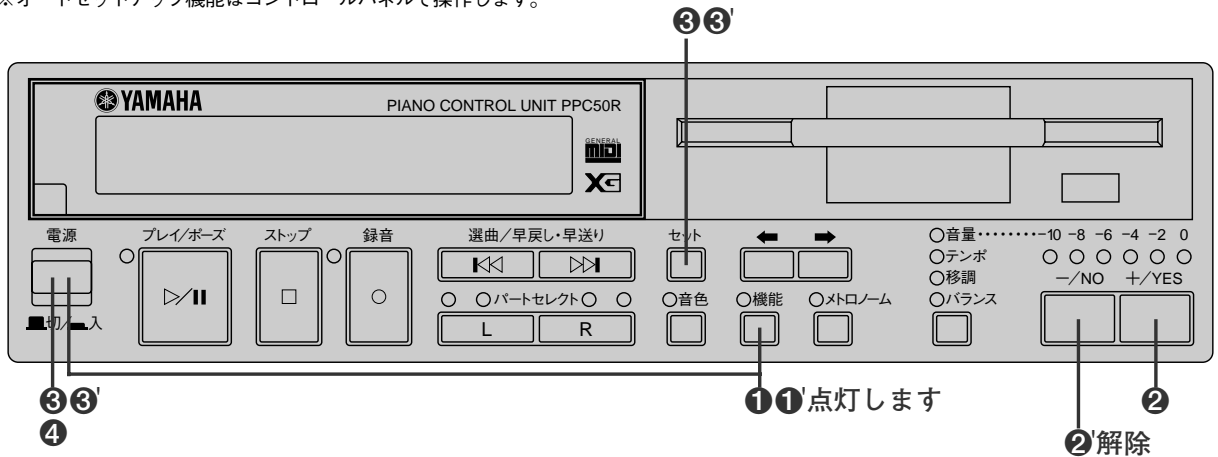
オートセットアップ機能のご紹介

プレイ/ポーズボタンやストップボタンを押さなくても、自動演奏がひとりでに始まり、ひとりでに鳴りやむ……音楽の流れるアメニティ空間づくりに役立つ、便利で楽しい機能です。リラクゼーションに、暮らしの中の時計代わりに、さまざまな用途でお役立てください。なお、機能の解除方法をあらかじめご確認の上で、お使いください。

電源を入れると自動的に演奏スタート (オートスタート付自動演奏)	オートスタート	P124
何分かおきに順番に自動演奏させる (スペースタイム付自動演奏)	スペースプレイ	P126

オートスタート 電源オンでひとりでに演奏が始まります

※オートセットアップ機能はコントロールパネルで操作します。



電源を切った状態から操作します

1

機能ボタンを押しながら、電源ボタンを押す

▶オート スタート =OFF (←, →, セット)
>スペース プレイ=OFF (−, +)

2

「▶オートプレイ」と表示されているのを確認し、
+/YESボタンで「ON」と表示させる

▶オート スタート =ON (←, →, セット)
>スペース プレイ=OFF (−, +)

3

電源を切れば、オートスタート設定完了
(今すぐオートスタートさせたい場合は、セットボタンを押すと自動演奏が始まります)

4

電源をオンすると自動演奏スタート(フロッピー内の曲をスタートさせる場合はフロッピーを入れておく、
入れていない場合はメモリディスク内の曲がスタートする)



- 電源オンとともに再生をスタートさせる機能です。全曲を演奏し終わると、自動的にストップします。
- フロッピーが入っていないとメモリディスク内の曲がオートスタートします。フロッピー内の曲を再生させる場合は、あらかじめフロッピーを入れておきます。電源ONの後フロッピーを挿入すると、フロッピー内の曲がオートスタートします。



- 「スペースプレイ」(P126)と組み合わせて活用できます。
- 他の機能は通常どおり使用できます。
- 市販のタイマーとの組み合わせで、使い方が広がります。



- オートスタートをやめるには、解除の操作が必要です。
- 音量・バランス等の設定はコントロールパネルの電源スイッチを切った時の設定が記憶されます。タイマーで電源を切った時の値は記憶されません。



オートプレイの解除方法 電源を切った状態から操作します

1 機能ボタンを押しながら、電源ボタンを押す

▶ オート スタート = ON (←, →, セット)
> スペーズ プレイ = OFF (−, +)

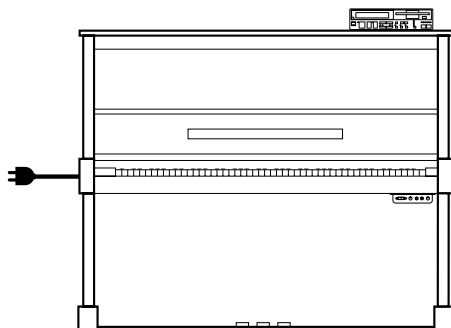
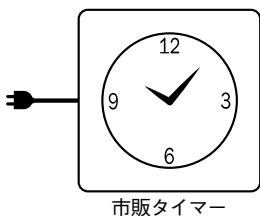
2 「▶ オート プレイ」と表示されているのを確認し、
−/NOボタンまたはダイヤルで「OFF」と表示させる

▶ オート スタート = OFF (←, →, セット)
> スペーズ プレイ = OFF (−, +)

3 セットボタンを押すか電源を切れば、オートスタート
解除

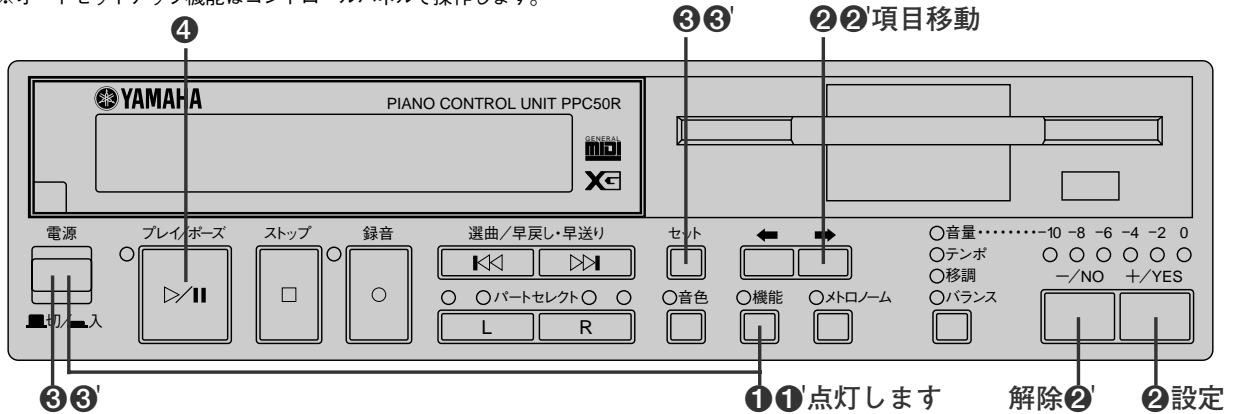
●市販のタイマーとの組合せ例

タイマーの設定時刻に自動的に再生をスタートします。 オートスタートをONに設定し、
電源もONにしておく



スペースプレイ 間隔をあけて1曲ずつ演奏させる

※オートセットアップ機能はコントロールパネルで操作します。



電源を切った状態から操作します

- 機能ボタンを押しながら、電源ボタンを押す

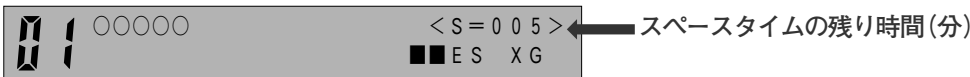
▶オート スタート =OFF (←, →, セット)
>スペースプレイ=OFF (-, +)

- カーソルボタン⇄を押して「▶スペースプレイ」と表示させ、-/NO、+/YESボタンでスペースタイムを設定する

>オート スタート =OFF (←, →, セット)
▶スペースプレイ=060min (-, +)

- セットボタンを押すか電源を切れば、スペースプレイ設定完了

- プレイ/ポーズボタンを押すとスペースプレイ開始



●プレイ/ポーズボタンを押すと、設定した間隔(=スペースタイム)において1、2、3曲目……と再生させる機能です。全曲を演奏し終わると、自動的にストップします。

●スペースタイムの設定範囲……001~300min(1分ステップ)、STOP(1曲だけ再生して停止)

※スペースタイムは、曲の開始から次の曲の開始までの時間です。したがって設定したスペースタイムよりも演奏時間の長い曲の場合は途中で切れ、次の曲の演奏が始まります。

※STOPは、選曲された曲の再生終了後、次の曲の再生に移行せずに停止させる機能です。

●通常の経過時間や小節/拍は表示されず、スペースタイムの残り時間が表示されます。



●「オートスタート」(P124参照)と組み合わせて活用できます。

●スペースプレイ中に、早戻し・早送り、ポーズ、ストップを行うと、スペースタイムは無視されます。ただし再生中にリモコンで選曲した場合は、次の曲からスペースプレイを再開します。その他の機能は通常どおり使用できます。



●スペースプレイをやめるには、解除の操作が必要です。



スペースプレイの解除方法
電源を切った状態から操作します

- 機能ボタンを押しながら、電源ボタンを押す

▶オート スタート =OFF (←, →, セット)
スペースプレイ=060min (-, +)

- カーソルボタン⇄を押して「▶スペースプレイ」と表示させ、-/NOボタンで「OFF」にする

>オート スタート =OFF (←, →, セット)
▶スペースプレイ=OFF (-, +)

- セットボタンを押すか電源を切れば、スペースプレイ解除

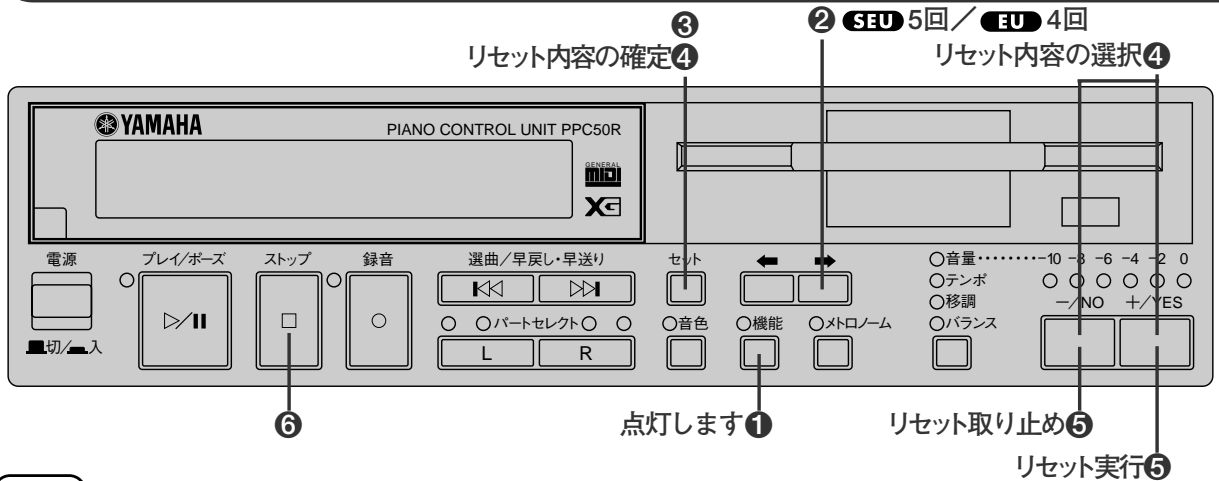
リセット

リセット機能のご紹介

リセット機能を使うと、メモリディスクの内容をクリアしたり、MIDIセットアップ、マスターチューン、メトロノームの設定などを工場出荷時の状態に戻すことができます。いったんこの機能を実行すると、メモリディスクの録音内容や各機能の設定は完全に失われますので、リセットの項目と各初期値を十分にご確認のうえで行ってください。

メモリディスク	P18
サイレント機能 SEU	P21
音色モード	P28
再生時の調節機能	P37~P39
リピート機能	P49~P52
ペダルキャンセル	P41
マスターチューン	P48
マスターバランス	P45
メトロノーム機能	P58
ペダルカウント	P42
MIDIセットアップ機能	P117~P122
オートセットアップ機能	P123~P126

リセット機能の使い方 メモリディスクの内容やMIDIセットアップなどの設定を、工場出荷



停止中に操作します

1 機能ボタンを押す

SEU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

EU

▶ ディスク *MIDI Setup →
*M-Tune

2 カーソルボタン⇔を**SEU**では5回、**EU**では4回押して「▶リセット」と表示させる

←*トラック ▶リセット
(←, →, セット)

3 セットボタンを押す

==リセット== (←, +, セット)
>メモリディスク+セットアップ*

4 -/NO、+/YESボタンでリセットする内容を選んでセットボタンを押す

==リセット== イイテ スカ?
メモリディスク+セットアップ* (YES, NO)

選択肢は次の3種類です。

- ・メモリディスク+セットアップ
- ・メモリディスク
- ・セットアップ

5 リセットする場合は+/YESボタンを押す、取り止める場合は-/NOボタンを押す

6 リセットした場合は、下の表示になったらストップボタンを押す

シュウリョウシマシタ
ナニカ ホタンヲ オシテクタサイ

※この後、曲名表示になります。

※リセットを取り止めた場合は、**6**の表示に戻ります。



- リセット機能は、メモリディスクの内容やさまざまな設定を工場出荷時の状態(初期値)に戻します。
- メモリディスクをリセットすると録音内容はすべて失われ、ディスクタイプはSMFタイプとなります。
- SEU** マークが付いている項目はサイレントアンサンブルユニットのみのものです。

[[セットアップ] に含まれる項目]

項 目	設定範囲	初期値		
サイレント	リバーブのタイプ	ルーム, ホール1, ホール2	ホール1 SEU	
	鍵盤動作	ON, OFF	ON SEU	
	発音数	32, 64	32 SEU	
音色モード	音色	001~128	001	
	音量	000~127	100	
	PianoTone	OFF, ON	OFF SEU	
再生	音量	-10~0	0	
	テンポ	-50~+20	0	
	移調	-24~+24	0	
	リピート	ALL, RPT, RND, A-B	OFF	
	ペダルキャンセル	OFF, ON	ON	
マスターチューン	TG Master Tune	-50~+50	00	
マスターバランス	TG Master Balance	10~127	100	
メトロノーム	クリック	OFF, ON	ON	
	テンポ	30~400	117	
	拍子	1/4~9/4	4/4	
	音量	50~127	100 SEU	
ペダルカウント	OFF, ON	OFF	OFF	
MIDIセットアップ	Piano Rcv Ch	##, 1~16, 1+2, Prg, HP, Prg(All)	1	
	Delay In	ON, OFF	ON	
	Import File L		##, 1~16, Prg, Prg(All)	1
		R	##, 1~16, Prg, Prg(All)	##
	Piano Part ESBL Out	OFF, ON	OFF	
	MIDI Out	ESBL Out, KBD Out, Thru Port2	KBD Out	
	Out Ch	OFF, 1~16, HP	1	
	Split	OFF, B-1~C7	OFF	
	Trans L		-60~+60	0
		R	-60~+60	0
	Remote Out	OFF, ON	OFF	
	Remote In	OFF, ON	OFF	
	Local	OFF, ON	ON SEU	
オートセットアップ	オートスタート	OFF, ON	OFF	
	スペースプレイ	OFF, 1~300, STOP	OFF	

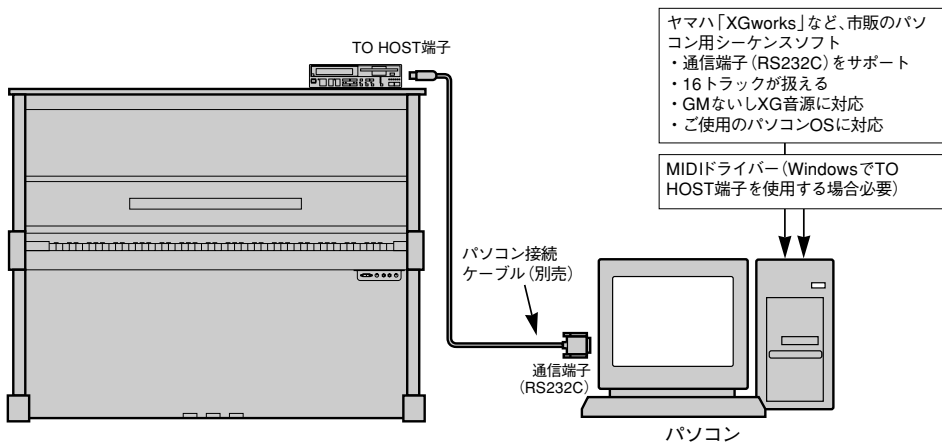


- いったんリセットを実行すると設定内容を元に戻すことはできません。メモリディスクに録音された曲の内容、セットアップに含まれる項目と初期値を十分にご確認の上で行ってください。
- メモリディスクをリセットする際は、フロッピーに曲をコピーしてから行うことをおすすめします。

TO HOST端子の活用と パソコン音楽ソフトとの連携

TO HOST端子の搭載により、本機とパソコンの通信端子をケーブル一本で接続して(パソコンの機種別のケーブルや接続方法についてはP136参照)、リズムパートの録音や、音符の編集、譜面印刷など、パソコン用の音楽ソフトが得意な機能を、ピアノ音楽に活用できます(市販のMIDIインターフェイスをお持ちなら、本機のMIDI端子と接続可能です)。

- ピアノ(●SEUではピアノ電子音源を含む)と内蔵電子音源を、パソコンのシーケンスソフト(録音/再生/編集などを行うソフト)でシーケンス・コントロールできます。
 - ・本機のTO HOST端子とパソコンの通信用端子を接続します。
 - ・本機のコントロールパネルの仕事をパソコンソフトに担当させる形です。本機は停止させ、録音はパソコンソフトで行います。
 - ・●SEUで本機の鍵盤を弾いて内蔵音源のパートを録音する場合は、サイレント状態で音色ボタンを押して「Voice=###」を選択することでLocal=OFFの設定が容易に行えます。この時「Piano Rcv Ch=##」とすれば「Delay In(500ms)=OFF」となり、全パートが内蔵音源で時間の遅れなく再生され、他のパートを聞きながらの録音で便利です。音色の設定はパソコンのシーケンスソフトで行います。
 - ・再生時は(オーバーダビングしている際も)、シーケンスソフトの各トラックのMIDI送信チャンネルが、本機の内蔵音源の各パート番号と一致していることを確かめます。
- 本機で作成した曲をパソコンのシーケンスソフトなどで活用できます。
 - ・ほとんどのシーケンスソフトは、スタンダードMIDIファイル(SMF)のフォーマット0という形式の曲を読み込んで活用することができます。本機で録音した曲をフロッピーに保存し、パソコンのハードディスクにコピーします。使用できるフロッピーは、本機でSMFタイプにフォーマットしたフロッピーです(自動的にSMFのフォーマット0で録音されます)。
 - ・シーケンスソフトで変更を加えた曲を再び本機で使用する際は、ソフト側でSMFのフォーマット0形式に書き出します。
 - ・パソコンソフトとの連携には、メトロノーム録音をおすすめします。
- パソコンソフトで作成した曲や一般のスタンダードMIDIファイルをサイレントアンサンブルピアノで活用できます。
 - ・本機は、SMFのフォーマット0形式の曲を直接読み書きできます(フォーマット1は再生のみ)。もし、シーケンスソフト固有の形式で保存されている曲の場合は、ソフト側でSMFのフォーマット0形式に書き出し、フロッピーに保存します。
 - ・また、市販のデータ集(フロッピーなど)やフリーソフトの曲も、SMFのフォーマット0であれば本機で利用できます。
- なお、Windows98/95でTO HOST端子を使用する場合には指定のMIDIドライバも必要です(P136参照)。
- 次のような機器やソフトなどが必要です。



[*参照ページ]

- ◆MIDIセットアップ機能……P118～P122
- ◆接続とケーブルについて……P136
- ◆MIDI Implementation Chart……P137
- ◆フォーマットについて……P19、P116

資料

内蔵音源の音色一覧表	P132
接続について(AUX端子、TO HOST端子)	P136
MIDI Implementation Chart	P137
仕様	P138

内蔵音源の音色一覧表

1. 基本音色

グループ	音色番号	音色名	備考
ピアノ	1	GrandPno	グランドピアノ
	2	BritePno	ブライトピアノ
	3	E.Grand	電気グランドピアノ
	4	HnkyTonk	ホンキートンクピアノ
	5	E.Piano1	エレクトロニックピアノ
	6	E.Piano2	
	7	Harpsi.	ハーブシコード
	8	Clavi.	クラビコード
鍵盤打楽器	9	Celesta	チェレスタ
	10	Glocken	グロッケンシュピール
	11	MusicBox	オルゴール
	12	Vibes	ビブラフォン
	13	Marimba	マリンバ
	14	Xylophon	木琴
	15	TubulBel	チューブラーベル
	16	Dulcimer	ダルシマー
オルガン	17	DrawOrgn	ドローバー・オルガン
	18	PercOrgn	パーカッシブ・オルガン
	19	RockOrgn	ロック・オルガン
	20	ChrchOrg	教会オルガン
	21	ReedOrgn	足踏みオルガン
	22	Acordion	アコーディオン
	23	Harmnica	ハーモニカ
	24	TangoAcd	タンゴ・アコーディオン
ギター	25	NylonGtr	生ギター(ナイロン弦)
	26	SteelGtr	生ギター(金属弦)
	27	Jazz Gtr	エレキギター(ジャズ)
	28	CleanGtr	エレキギター(クリーン)
	29	Mute.Gtr	エレキギター(ミュート)
	30	Ovrdrive	エレキギター(オーバードライブ)
	31	Dist.Gtr	エレキギター(ディストーション)
	32	GtrHarmo	ハーモニクス
ベースギター	33	Aco.Bass	ウッドベース
	34	FngrBass	エレキベース(フィンガー)
	35	PickBass	エレキベース(ピック)
	36	Fretless	エレキベース(フレットレス)
	37	SlapBas1	エレキベース(スラップ)
	38	SlapBas2	
	39	SynBass1	シンセベース
	40	SynBass2	
弦楽器	41	Violin	バイオリン
	42	Viola	ビオラ
	43	Cello	チェロ
	44	Contrabs	コントラバス
	45	Trem.Str	ストリングス(トレモロ)
	46	Pizz.Str	ストリングス(ピチカート)
	47	Harp	ハーブ
	48	Timpani	ティンパニ
アンサンブル	49	Strings1	弦楽アンサンブル
	50	Strings2	
	51	Syn.Str1	シンセ・ストリングス
	52	Syn.Str2	
	53	ChoirAah	合唱(Aah)
	54	VoiceOoh	合唱(Ooh)
	55	SynVoice	シンセ・ボイス
	56	Orch.Hit	オーケストラ・ヒット
金管楽器	57	Trumpet	トランペット
	58	Trombone	トロンボーン
	59	Tuba	チューバ
	60	Mute.Trp	ミュート・トランペット
	61	Fr.Horn	フレンチホルン
	62	BrasSect	ブラスセクション
	63	SynBras1	シンセブラス
	64	SynBras2	

グループ	音色番号	音色名	備考	
リード管楽器	65	SprnoSax	ソプラノ・サクソフォン	
	66	Alto Sax	アルト・サクソフォン	
	67	TenorSax	テナー・サクソフォン	
	68	Bari.Sax	バリトン・サクソフォン	
	69	Oboe	オーボエ	
	70	Eng.Horn	イングリッシュ・ホルン	
	71	Bassoon	バスーン(ファゴット)	
	72	Clarinet	クラリネット	
	エアリード管楽器	73	Piccolo	ピッコロ
		74	Flute	フルート
		75	Recorder	リコーダー
		76	PanFlute	パンフルート
77		Bottle	ボトルの口を吹く音	
78		Shakhchi	尺八	
79		Whistle	口笛	
80		Ocarina	オカリナ	
シンセリード	81	SquareLd	矩形波	
	82	Saw.Lead	鋸波	
	83	CaliopLd	カリオペ	
	84	Chiff Ld	chiff	
	85	CharanLd	chrang	
	86	Voice Ld	ボイス	
	87	Fifth Ld	五度	
	88	Bass&Ld	ベース+リード	
シンセパッド	89	NewAgePd	New Age	
	90	Warm Pad	Warm	
	91	PolySyPd	Poly Synth	
	92	ChoirPad	Choir	
	93	BowedPad	Bowed	
	94	MetalPad	Metallic	
	95	Halo Pad	Halo	
	96	SweepPad	Sweep	
シンセ効果音	97	Rain	Rain	
	98	SoundTrk	Sound Track	
	99	Crystal	Crystal	
	100	Atmosphr	Atomosphere	
	101	Bright	Brightness	
	102	Goblins	Goblins	
	103	Echoes	Echoes	
	104	Sci-Fi	Sci(ence)-Fi(ction)	
民族楽器	105	Sitar	シタール	
	106	Banjo	バンジョー	
	107	Shamisen	三味線	
	108	Koto	琴	
	109	Kalimba	カリンバ	
	110	Bagpipe	バグパイプ	
	111	Fiddle	フィドル	
	112	Shanai	シャーナーイ	
旋律打楽器	113	TnklBell	ベル	
	114	Agogo	アゴゴ	
	115	SteelDrm	スチールドラム	
	116	WoodBlok	ウッドブロック	
	117	TaikoDrm	和太鼓	
	118	MelodTom	メロディックタム	
	119	Syn.Drum	シンセドラム	
	120	RevCymbI	リバーシシンバル	
	効果音	121	FretNoiz	フレット・ノイズ
		122	BrthNoiz	ブレス・ノイズ
123		Seashore	波の音	
124		Tweet	鳥のさえずり	
125		Telephone	電話	
126		Helicptr	ヘリコプター	
127		Applause	拍手	
128		Gunshot	ガン・ショット	

2. ドラム音色 (リズムキット、SFXキット) 空欄…Standard Kitと同じ打楽器です。「—」…音は鳴りません。

音色番号	1	2	9	17	25	26	33	41	49	1	2
キット名	Standard Kit	Standard 2 Kit	Room Kit	Rock Kit	Electro Kit	Analog Kit	Jazz Kit	Brush Kit	Classic Kit	SFX Kit1	SFX Kit2
C#-1	Surdo Mute									_____	_____
D -1	Surdo Open									_____	_____
D#-1	Hi Q									_____	_____
E -1	Whip Slap									_____	_____
F -1	Scratch Push									_____	_____
F#-1	Scratch Pull									_____	_____
G -1	Finger Snap									_____	_____
G#-1	Click Noise									_____	_____
A -1	Metronome Click									_____	_____
A#-1	Metronome Bell									_____	_____
B -1	Seq Click L									_____	_____
C 0	Seq Click H									_____	_____
C#0	Brush Tap									_____	_____
D 0	Brush Swirl L									_____	_____
D#0	Brush Slap									_____	_____
E 0	Brush Swirl H				Reverse Cymbal	Reverse Cymbal				_____	_____
F 0	Snare Roll	Snare Roll 2								_____	_____
F#0	Castanet				Hi Q	Hi Q				_____	_____
G 0	Snare L	Snare L 2		SD Rock M	Snare M	SD Rock H		Brush Slap L		_____	_____
G#0	Sticks									_____	_____
A 0	Bass Drum L			Bass Drum M	Bass Drum H 4	Bass Drum M			Bass Drum L2	_____	_____
A#0	Open Rim Shot	Open Rim Shot 2								_____	_____
B 0	Bass Drum M	Bass Drum M 2		Bass Drum H 3	BD Rock	BD Analog L			Gran Cassa	_____	_____
C 1	Bass Drum H	Bass Drum H 2		BD Rock	BD Gate	BD Analog H	BD Jazz	BD Soft	Gran Cassa Mute	Guitar Cutting Noise	Dial Tone
C#1	Side Stick					Analog Side Stick				Guitar Cutting Noise 2	Door Creaking
D 1	Snare M	Snare M 2	SD Room L	SD Rock	SD Rock L	Analog Snare L		Brush Slap	Marching Sn M	_____	Door Slam
D#1	Hand Clap									String Slap	Scratch
E 1	Snare H	Snare H 2	SD Room H	SD Rock Rim	SD Rock H	Analog Snare H		Brush Tap	Marching Sn H	_____	Scratch 2
F 1	Floor Tom L		Room Tom 1	Rock Tom 1	E Tom 1	Analog Tom 1	Jazz Tom 1	Brush Tom 1	Jazz Tom 1	_____	Windchime
F#1	Hi-Hat Closed					Analog HH Closed 1				_____	Telephone Ring2
G 1	Floor Tom H		Room Tom 2	Rock Tom 2	E Tom 2	Analog Tom 2	Jazz Tom 2	Brush Tom 2	Jazz Tom 2	_____	_____
G#1	Hi-Hat Pedal					Analog HH Closed 2				_____	_____
A 1	Low Tom		Room Tom 3	Rock Tom 3	E Tom 3	Analog Tom 3	Jazz Tom 3	Brush Tom 3	Jazz Tom 3	_____	_____
A#1	Hi-Hat Open					Analog HH Open				_____	_____
B 1	Mid Tom L		Room Tom 4	Rock Tom 4	E Tom 4	Analog Tom 4	Jazz Tom 4	Brush Tom 4	Jazz Tom 4	_____	_____
C 2	Mid Tom H		Room Tom 5	Rock Tom 5	E Tom 5	Analog Tom 5	Jazz Tom 5	Brush Tom 5	Jazz Tom 5	_____	_____
C#2	Crash Cymbal 1					Analog Cymbal			Hand Cym. Open L	_____	_____
D 2	High Tom		Room Tom 6	Rock Tom 6	E Tom 6	Analog Tom 6	Jazz Tom 6	Brush Tom 6	Jazz Tom 6	_____	_____
D#2	Ride Cymbal 1								Hand Cym. Closed L	_____	_____
E 2	Chinese Cymbal								FL.Key Click	_____	Engine Start
F 2	Ride Cymbal Cup									_____	Tire Screech
F#2	Tambourine									_____	Car Passing
G 2	Splash Cymbal									_____	Crash
G#2	Cowbell					Analog Cowbell				_____	Siren
A 2	Crash Cymbal 2								Hand Cym. Open H	_____	Train
A#2	Vibraslap									_____	Jetplane
B 2	Ride Cymbal 2								Hand Cym. Closed H	_____	Starship
C 3	Bongo H									_____	Burst Noise
C#3	Bongo L									_____	Coaster
D 3	Conga H Mute					Analog Conga H				_____	SvMarine
D#3	Conga H Open					Analog Conga M				_____	_____
E 3	Conga L					Analog Conga L				_____	_____
F 3	Timbale H									_____	_____
F#3	Timbale L									_____	_____
G 3	Agogo H									_____	_____
G#3	Agogo L									_____	_____
A 3	Cabasa									Rain	Laughing
A#3	Maracas					Analog Maracas				Thunder	Screaming
B 3	Samba Whistle H									Wind	Punch
C 4	Samba Whistle L									Stream	Heartbeat
C#4	Guiro Short									Bubble	Footsteps
D 4	Guiro Long									Feed	_____
D#4	Claves					Analog Claves				_____	_____
E 4	Wood Block H									_____	_____
F 4	Wood Block L									_____	_____
F#4	Cuica Mute				Scratch Push	Scratch Push				_____	_____
G 4	Cuica Open				Scratch Pull	Scratch Pull				_____	_____
G#4	Triangle Mute									_____	_____
A 4	Triangle Open									_____	_____
A#4	Shaker									_____	_____
B 4	Jingle Bell									_____	_____
C 5	Bell Tree									Dog	Machine Gun
C#5	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	Horse Gallop	Laser Gun
D 5	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	Bird 2	Explosion
D#5	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	FireWork
E 5	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
F 5	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
F#5	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	Gorst	_____
G 5	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	Maou	_____

内蔵音源の音色一覧表(続き)

3. 基本音色[バンク番号=0]と拡張音色

グループ	音色番号	バンク番号	音色名	
Piano	1	0	GrandPno	
		1	GrndPnoK	
		18	MelloGrP	
		40	PianoStr	
		41	Dream	
	2	0	BritePno	
		1	BritPnoK	
	3	0	E.Grand	
		1	EIGrPnoK	
		32	Det.CP80	
		40	EIGrPno1	
		41	EIGrPno2	
	4	0	HnkyTonk	
		1	HnkyTnkK	
	5	0	E.Piano1	
		1	EI.Pno1K	
		18	MelloEP1	
		32	Chor.EP1	
		40	HardEI.P	
	6	0	E.Piano2	
		1	EI.Pno2K	
		32	Chor.EP2	
		33	DX Hard	
		34	DXLegend	
	7	0	Harpsi.	
		1	Harpsi.K	
		25	Harpsi.2	
		35	Harpsi.3	
		8	0	Clavi.
	1		Clavi. K	
	27		ClaviWah	
	64		PulseClv	
	65		PierceCl	
	Chromatic Percussion	9	0	Celesta
			10	Glocken
		11	0	MusicBox
			64	Orgel
			0	Vibes
		12	1	VibesK
			45	HardVibe
		13	0	Marimba
			1	MarimbaK
			64	SineMrmb
			97	Balafon2
		14	0	Xylophon
98			Log Drum	
15		0	TubulBel	
		96	ChrChBel	
	97	Carillon		
16	0	Dulcime		
	35	Dulcimr2		
	96	Cimbalom		
	97	Santur		
Organ	17	0	DrawOrgn	
		32	DetDrwOr	
		33	60sDrOr1	
		34	60sDrOr2	
		35	70sDrOr1	
		36	DrawOrg2	
		37	60sDrOr3	
		38	EvenBar	
		40	16+2"2/3	
		64	Organ Ba	
		65	70sDrOr2	
		66	CheezOrg	
		67	DrawOrg3	
	18	0	PercOrgn	
		24	70sPcOr1	
		32	DetPrcOr	
		33	LiteOrg	
		37	PercOrg2	
	19	0	RockOrgn	
		64	RotaryOr	
65		SloRotar		
66		FstRotar		
0		ChrChOrg		
20	32	ChurOrg3		
	35	ChurOrg2		
	40	NotreDam		
	64	OrgFlute		

Guitar	21	0	TrmOrgFl
		0	ReedOrgn
		40	Puff Org
		0	Acordion
		32	AccordIt
	22	0	Harmnica
		32	Harmo 2
	23	0	TangoAcc
		64	TngoAcc2
	24	0	NylonGtr
		16	NylonGt2
		25	NylonGt3
		43	VelGtHrm
		96	Ukulele
		0	SteelGtr
16		SteelGt2	
35		12StrGtr	
40		Nyln&Stl	
41		Stl&Body	
25	96	Mandolin	
	0	Jazz Gtr	
	18	MelloGtr	
26	32	JazzAmp	
	0	CleanGtr	
	32	ChorusGt	
27	0	Mute.Gtr	
	40	FunkGtr1	
	41	MuteStlG	
	43	FunkGtr2	
	45	Jazz Man	
28	0	Ovrdrive	
	43	Gt.Pinch	
29	0	Dist.Gtr	
	40	FeedbkGt	
	41	FeedbGt2	
30	0	GtrHarmo	
	65	GtFeedbk	
31	66	GtrHrmo2	
	0	Aco.Bass	
32	40	JazzRthm	
	45	VXUprght	
	0	FngrBass	
	18	FngDrk	
	27	FlangeBa	
33	40	Ba&DstEG	
	43	FngSlap	
	45	FngBass2	
	65	ModAlem	
	0	PickBass	
34	28	MutePkBa	
	0	Fretless	
	32	Fretles2	
35	33	Fretles3	
	34	Fretles4	
	96	SynFretl	
	97	Smooth	
36	0	SlapBas1	
	27	ResoSlap	
37	32	PunchThm	
	0	SlapBas2	
38	43	VeloSlap	
	0	SynBass1	
39	18	SynBa1Dk	
	20	FastResB	
	24	AcidBass	
	35	Clv Bass	
	40	TeknoBa	
	64	Oscar	
	65	SqrBass	
	66	RubberBa	
	96	Hammer	
	0	SynBass2	
40	6	MelloSB1	
	12	Seq Bass	
	18	ClkSynBa	
	19	SynBa2Dk	
	32	SmthBa 2	
	40	ModulrBa	
	41	DX Bass	
	64	X WireBa	
41	0	Violin	
	8	SlowVln	
	0	Viola	
	0	Cello	
	0	Contrabs	
42	0	Trem.Str	
	8	SlowTrStr	
	40	Susp Str	

Ensemble	46	0	Pizz.Str
		0	Harp
		40	YangChin
		0	Timpani
		0	Strings1
	47	3	S.Strngs
		8	SlowStr
		24	ArcoStr
		35	60sStrng
		40	Orchestr
	48	41	Orchstr2
		42	TremOrch
		45	VeloStr
		0	Strings2
		3	S.SlwStr
49	8	LegatoSt	
	40	Warm Str	
	41	Kingdom	
	64	70s Str	
	65	Str Ens3	
50	0	Syn.Str1	
	27	ResoStr	
	64	Syn Str4	
	65	SS Str	
	0	Syn.Str2	
51	0	ChoirAah	
	3	S.Choir	
	16	Ch.Aahs2	
	32	MelChoir	
	40	ChoirStr	
52	0	VoiceOoh	
	0	SynVoice	
	40	SynVox2	
	41	Choral	
	64	AnaVoice	
53	0	Orch.Hit	
	35	OrchHit2	
	64	Impact	
	0	Trumpet	
	16	Trumpet2	
54	17	BriteTrp	
	32	WarmTrp	
	0	Trombone	
	18	Trmbone2	
	0	Tuba	
55	16	Tuba 2	
	0	Mute.Trp	
	0	Fr.Horn	
	6	FrHrSolo	
	32	FrHorn2	
56	37	HornOrch	
	0	BrasSect	
	35	Tp&TbSec	
	40	BrssSec2	
	41	HiBrass	
57	42	MelloBrs	
	0	SynBras1	
	12	QuackBr	
	20	RezSynBr	
	24	PolyBrss	
58	27	SynBras3	
	32	JumpBrss	
	45	AnaVelBr	
	64	AnaBrss1	
	0	SynBras2	
59	18	Soft Brs	
	40	SynBrss4	
	41	ChoirBrs	
	45	VelBrss2	
	64	AnaBrss2	
60	0	SprnoSax	
	0	Alto Sax	
	40	Sax Sect	
	43	HyprAlto	
	0	TenorSax	
61	40	BrthTnSx	
	41	SoftTenr	
	64	TnrSax 2	
	0	Bari.Sax	
	0	Oboe	
62	0	Eng.Horn	
	0	Bassoon	
	0	Clarinet	
	0	Piccolo	
	0	Flute	
63	0	Recorder	
	0	PanFlute	
	0	Bottle	

4. SFX音色

	78	0	Shakhchi	
	79	0	Whistle	
	80	0	Ocarina	
Synth Lead	81	0	SquareLd	
		6	Square 2	
		8	LMSquare	
		18	Hollow	
		19	Shmoog	
		64	Mellow	
		65	SoloSine	
		66	SineLead	
		82	0	Saw.Lead
			6	Saw 2
	8		ThickSaw	
	18		DynaSaw	
	19		DigiSaw	
	20		Big Lead	
	24		HeavySyn	
	25		WaspySyn	
	40		PulseSaw	
	41		Dr. Lead	
	45	VeloLead		
	96	Seq Ana		
	83	0	CaliopLd	
		65	Pure Pad	
	84	0	Chiff Ld	
		64	Rubby	
	85	0	CharanLd	
		64	DistLead	
		65	WireLead	
	86	0	Voice Ld	
		24	SynthAah	
		64	VoxLead	
	87	0	Fifth Ld	
		35	Big Five	
	88	0	Bass &Ld	
		16	Big&Low	
		64	Fat&Prky	
		65	SoftWurl	
	Synth Pad	89	0	NewAgePd
			64	Fantasy2
		90	0	Warm Pad
			16	ThickPad
17			Soft Pad	
18			SinePad	
64			Horn Pad	
65		RotarStr		
91		0	PolySyPd	
		64	PolyPd80	
		65	ClickPad	
		66	Ana Pad	
		67	SquarPad	
92		0	ChoirPad	
		64	Heaven2	
		66	ltopia	
67		CC Pad		
93		0	BowedPad	
		64	Glacier	
65		GlassPad		
94		0	MetalPad	
		64	Tine Pad	
		65	Pan Pad	
95		0	Halo Pad	
96		0	SweepPad	
		20	Shwimmer	
		27	Converge	
		64	PolarPad	
		66	Celstial	
Synth Effects		97	0	Rain
	45		ClaviPad	
	64		HrmoRain	
	65		AfronWnd	
	66		Caribbean	
	98	0	SoundTrk	
		27	Prologue	
		64	Ancestrl	
	99	0	Crystal	
		12	SynDrCmp	
		14	Popcorn	
		18	TinyBell	
		35	RndGlock	
		40	GlockChi	
		41	ClearBel	
		42	ChorBell	
		64	SynMalet	
		65	SftCryst	
		66	LoudGlok	
		67	XmasBell	

	68	VibeBell	
	69	DigiBell	
	70	AirBells	
	71	BellHarp	
	72	Gamelmba	
100	0	Atmosphr	
	18	WarmAtms	
	19	HollwRls	
	40	NylonEP	
	64	NylnHarp	
	65	Harp Vox	
	66	AtmosPad	
	67	Planet	
	101	0	Bright
		64	FantaBel
		96	Smokey
	102	0	Goblins
		64	GobSyn
		65	50sSciFi
		66	Ring Pad
		67	Ritual
		68	ToHeaven
		70	Night
		71	Glisten
		96	BelChoir
103		0	Echoes
	8	EchoPad2	
	14	Echo Pan	
	64	EchoBell	
	65	Big Pan	
	66	SynPiano	
	67	Creation	
	68	Stardust	
	69	Reso Pan	
	104	0	Sci-Fi
64		Starz	
0		Sitar	
32		DetSitar	
35	Sitar 2		
96	Tambra		
97	Tamboura		
106	0	Banjo	
	28	MuteBnjo	
	96	Rabab	
	97	Gopichnt	
	98	Oud	
	107	0	Shamisen
	108	0	Koto
96	T. Koto		
97	Kanoon		
109	0	Kalimba	
110	0	Bagpipe	
111	0	Fiddle	
112	0	Shanai	
	64	Shanai2	
	96	Pungi	
	97	Hichriki	
Percussive	113	0	TnklBell
	96	Bonang	
	97	Gender	
	98	Gamelan	
	99	S.Gamlan	
	100	Rama Cym	
	101	AsianBel	
	114	0	Agogo
	115	0	SteelDrm
		97	GlasPerc
98		ThaiBell	
116	0	WoodBlok	
	96	Castanet	
117	0	TaikoDrm	
		Gr.Cassa	
118	0	MelodTom	
	64	Mel Tom2	
	65	Real Tom	
	66	Rock Tom	
	0	Syn.Drum	
119	64	Ana Tom	
	65	ElecPerc	
	120	0	RevCymb1
Sound Effects	121	0	FretNoiz
	122	0	BrthNoiz
	123	0	Seashore
	124	0	Tweet
	125	0	Telephone
	126	0	Helicptr
	127	0	Applause
	128	0	Gunshot

音色番号	音色名
1	CuttngNz
2	CttngNz2
4	Str Slap
17	Fl.KClik
33	Rain
34	Thunder
35	Wind
36	Stream
37	Bubble
38	Feed
49	Dog
50	Horse
51	Bird 2
55	Ghost
56	Maou
65	Tel.Dial
66	DoorSqek
67	Door Slam
68	Scratch
69	Scratch 2
70	WindChm
71	Telphon2
81	CarEngin
82	Car Stop
83	Car Pass
84	CarCrash
85	Siren
86	Train
87	Jetplane
88	Starship
89	Burst
90	Coaster
91	SbMarine
97	Laughing
98	Scream
99	Punch
100	Heart
101	FootStep
113	MchinGun
114	LaserGun
115	Xplosion
116	FireWork

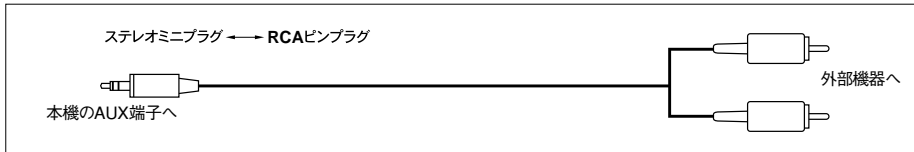
接続について(AUX端子、TO HOST端子)

補助出力・入力端子(AUX OUT、AUX IN)端子と外部機器との接続

- ピアノ電子音源(●SEU)、内蔵電子音源を外部スピーカーで聴いたり録音するためには、本機のAUX OUT端子とオーディオ装置やアンプ内蔵スピーカー、カセットデッキ等の音声入力端子を付属のオーディオケーブルで接続します。
- 外部電子音源、CDプレーヤ、カセットデッキなどの出力をピアノ

電子音源(●SEU)、内蔵電子音源とともに聴くためには、外部機器の音声出力端子と本機のAUX IN端子を付属のオーディオケーブルで接続します。音量調節はそれらの機器で行ってください。

※外部機器の音声出力端子がステレオミニジャックの場合、市販のステレオミニ↔ステレオミニのケーブルをご使用ください。



! 接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。

TO HOST端子とパソコンの接続

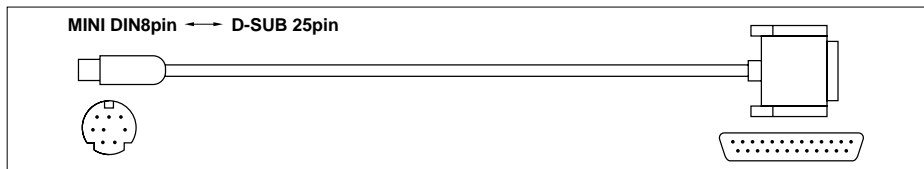
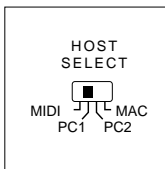
ホストセレクト・スイッチの設定とケーブル

- ホストセレクトスイッチの切り換えやパソコンとの接続ケーブルの抜き差しは、必ず電源オフの状態で行ってください。
- アプリケーションソフトがRS-232Cをサポートしている必要があります。

NEC PC-9801、9821シリーズとの接続

- ホストセレクト・スイッチ=PC1
- ケーブル=ミニDIN 8ピン↔D-SUB 25ピン(ヤマハCCJ-PC1または同等品)

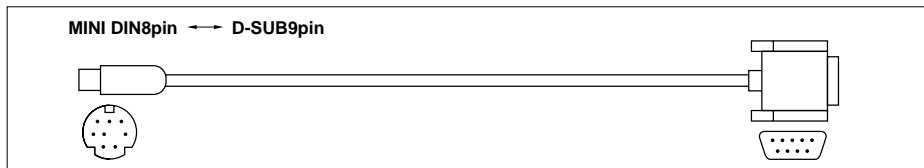
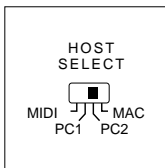
*アプリケーションソフトによっては、ホストセレクト・スイッチをPC2にセットしないと動作しない場合があります。



IBM PC/ATおよびその互換機との接続

- ホストセレクト・スイッチ=PC2
- ケーブル=ミニDIN 8ピン↔D-SUB 9ピン(ヤマハCCJ-PC2または同等品)

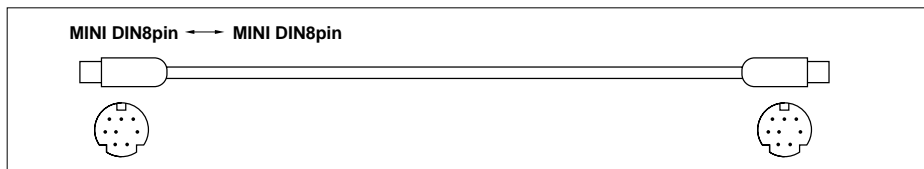
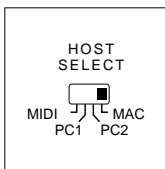
*パソコン側がD-SUB 25ピンの場合、NEC PC-98シリーズ用と同じミニDIN 8ピン↔D-SUB 25ピンのケーブルとオス↔メス変換プラグアダプターをご使用ください。



アップルMacintosh、Power Macintoshシリーズ

- ホストセレクト・スイッチ=MAC
- ケーブル=ミニDIN 8ピン↔ミニDIN 8ピン(アップル社システムペリフェラル-8ケーブル、ヤマハCCJ-MACまたは同等品)

*アプリケーションソフト側でMIDIインターフェイスのクロックを1MHzに設定してください。



Windowsで、コンピュータのシリアルポートと本機のTO HOST端子を接続してデータのやりとりをするためには、指定のMIDIドライバが必要です。インターネットのヤマハホームページやNIFTY-Serveにアクセスして下さい。

インターネット=<http://www.yamaha.co.jp/xg/>

NIFTY-Serve=FMIDIVA(MIDI Vendors Forum) →4:データライブラリ→8:FromヤマハデジタルCBX

*NEC、PC-9800は日本電気株式会社の、IBM、IBM PC/ATは米国IBM社の、Apple、Macintoshは米国アップルコンピュータ社の、Windowsは米国マイクロソフト社の、商標または登録商標です。

MIDI Implementation Chart

YAMAHA SILENT ENSEMBLE UNIT
ENSEMBLE UNIT
Model: PPC50R

MIDI Implementation Chart

Date: 00-000.-1999
Version: 1.00

Function...	Transmitted	Recognized	Remarks	
Basic Channel	Default Changed	1-16 1-16	1-16 1-16	Memorized
Mode	Default Messages Altered	3 × *****	3 3, 4(m=1) *2, *3 ×	
Note Number:	True Voice	0-127 *****	0-127 0-127	
Velocity	Note ON Note OFF	○ 9nH, v=1-127 × 9nH, v=0	○ v=1-127 ○	
After Touch	Key's Ch's	× ×	○ *1, *2 ○ *1, *2	
Pitch Bend		×	○ 0-24 semi *1, *2	
Control Change		○ ○ × × ○ *4 ○ × × × ○ ○ × ○ ○	○ *1, *2 ○ *1 ○ *1, *2 ○ *2 ○ *1 ○ *2 ○ *2 ○ *2 ○ *2 ○ *1, *2 ○ *2 ○ *2 ○ *1, *2 ○ *2	Bank Select Data Entry Hold 1(Sustain) Portamento Sostenuto Soft(Shift) Pedal Effect Depth All Sound Off Reset All Cntrls
Prog Change : True #		○ 0-127 *****	○ 0-127 *2	
System Exclusive		○	○	
: Song Pos Common : Song Sel : Tune		○ *1 ○ *1 ×	○ *1 ○ *1 ×	
System : Clock Real Time : Commands		○ *1 ○	× ○ *1	
Aux : Local ON/OFF : All Notes OFF Mes- : Active Sense sges : Reset		× ○ (123) ○ ×	○ (SEU)/ × (EU) ○ (123-127) ○ ×	
<p>Notes *1=Received(transmitted) if switch is on. *2=Only "ESBL Part" can recognize. *3=m is always treated as "1" regardless of its value. *4=Transmit if this model has a Sostenuto Pedal.</p>				

Mode 1: OMNI ON. POLY
Mode 3: OMNI OFF. POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO
Mode 4: OMNI OFF, MONO

○ : Yes
× : No

	サイレントアンサンブルユニット	アンサンブルユニット
センサーユニット	●アクション、キー部:非接触方式連続検出キーセンサー、88鍵対応、ソフトペダルON/OFF ●ペダル部:ダンパーペダル(ハーフペダル情報検出) ●ダンパーペダルON/OFF	
ドライブユニット	●キー部:ソレノイド駆動(同時16鍵駆動) ●ペダル部:ダンパーペダル(ON/OFF) <ペダル内部駆動>	
記憶媒体	●記憶媒体:3.5インチフロッピーディスク(2DDディスク/2HDディスク) ●内蔵メモリディスク:1Mバイトフラッシュメモリ ●シーケンスファイルフォーマット:SMF(スタンダードMIDIファイル)フォーマット0=録音、再生 SMF(スタンダードMIDIファイル)フォーマット1=再生のみ/E-Seq=録音、再生	
再生機能	●プレイ/ポーズ、ストップ、選曲、早送り、早戻し●音量調節:-10~0●ミュート機能:-10~-7 ●テンポ調節:-50~+20%●移調機能:-24~+24キー ●ペダルキャンセル(ピアノ再生パート):ON/OFF ●バランス(内蔵音源とピアノの音量バランス):10~127●パートキャンセル:L/R ●リピート:全曲、1曲、A-B、ランダム(リモコン使用時)●ダイレクト選曲(リモコン使用時) ●ダイレクトサーチ(リモコン使用時)●オートプレイ:オートスタート/スペースプレイ ●鍵盤動作キャンセル(サイレント時)	
録音機能	●16トラックマルチレコーダー●ピアノトラック録音●L/Rパート録音●L/Rスプリット録音 ●アンサンブルパート録音●ドラムパート録音●再録音●オーバーダブ録音●クオンタイズ録音 ●フリーテンポ録音/メトロノーム録音●録音テンポ変更●MDR(MIDI)録音	
トラック機能	●ミックス●移動●コピー●消去●移調	
ディスク機能	●ディスク:フォーマット、コピー、ディスク変換 ●ソング:コピー、消去、並び替え、時間/小節切り替え、曲フォーマット変換	
メトロノーム機能	●テンポ:30~400b.p.m.●拍子:1/4~9/4	
消音機能	●方式:ハンマーシャンクストッパー方式	
ピアノ音源	●音源方式:AWM2音源 ●最大同時発音数:ステレオサンプリング32音/ステレオ64音切替 ●ピッチコントロール:-50~+50セント ●リバーブ:ルーム、ホール1/2	
アンサンブル音源	●音源方式:AWM2音源●最大同時発音数:32音●パート数:16パート ●音色配列フォーマット:XG、GM ●音色数:ノーマルボイス676(パネル選択480ボイス)、ドラムキット21セット(パネル選択11セット)	
他の機能	●音色機能●MIDIセットアップ●リセット	
接続端子	●TO HOST(シリアルポート)●HOSTセレクトスイッチ(MIDI/PC1/PC2/MAC) ●TO CONTROL CABLE FOR PIANO●MIDI IN-OUT	
スイッチボックス	●主電源スイッチ●ボリュームつまみ ●ヘッドフォン端子(標準ステレオ)×2 ●リバーブ深さつまみ ●AUX IN-OUT(ステレオミニ)	●主電源スイッチ ●AUX OUT
付属品	リモコン、リモコン用電池、オーディオケーブル、 試聴用ソフト、ブランクディスク、取扱説明書 ステレオヘッドフォン	
コントロールユニット 寸法・重量	高さ64mm×幅227mm×奥行180mm・1.6kg	
電源電圧	AC100V ±10% 50/60Hz	
定格消費電力	140W	
使用温度	5~40℃	

よりよくご利用いただくために

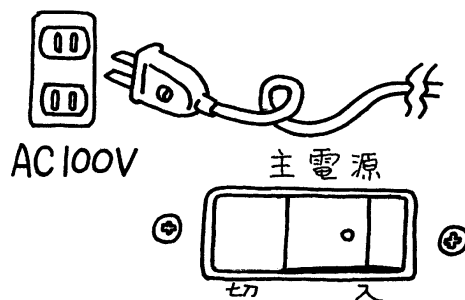
取り扱いについて	P140
エラーメッセージについて	P141
まずお調べください	P142
索引	P144
保証とサービスについて	P146

取り扱いについて

●電源について

必ずAC100V(50Hzまたは60Hz)のコンセントに接続してください。AC100V以外のコンセントには接続しないでください(本機は日本国内仕様です)。

長期間ご使用にならない時は、主電源スイッチを「切」にした後、電源プラグをコンセントから抜いてください。



●本機とリモコン

本機やリモコンに無理な力を加えないでください。

本機の上に物を置かないでください。

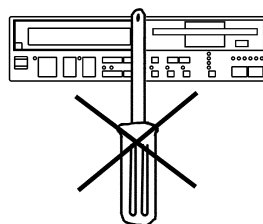
スイッチ、ボタンなどを無理やり押ししたりしないでください。

ピアノの上にじかに本機を置くと、ゴム足の痕が付く場合があります。ピアノの上に置く場合は、ヤマハピアノカバーをご使用ください。

本機を開けて内部に触れると、故障や感電事故を起こすことがあります。ユニット内に物が入ってしまった時などは、まず電源アダプターを抜き、販売店にご連絡ください。



開けない

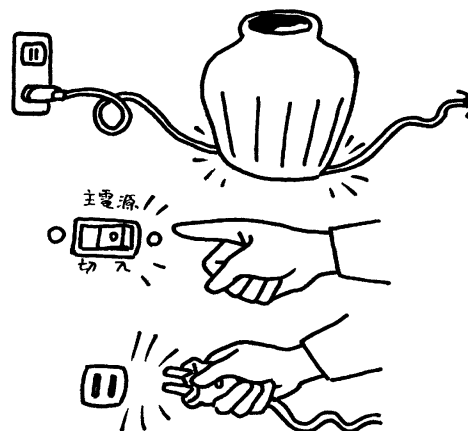


●コード類について

コード類の上に物を置いたりしないでください。

コード類を抜き差しする時は、必ず電源を切ってから行ってください。

コード類を抜く時は、断線やショートを防ぐため、必ずプラグを持って行ってください。



エラーメッセージについて

本機は、不適当な操作を行おうとした場合などに、ディスプレイに警告やエラーを意味するメッセージを表示することがあります。メッセージの内容をご確認のうえ、適切な処置を施してください。

コノキョクハ トリナオシテ キマセン キョクニ フ° ロテクトカ° カカッテイマス▶ 市販のピアノソフトには再録音できません。
シ° ッコウテ° キマセン キョクニ フ° ロテクトカ° カカッテイマス▶ 市販のピアノソフトで実行できない機能です。
コノテ° イスクニハ コレイシ° ヨウ キロク テ° キマセン▶ ディスクの残量がありません。別のディスクに記録してください。
テ° イスクニ プ° ロテクトカ° カカッテイマス▶ フロッピーに書き込むためにはライトプロテクトタブをオフにしてください。(P17参照)
テ° イスクノ アキスハ° スカ° タリマセン▶ ディスクの残量が少ないため実行できません。残量の十分にあるフロッピーで行ってください。
ロクオン/サイセイ テ° キル キョクスウハ 60キョクマテ° テ° ス▶ E-SEQタイプのディスクでは60曲までしか記録できません。
ロクオン/サイセイ テ° キル キョクスウハ 99キョクマテ° テ° ス▶ SMFタイプのディスクでは99曲までしか記録できません。
キョクノ ファイルカ° アリマセン▶ 記録されている曲がない、または1曲だけなので実行できません。
コヒ° -サキノ テ° イスクカ° チカ° イマス▶ ディスクコピー等でコピー先のフロッピーと別のフロッピーを挿入すると表示されます。
テ° イスクカ° フォーマット サレテイマセン▶ フォーマットされていないディスクは使えません。使う前に必ずフォーマットしてください。(P62参照)
フォーマットノ タイプ° カ° チカ° イマス▶ コピー元と同じフォーマットのディスクを挿入してください。
ロクオン トラックヲ エランテ° クダサイ▶ 録音するトラックを選んで録音を始めて下さい。
E-SEQ ファイルシカ コヒ° - テ° キマセン▶ E-SEQタイプのディスクではE-SEQ曲しか記録できません。
ERROR OCCURRED! (PUSH STOP KEY!)▶ ストップボタンを押してエラー表示を解除してください。フロッピーの不良の疑いがあります。フロッピーを交換しても頻繁に発生するようなら、販売店またはヤマハサービス窓口にご連絡下さい。

まずお調べください

本機をご使用中、正常に動作しない時は、下記の次項をご確認ください。その上で正常に動作しなかったり、下記以外でも異常が認められた場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店または最寄りのヤマハまでご連絡ください。

電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。 ●接続コードをピアノ本体に確実に差し込んでください ●主電源スイッチを「入」にしてください。
録音できない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグが確実に差し込んであるか確認してください。 ●フォーマット済のフロッピーをいれてから操作します。 ●消去防止(P17参照)をオフにしてください。 ●残量が少ない場合はフロッピーを交換してください。 <p>※「エラーメッセージについて」(P141参照)</p>
タイトル入力した文字が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> ●演奏を録音しないと曲は保存されないで、タイトル入力だけを行っても入力した文字は保存されません。タイトル入力後、録音を行ってください。いったん曲を保存すれば、再録音時にタイトル入力だけを行ってもタイトルは更新されます。
再生できない	<ul style="list-style-type: none"> ●電源プラグが確実に差し込んであるか確認してください。 ●消去した曲は再生できません。 ●録音途中でフロッピーを取り出したり、電源を切ったりした曲は、録音されていません。再録音してください。 <p>※「エラーメッセージについて」(P141参照)</p>
再生時の調節ができない	<ul style="list-style-type: none"> ●リモコンはコントロールパネルに向けて操作してください。 ●セレクトボタンを何回か押して、音量・テンポ・移調・バランスの各ランプを点灯させてから、－/NOボタン、＋/YESボタンで操作します。
何度も繰り返して再生されてしまう	<ul style="list-style-type: none"> ●リピート機能が働いていると、繰り返し演奏されます。リピート機能を解除してください。
リピート機能が思いどおりの表示にならない	<ul style="list-style-type: none"> ●リピート機能を解除しても、A-Bリピートやリターン&ストップのA点・B点は記憶されています。P52、P53のPointを参照して、A点・B点をクリアしてください。
録音した時と違う音量・音程・テンポで再生される	<ul style="list-style-type: none"> ●再生時の調節機能が働いています。音量・移調・テンポをオリジナルの状態に戻すには、セレクトボタンを何回か押して各ランプを点灯させ、－/NOボタン、＋/YESボタンを同時に押してください。
再生時に音抜けする	<ul style="list-style-type: none"> ●三連符、トリルなどの速いパッセージで、鍵盤が元の位置に戻らないうちに次の打鍵が始まる曲は、再生時に音抜けすることがあります。テンポの設定を遅くし、音量を上げてみてください。 ●録音時の演奏が弱過ぎると、正しく再生できない場合があります。確実に演奏して再録音してください。

再生時にピアノから接触音が聞こえる	●駆動部が鍵盤後方下部を突き上げるしくみなので、再生時に音量を下げすぎると接触音が聞こえる場合があります。
録音した時と違うアクセントで再生される	●録音時の演奏が弱過ぎると、正しく再生できない場合があります。確実に演奏して再録音してください。
鍵盤が不揃いになる	●ミュートモード（ボリュームが-7~-10）の時は、ソフトペダルの機能を拡張して、ハンマーを弦に近づけています。そのため鍵盤が不揃いになることがあります。
ピアノのタッチが軽い	●自動演奏ミュートモードでは鍵盤タッチが軽くなり、ピアノ演奏には適しません。ボリュームを下げてミュートを解除してください。
SEU サイレント切替えの時に モーター音がすることがある	●ボリュームが下がってミュートになっている時にサイレントモードにすると、ミュートが解除されます。この時、モーター動作音がします。また、サイレントを解除するとミュートモードに入り、モーターが作動します。
ピアノパートに比べて アンサンブルパートの音量 が小さすぎる	●マスターバランスを設定し直してください（P45参照）。ピアノパートの音量とアンサンブルパートの音量のバランスをとることができます。
ピアノパートを鍵盤が 自動演奏しない (違うパートを演奏してしまう)	●ピアノパートを演奏したいトラックを正しく指定してください（「ピアノパートセレクト」P46参照）。 ●本機やサイレントアンサンブルピアノ、EMR1以外の機種で記録されたフロッピーを本機で再生している場合には、「インポートファイル機能」（P119参照）でピアノを発音させるチャンネルを指定してください。

索引

ア

アンサンブル	アンサンブル曲	43
	アンサンブル曲の再生	44
	アンサンブルパート	43
	アンサンブルパート音色変更	47
	アンサンブルパートの録音	76
	ピアノパートセレクト	46
	マスターバランス	45
	リズムトラックの録音	80
一時停止 (ポーズ)		33
移調	移調調節	38
	移調ボタン (リモコン)	14
	移調ランプ	11
一曲リピート		50
英数モード		68
エラーメッセージ		141
オートスタート		124
オーディオケーブル		136
オーバーダビング		82
大文字/小文字切り換え		69
音色	アンサンブルパート音色表示	47
	音色一覧表	132-135
	音色設定画面	47
	音色番号	132-135
	音色ボタン	10
	音色モード	28
音量	音量調節	37
	音量ボタン (リモコン)	14
	音量ランプ	11
	音量レベル表示	37
	マスターバランス	45

カ

カーソルボタン		10
カウンター変更		112
カサネドリ (オーバーダビング)		82
カナ数モード		68
機能ボタン		10
曲	曲コピー	104
	曲消去	102
	曲並び替え	106
	曲のフォーマット	110
	曲名入力	68
クォンタイズ		82
鍵盤	鍵盤動作のキャンセル	24
	鍵盤と音名	75
コピー	曲コピー	104, 19
	ディスクコピー	108
コントロールパネル		10-11

サ

サーチ機能	サーチボタン (リモコン)	14
	ダイレクトサーチ	55
	ダイレクト選曲	54
再生	アンサンブル曲の再生	44
	再生時の調節機能	37-39
	再生のしかた	32
最大同時発音数		25
サイレント機能		21

再録音		66
サウンド早戻し・早送り		36
時間録音		70
主電源スイッチ		8, 9
消音演奏		22
消音ペダル		22
消去	曲消去	102
	消去防止	17
	全曲の消去 (フォーマット)	62
スイッチボックス		8
スタンダードMIDIファイル		19, 116
ストップボタン		10, 14
スプリットポイント		75
スペースプレイ		126
セットボタン		10
セレクトボタン		11
選曲	選曲	34
	選曲/早戻し・早送りボタン	10
	選曲ボタン (リモコン)	14
	ダイレクト選曲	54
全曲リピート		49
セント		48
ソフト		26
ソフトペダル		69

タ

タイトル入力		68
ダイレクトサーチ		55
ダイレクト選曲		54
ダンパーペダル		85
チャンネル		79
停止 (ストップ)		33
ディスク	ディスク機能	101-115
	ディスクコピー	108
	ディスク残量表示	64
	ディスク挿入口、取り出しボタン	11
	ディスクタイトル	68
	ディスクタイプ	114
	ディスクのタイプ表示	32
	フロッピー	16, 18, 100
	メモリディスク	18, 100
ディスプレイ		10
テンキー (リモコン)		14
電源ボタン		10
テンポ	テンポ調節	39
	テンポボタン (リモコン)	14
	テンポランプ	11
	録音テンポ変更	86
トラック	トラック	79, 89
	トラック機能	89-99
	録音トラック番号	76
ドラムキット		30, 80, 133
ナ		
内蔵電子音源	音色一覧表	132-135
	音源の紹介	30
	音色モード	27
	仕様	138
	マスターチューン	48
	マスターバランス	45

ハ

パート		70
パートキャンセル		40
パートセレクトボタン		10
パソコンとの接続		130, 136
早戻し・早送り		35
早戻し・早送りボタン		10, 14
バランスランプ		11
ピアノ電子音、ピアノ電子音源		22
ピアノパートセット		78
ピアノパートセレクト		46
ピアノモニター (LRセットアップ)		74
ファイル名		111
フォーマット	曲の～、ディスクの～	19, 116
	フォーマット0、フォーマット1	19
	フォーマット機能	62
プレイ/ポーズボタン		10
プレイボタン(リモコン)		14
フロッピー		16, 18, 100
プロテクト		17
ペダル	消音ペダル	22
	ソフトペダル	69
	ダンパーペダル	85
	ペダルカウント再生	42
	ペダルカウント録音	84
	ペダルキャンセル	41
	ペダルロックオン	74
	LRセットアップ	74
ヘッドフォン端子		8
ポーズ(一時停止)		33
ポーズボタン(リモコン)		14
ホール1、2		23
補助入出力端子(AUX IN、OUT)		8-9
ホストセレクトスイッチ		12, 136
ボリュームつまみ		8

マ

マスターチューン		48
マスターバランス		45
ミュート		37
メトロノーム	メトロノーム音量調節	58
	メトロノーム機能	58-59
	メトロノームボタン	11
	メトロノーム録音	70
メモリディスク		18
モード切り換え(タイトル入力)		68

ラ

ライトプロテクトタブ		16
ランダムリピート		51
リズムパート、リズムトラック		79, 80
リセット機能		127-129
リターン&ストップ		53
リバーブ		23
リピート	一曲リピート	50
	全曲リピート	49
	ランダムリピート	51
	リピートボタン(リモコン)	14
	A-Bリピート	52
リモコン	各部の名称	14
	電池交換	15
	リモコン受光部	15
ルーム		23

録音	アンサンブルパートの録音	76
	基本的な録音のながれ	64
	再録音	66
	時間録音	70
	タイトル入力	68
	メトロノーム録音	70
	リズムトラックの録音	80
	録音タイプ	112
	録音テンポ変更	86
	録音ボタン	10, 14

英数字

—/NO、+/YESボタン		11
0ボタン(リモコン)		14
2DD、2HD		16
A(リターン&ストップ)		53
A-Bボタン(リモコン)		14
A-Bリピート		52
ALL(全曲リピート)		49
AUX IN、AUX OUT(補助入出力端子)		8-9
Delay In		119
DSK		65
E-SEQ曲、E-SEQタイプ		19, 114, 116
ESBL Out		119
HP		119
Import File		119
KBD Out		120
Lボタン(パートセレクト)		10, 14
Local、Local Control		122
LR	LRスプリット録音	75
	LRセットアップ	74
	LR対応ソフト	26
	LR録音	60, 72
MAC		120, 136
MIDI	MIDIインプリメンテーションチャート	137
	MIDIセットアップメニュー	118
	MIDI端子	13
	MIDIチャンネル	79
	MIDIドライバ	130, 136
	MIDI Out	120
MDR機能		87
OFF(リピート解除)		49-53
Out Ch		120
PC1、PC2		120, 136
Piano Rcv Ch		119
PianoPartESBL Out		119
PianoTone		29
Prg、Prg(All)		120
Rボタン(パートセレクト)		10, 14
Remote In、Remote Out		120
RND(ランダムリピート)		51
RPT(一曲リピート)		50
S0、S1		19
SMF曲、SMFタイプ		19, 114, 116
Split		120
Thru Port2		120
TO HOST		120
TO HOST端子		12, 130, 136
Trans		120
Voice(音色)		28
Vol(音量)		120

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記入されたご購入の日付から1ヶ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りの時は、お客さまのご住所、お名前、お買上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効となりますので、くれぐれもご注意ください（保証書はピアノ本体と共通です）。

●保証書は大切に保管しましょう。

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、保証規定に則りご購入の日から向こう1ヶ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種別の判別やサービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整致します。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。またお買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続き致します。

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

※付属のヘッドフォン保証規定については、添付のヘッドフォン保証書をご覧ください。

サイレントアンサンブルユニット/アンサンブルユニットについてのお問い合わせは、もよりのヤマハピアノ特約店/下記のヤマハへ。

ヤマハ株式会社

北海道支店	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50(ヤマハセンター内)	TEL.011-512-6114
北海道サービスセンター	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1丁目1-50(ヤマハセンター内)	TEL.011-512-6108
仙台支店	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10住友生命青葉通りビル	TEL.022-222-6144
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7(仙台卸商共同配送センター3F)	TEL.022-236-0249
東京支店	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11	TEL.03-5488-5442
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL.044-434-3100
名古屋支店	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL.052-201-5145
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2(ヤマハ(株)名古屋流通センター3F)	TEL.052-652-2230
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200(ヤマハ(株)和田工場内)	TEL.053-465-6711
大阪支店	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9心斎橋プラザ東館	TEL.06-6252-7541
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16(ヤマハ(株)千里丘センター内)	TEL.06-6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7(株)ヤマハミュージック神戸高松店内	TEL.087-822-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL.082-874-3787
九州支店	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL.092-472-2152
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL.092-472-2134
本社/カスタマーサービス部	〒435-0016	浜松市和田町200(ヤマハ(株)和田工場内)	TEL.053-465-1158
本社/ピアノ事業部 国内営業部	〒430-8650	浜松市中沢町10-1	TEL.053-460-2181

ピアノ・インフォメーションセンター 営業時間：月～金、10:00～12:00/13:00～17:00
フリーダイヤル 0120-084808

ヤマハピアノサービス株式会社

横浜センター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184(ヤマハ日吉センター内)	TEL.044-433-3723
名古屋センター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2(ヤマハ流通センター内)	TEL.052-652-6687
大阪センター			
吹田工房	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16(ヤマハ千里丘センター内)	TEL.06-6878-9037
明石工房	〒674-0092	明石市二見町東二見265-1	TEL.078-942-0889
本社	〒430-8650	浜松市中沢町10-1	TEL.053-460-1631

※住所および電話番号は変更になる場合があります。



ヤマハ株式会社
ピアノ事業部国内営業部
〒430-8650 浜松市中沢町10-1
TEL. 053 (460) 2181
カタログコードPPT-402